盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡　平成５～12年度調査報告①

大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡

独立行政法人都市再生機構

盛岡市・盛岡市教育委員会

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡　平成５～12年度調査報告①

大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡

独立行政法人都市再生機構

盛岡市・盛岡市教育委員会

序

盛岡市は，東北地方東部を縦断する北上川とその支流である雫石川・中津川の三河川が合流し，雄大な岩手山や姫神山を望む約30万の人口を抱える岩手県の県都です。

この市街地の南西部，雫石川の南に広がる地域に職住近接の新市街地を形成しようというのが盛南開発構想で，全体計画の７割に当たる313.5ヘクタールを整備するのが盛岡南新都市開発整備事業です。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で，平成３年12月に事業認可をうけております。都市再生機構では盛岡都市開発事務所（現 岩手都市開発事務所）を平成４年１月に開設，土地区画整理事業の整備手法により，平成7年11月に着工しました。

それにともない，当該区域内に所在する16遺跡，全約90 ha のうち盛岡南新都市開発整備事業によって消滅する遺跡の発掘調査を，平成５年度から当市教育委員会と財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行っており，現在もなお継続しているところであります。

本報告書は，当市教育委員会が平成５年度から同12年度まで実施した発掘調査のうち，小幅遺跡・大宮北遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡の調査成果について報告するものです。事業は現在も継続中ではありますが，平成12年12月に当市文化財調査室が全焼するという被害を受け調査資料も罹災したことから，残存する資料をもって報告するものです。

本書は，資料の呈示を意図してまとめたものですが，市民の皆様をはじめ，各学校や関係機関・研究者等の方々に当該地域の歴史を知るためにご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが，発掘調査を実施するにあたり，多大なるご協力やご指導を賜りました独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所ならびに岩手県教育委員会生涯学習文化課，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対して，深く感謝を申し上げるとともに，ご理解とご協力を頂いた地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年３月

盛岡市教育委員会
教育長 八巻 恒雄

例　言

1　本書は，「盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡　平成５～12年度調査報告①　大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡」である。本書は，岩手県盛岡市本宮・向中野・南仙北・飯岡新田に所在する盛南地区遺跡群において，「盛岡南新都市開発整備事業」及び関係事業に伴い平成５年度から12年度に実施した発掘調査の報告書である。なお，「盛南地区遺跡群」の名称については，事業区域内に所在する計17遺跡を包括する総称として使用している。

2　本書の編集執筆は今野公顕があたり，各職員と協議して編集した。

3　遺構平面位置は，日本測地系　平面直角座標Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は日本測地系　第Ｘ系に準じる。

・調査座標原点　Ｘ－35,000.000　Ｙ＋23,700.000　→　ＲＸ±0.000　ＲＹ＋0.000

4　高さは標高値をそのまま使用している。

5　土層図は堆積のしかたを重視し，線の太さを使い分けた。土層注記は層毎ごとに本分でふれ，個々の層位については割愛した。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（1994小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。

6　遺構記号・番号は次のとおりとした。

竪穴住居跡：ＲＡ，建物跡：ＲＢ，柱列跡：ＲＣ，土坑：ＲＤ，竪穴建物跡：ＲＥ，

焼土遺構：ＲＦ，溝跡：ＲＧ，配石・集石遺構：ＲＨ，井戸：ＲＩ，埋設土器：ＲＰ，

古墳・円形周溝など：ＲＸ，土坑墓：ＲＺ，

7　平面図は遺構によって，線種を以下のように使い分けた。

遺　構	実線　　破線
時期差のある遺構	一点鎖点

8　古代の竪穴住居跡のカマド方向は，カマド本体中心(炊き口)から煙道先端(煙出し)を結んだ線の方向の傾きとした。建物の棟方向は，建築時に意図したと考えられる棟の方向をあらわし，両妻の棟持柱の中心を結んだ線，もしくは両妻の中間点を結んだ線の方向の傾きを示した。

9　古代の土器区分は，土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。

「あかやき土器」の名称は，ロクロ使用の酸化炎焼成土器（坏類，甕類，鉢）に使用し，内面黒色処理の坏類はロクロ使用でも土師器に分類した。

10　発掘調査にともなう出土遺物および諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管している。

11　平成12年12月24日未明に発生した盛岡市教育委員会文化財調査室火災により，平成12年度までの調査資料が罹災した。本書は残存する資料および復元した資料をもって編集した。なお，本件の詳細については，『盛岡市遺跡の学び館平成16年度館報』（2006）にて報告を行っている。

12　調査成果の一部については，『現地説明会資料』などに報告しているが，本書の記載内容をもって訂正する。

13　遺物の実測は，その一部を株式会社タックエンジニアリングに委託した。

＜財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（本報告）＞

1995年３月『本宮熊堂Ｂ遺跡第1次発掘調査報告書　盛南開発事業関連遺跡発掘調査　』第226集

1996年３月『小幅遺跡第２次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業―』第244集

1996年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成７年度）』第246集〔小幅遺跡６次〕

1996年11月『小幅遺跡第２次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第265集

1997年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成8年度）』第266集〔宮沢遺跡４次，本宮熊堂Ａ遺跡７次〕

1998年３月『小幅遺跡第５次・第７次発掘調査報告書―盛岡西バイパス建設事業関連発掘調査―』第267集

1998年３月『大宮北遺跡・本宮熊堂Ａ遺跡発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第265集〔大宮北遺跡４次，本宮熊堂Ａ遺跡６次〕

1998年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成９年度）』第282集〔船岡遺跡３次，野古Ａ遺跡９次・10次〕

1999年３月『熊堂Ｂ遺跡第５次・台太郎遺跡第16次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第293集

1999年１月『本宮熊堂Ｂ遺跡第４次・鬼柳Ａ遺跡第４次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第308集

1999年３月『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第309集

1999年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成10年度）』第311集〔板岡才川遺跡２次〕

2000年１月『向中野館遺跡第３次・小幅遺跡第10次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第388集

2000年３月『向中野館遺跡第４次・小幅遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第321集

2000年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成11年度）』第340集〔小幅遺跡13次・14次〕

2001年３月『台太郎遺跡第22次発掘調査報告書―盛岡東警察署警察官待機宿舎建設事業関連発掘調査―』第365集

2001年３月『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第369集

2001年３月『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第416集

2002年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成12年度）』第370集〔鬼柳Ａ遺跡７次，本宮熊堂Ｂ遺跡９次・11次，小幅遺跡15次・16次，板岡才川遺跡４次〕

2002年２月『熊堂Ｂ遺跡第10次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第377集

2002年３月『飯岡才川遺跡第３次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第393集

2002年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度）』第397集〔台太郎遺跡36次，細谷地遺跡６次〕

2003年３月『台太郎遺跡第23次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第415集

2003年３月『台太郎遺跡第35次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第417集

2003年３月『台太郎遺跡第44次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第422集

2003年３月『細谷地遺跡発掘調査報告書―第４・５次調査―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査』第414集

2003年３月『飯岡沢田遺跡第３次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第418集

2003年３月『飯岡沢田遺跡第５次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第419集

2003年３月『野古Ａ遺跡第12次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第420集

2003年３月『野古Ａ遺跡第15次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第421集

2003年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成14年度）』第423集〔矢巾遺跡４次，根岸遺跡５次〕

2004年２月『矢巾遺跡第３次・熊堂Ｂ遺跡発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第451集

2004年３月『本宮熊堂Ａ遺跡第17次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第453集

2004年３月『細谷地遺跡第８次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第454集

2004年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成15年度）』第455集（稲荷遺跡６次，本宮熊堂Ｂ遺跡19次，台太郎502次・52次，野古Ａ遺跡19次・30次，飯岡才川遺跡５次・６次，細谷地遺跡７次）

2004年12月『本宮熊堂Ｂ遺跡第13・15・20次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第467集

2005年２月『本宮熊堂Ｂ遺跡第18次発掘調査報告書―国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査―』第458集

2005年２月『台太郎遺跡第51次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第468集

2005年３月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成16年度）』第469集（稲荷遺跡８・）次，台太郎遺跡53次，矢盛遺跡５次）

2005年12月『矢盛遺跡第６次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第488集

2006年２月『飯岡沢田遺跡第９・10次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第489集

2006年２月『本宮熊堂Ａ遺跡第24次・本宮熊堂Ｂ遺跡第25次発掘調査報告書―一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査　』第470集

2006年３月『台太郎遺跡第54次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第486集

2006年３月『本宮熊堂Ｂ遺跡第27次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第487集

2006年３月『平成17年度発掘調査報告書』第490集〔宮沢遺跡11次，本宮熊堂Ｂ遺跡30次・31次〕

2007年２月『飯岡才川遺跡第８・９次発掘調査報告書　盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第494集

2007年３月『細谷地遺跡第９次・第10次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第500集

2007年２月『野古Ａ遺跡第23・24・29次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第501集

2007年３月『本宮熊堂Ａ遺跡第26・29次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査　』第502集

2007年３月『向中野館遺跡第５・６次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第503集

2007年２月『向中野館遺跡第７・８次発掘調査報告書―盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査―』第504集

＜盛岡市教育委員会＞

1998年３月『盛岡市埋蔵文化財調査年報　平成５・６年度―』〔滝仙北遺跡12・13・14次〕

2002年３月『盛岡市内遺跡群―平成13年度発掘調査報告―』〔台太郎遺跡40・41次〕

2005年３月『盛岡市内遺跡群―平成15年度・16年度発掘調査報告―』〔台太郎遺跡55次〕

2007年３月『盛岡地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ―平成５～12年度調査報告①―大宮北遺跡・小鳴遺跡・宮沢遺跡・光榮Ａ遺跡』

目　次

序

例言

Ⅰ　経過
1　調査に至る経過 …… 1
2　発掘調査作業の経過 …… 2
3　整理作業の経過 …… 2
4　調査体制 …… 8

Ⅱ　遺跡群の位置と環境
1　地理的環境 …… 9
2　歴史的環境 …… 10

Ⅲ　調査成果
1　大宮北遺跡（第3・5・6・7・8・9次調査）‥ 12
2　小幅遺跡（第1・3・8・9・12・17次調査）‥ 21
3　宮沢遺跡（第5次調査）……107
4　鬼柳A遺跡（第5次調査）……109

Ⅳ　まとめ
1　各調査成果のまとめ ……111
2　大宮北遺跡出土上器について ……113

Ⅴ　写真図版 ……119

報告書抄録 ……125

表　目　次

第1表　盛南地区遺跡群発掘調査一覧 …… 3
第2表　小幅遺跡　掘立柱建物跡一覧 …… 54
第3表　小幅遺跡　土坑一覧（1） …… 70
第4表　小幅遺跡　土坑一覧（2） …… 71
第5表　大宮北遺跡　出土土器一覧 ……116
第6表　小幅遺跡　出土上器一覧 ……118

挿図目次

第1図　地形分類と遺跡分布図（1：100,000） …… 9
第2図　盛南地区周辺の遺跡分布図（スケールフリー） ……11
第3図　大宮北遺跡全体図（1：4,000） ……12
第4図　大宮北遺跡第5次調査全体図（1：400） ……13
第5図　大宮北遺跡第8次調査全体図（1：200） ……15
第6図　大宮北遺跡第8次調査 KD006 土坑出土遺物（1：3） ……18
第7図　大宮北遺跡第8次調査 KD007・008 土坑出土遺物（1：3） ……19
第8図　大宮北遺跡第8次調査ピット，遺構外出土遺物（1：3） ……20
第9図　小幅遺跡・宮沢遺跡全体図（1：3,000） ……22
第10図　小幅遺跡 RA041 竪穴住居跡 ……23
第11図　小幅遺跡 RA019 竪穴住居跡平面図，断面図 ……24
第12図　小幅遺跡 RA019 竪穴住居跡断面図 ……25
第13図　小幅遺跡 RA019 竪穴住居跡出土遺物 ……25
第14図　小幅遺跡 RA020 竪穴住居跡 ……26
第15図　小幅遺跡 RA020 竪穴住居跡出土遺物 ……27
第16図　小幅遺跡 RA021 竪穴住居跡平面図 ……28
第17図　小幅遺跡 RA021 竪穴住居跡断面図 ……29
第18図　小幅遺跡 RA022 竪穴住居跡 ……30
第19図　小幅遺跡 RA023 竪穴住居跡 ……31
第20図　小幅遺跡 RA023 竪穴住居跡出土遺物 ……32
第21図　小幅遺跡 RA024 竪穴住居跡 ……33
第22図　小幅遺跡 RA024 竪穴住居跡出土遺物 ……33
第23図　小幅遺跡 RA025 竪穴住居跡平面図 ……34
第24図　小幅遺跡 RA026 竪穴住居跡出土遺物 ……34
第25図　小幅遺跡 RA026 竪穴住居跡 ……35
第26図　小幅遺跡 RA027 竪穴住居跡平面図 ……37
第27図　小幅遺跡 RA027 竪穴住居跡断面図 ……38
第28図　小幅遺跡 RA027 竪穴住居跡出土遺物 ……39
第29図　小幅遺跡 RA028 竪穴住居跡 ……40
第30図　小幅遺跡 RA028 竪穴住居跡出土遺物 ……40
第31図　小幅遺跡 RA029 竪穴住居跡 ……42
第32図　小幅遺跡 RA030 竪穴住居跡 ……43
第33図　小幅遺跡 RA031 竪穴住居跡 ……44
第34図　小幅遺跡 RA029 竪穴住居跡出土遺物 ……45
第35図　小幅遺跡 RA030 竪穴住居跡出土遺物 ……45
第36図　小幅遺跡 RA031 竪穴住居跡出土遺物 ……45
第37図　小幅遺跡 RA039 竪穴住居跡 ……46
第38図　小幅遺跡 RA039 竪穴住居跡出土遺物 ……46
第39図　小幅遺跡 RS015 掘立柱建物跡，KD002，003，004 柱列跡平面図 ‥47
第40図　小幅遺跡 RS015 掘立柱建物跡，KD002，003，004 柱列跡断面図 ‥48
第41図　小幅遺跡 RS016，017 掘立柱建物跡平面図 ……49
第42図　小幅遺跡 RS016，017 掘立柱建物跡断面図 ……49
第43図　小幅遺跡 RS018 掘立柱建物跡 ……51
第44図　小幅遺跡 RS019，020 掘立柱建物跡 ……51
第45図　小幅遺跡 RS021 掘立柱建物跡 ……52
第46図　小幅遺跡 RS023 掘立柱建物跡 ……52
第47図　小幅遺跡 RS023 掘立柱建物跡 ……53
第48図　小幅遺跡 RS027，028，029 掘立柱建物跡平面図 ……55
第49図　小幅遺跡 RS027，028，029 掘立柱建物跡断面図 ……56
第50図　小幅遺跡 RS030，031 掘立柱建物跡 ……57

第51図　小幅遺跡 RD032 掘立柱建物跡 …… 58
第52図　小幅遺跡 RD034 竪穴建物跡 …… 59
第53図　小幅遺跡 RD35, 036, 037 竪穴建物跡 …… 61
第54図　小幅遺跡 RD38 竪穴建物跡 …… 62
第55図　小幅遺跡 RD39 竪穴建物跡 …… 63
第56図　小幅遺跡 RD40, 041, 042 竪穴建物跡 …… 64
第57図　小幅遺跡 RD06, 007 井戸跡 …… 66
第58図　小幅遺跡 RD08 井戸跡 …… 67
第59図　小幅遺跡 RD38 円形周溝 …… 68
第60図　小幅遺跡 RD32 円形周溝 …… 69
第61図　小幅遺跡 RD40 円形周溝 …… 69
第62図　小幅遺跡 RD227, 228, 229, 230, 231, 232 土坑 …… 72
第63図　小幅遺跡 RD233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240 土坑 …… 73
第64図　小幅遺跡 RD241, 242, 243, 244 土坑 …… 74
第65図　小幅遺跡 RD245, 246, 247, 248, 249, 250, 251 土坑 …… 75
第66図　小幅遺跡 RD253, 254, 255, 256, 257, 258, 259 土坑 …… 76
第67図　小幅遺跡 RD260, 261, 262, 263, 264, 265 土坑 …… 77
第68図　小幅遺跡 RD266, 267, 268, 269, 270 土坑 …… 78
第69図　小幅遺跡 RD271, 272, 273, 274, 275 土坑 …… 79
第70図　小幅遺跡 RD276, 277, 278, 279, 280 土坑 …… 80
第71図　小幅遺跡 RD281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288 土坑 …… 81
第72図　小幅遺跡 RD289, 290, 291, 292, 293, 294 土坑 …… 82
第73図　小幅遺跡 RD295, 296 土坑平面図 …… 83
第74図　小幅遺跡 RD295, 296 土坑断面図 …… 84
第75図　小幅遺跡 RD297, 298, 299, 300, 301, 302, 303 土坑 …… 85
第76図　小幅遺跡 RD304, 305, 306, 307, 308, 309, 310 土坑 …… 86
第77図　小幅遺跡 RD311, 312, 313, 314, 315, 316, 317 土坑 …… 87
第78図　小幅遺跡 RD318, 319, 320, 321, 322, 323, 324 土坑 …… 88
第79図　小幅遺跡 RD325, 326, 327, 328 土坑 …… 89
第80図　小幅遺跡 RD329, 330, 331, 332, 333 土坑 …… 90
第81図　小幅遺跡 RD355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363 土坑 91
第82図　小幅遺跡 RD018, 019, 020, 024, 025, 026, 027 土坑 …… 92
第83図　小幅遺跡 RD028, 029, 030, 031 土坑 …… 93
第84図　小幅遺跡 RD033, 034, 035, 036, 037, 038 土坑 …… 94
第85図　小幅遺跡A～E区全体図（1），溝跡，小ピット …… 96
第86図　小幅遺跡A～E区全体図（2），溝跡，小ピット …… 97
第87図　小幅遺跡A～E区全体図（3），溝跡，小ピット …… 98
第88図　小幅遺跡A～E区全体図（4），溝跡，小ピット …… 99
第89図　小幅遺跡F区溝跡，小ピット …… 100
第90図　小幅遺跡G区溝跡，小ピット …… 101
第91図　小幅遺跡H区，I区溝跡，小ピット …… 102
第92図　小幅遺跡J区，12次調査溝跡，小ピット …… 103
第93図　小幅遺跡小ピット断面図（1） …… 104
第94図　小幅遺跡小ピット断面図（2） …… 105
第95図　小幅遺跡 RD32 円形周溝，RD315, 355 土坑 RD129 溝跡，小ピット出土遺物 …… 106
第96図　宮沢遺跡第5次調査全体図（1：400） …… 107
第97図　宮沢遺跡 RD018 溝跡 …… 108
第98図　鬼柳A遺跡全体図（1：4,000） …… 109
第99図　鬼柳A遺跡第5次調査全体図 …… 110
第100図　鬼柳A遺跡 RD01 竪穴建物跡 …… 110
第101図　大宮北遺跡および10世紀代の土器（1：6） …… 115

写真図版目次

第1図版
大宮北遺跡第8次調査区（西から）
大宮北遺跡第8次調査区（東から）
大宮北遺跡第8次調査区（RB002・003東から）
大宮北遺跡第8次調査区（RB005・006・007北から）
小幅遺跡第17次調査区（北東から）
小幅遺跡第17次調査区（南から）
小幅遺跡第17次調査区（RA039竪穴住居跡　東から）
小幅遺跡第17次調査区（RX032円形周溝　北から）

第2図版
大宮北遺跡第8次調査　出土土器（1）
RD008　6図3，同4図3墨書，同6図6，同6図6底面，同6図8，同6図15，同6図21，検出面8図52，RD008　7図29，同7図31，

第3図版
大宮北遺跡第8次調査　出土土器（2）
RD008　7図32，同7図34，同7図35，同7図41，同7図42，同7図42底面
小幅遺跡　出土土器（1）
RA020　15図10，同15図11，同15図12，同15図13

第4図版
小幅遺跡　出土土器（2）
RA023　20図2，RA024　22図2，同22図3，RA026　24図1，RA027　28図1，同28図4，同28図5，同28図6，RA029　34図3，同34図4

第5図版
小幅遺跡　出土土器（3）
RA030　35図1，同35図2，同35図4，RA031　36図1，同36図3，RA039　38図1，同38図2，C24-T20　Pit2　95図5，

Ⅰ　経過

1　調査に至る経過

盛岡南新都市開発整備事業は，北東北の中核都市および県都として担うべき都市機能の充実を図るため，既成市街地南西部に新市街地を開発整備し，既成市街地・盛岡駅西口地区・盛岡南地区を結ぶ軸状都心を形成することで，都市構造をよりよく改めようと策定された土地区画整理事業である。平成２年９月に岩手県・盛岡市・都南村（現盛岡市）の３者が，地域振興整備公団（平成16年７月　独立行政法人都市再生機構に改組）に対して事業申請を行い，地域振興整備公団は実施計画を作成，翌平成３年12月に建設大臣および国土庁長官から実施許可が下り，事業が開始された。

埋蔵文化財の取り扱いは，昭和50年の国土庁長官・建設省からの行政指導に則して，地域振興整備公団と岩手県・盛岡市・都南村は「覚書」およびその「確認書」において以下のように取り交わしている。

・盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書（平成３年12月11日）　　記の７（３）

県，市及び村は，環境の保全及び文化財の保護につき，協力して所要の調整を行い，事業の推進を図るものとする。

・盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書の確認書（平成３年12月11日）　記の５

「覚書」の記の７の（３）の文化財保護における埋蔵文化財発掘調査について，国庫補助事業及び公共施設管理者負担金の対象となる都市計画道路に係る敷地の調査については，公団が県，市及び村に委託するものとし，その他の敷地については市及び村において調査するものとする。

このため，県，市及び村は，土地区画整理事業の認可までに，公団からの委託分を含めた埋蔵文化財発掘調査計画を立案し，これを県，市，村及び公団で確認の上，他機関への委託を含めた調査の実施に必要な体制を確保することにより，事業の円滑な推進を図るものとする。

なお，事業のスケジュールが調査実施者の都合により遅延した場合には，県，市及び村は，適切な方策を講ずるものとする。

協議の結果，遺跡の要調査範囲を確定する試掘調査を盛岡市教育委員会が実施し，それを受けての本調査を市，村及び公団から委託を受けて財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施するものとなった。

しかし，調査面積が広大であることから平成10年度以降は市教育委員会も本調査を実施，平成11年度からは市教育委員会も公団と受託契約を締結し，(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターと市教育委員会の両者が実施してきた。

2　発掘調査作業の経過

盛岡南新都市開発整備事業にともなう埋蔵文化財の発掘調査は，第１表のとおり平成４年度から継続して実施している。

区画整理事業の工事計画や進捗にあわせて，埋蔵文化財包蔵地の範囲確認や遺構密度を確認するための試掘調査を本調査の前に実施し，その成果を受けて効率的な本調査を実施できるようにしている。しかし，地権者との交渉や農地補償の問題から，本調査対象の全面積を試掘調査できているわけではない。

3　整理作業の経過

当市教育委員会が，本事業の本調査を始めたのは，平成10年度からである。また平成11年度からは地域振興整備公団と発掘調査の受託契約を締結し公団施工範囲（都市計画道路分）の調査も実施してきた。この際は，予算措置が取れなかったことや人的な要因によって，年度ごとの報告書刊行は視野に入れず，報告書刊行は本報告として事業終了後に行うものとし，年度内はその基礎整理のみを行ってきた。

平成12年12月24日午前０時30分頃，市立厨川小学校敷地内にある文化財調査室にて漏電によるものと考えられる火災が発生し，昭和30年に建設された老朽化した木造２階建ての旧校舎であったこともあり，消火活動の甲斐もなく全焼した。当市教育委員会では昭和57年度から文化財調査室として埋蔵文化財資料整理・収蔵保管の拠点として使用してきた場所である。

当然，本事業の発掘調査成果（図面・写真・出土資料の一部）も収蔵されており，調査成果の復元もきわめて難しいものとなった。

それを受け，文化庁から埋蔵文化財センター建設事業（国庫補助）について打診を受け，平成16年６月に，盛岡市中央公園内に「盛岡市遺跡の学び館」として埋蔵文化財の資料整理・収蔵管理の拠点を設けるに至った。その間，本事業にともなう発掘調査と基礎整理作業および罹災した資料の復元作業を継続して行い，平成18年度に予算の計上および独立行政法人都市再生機構との報告書作成業務委託を締結し，本書を刊行するに至った。

報告書を刊行するに当たり，以下の指針をもって実施することとした。

① 平成５～12年度に調査し，罹災した資料の速やかな再整理と報告書の刊行。
② 平成５～12年度度の調査は，面積も広大で，かつ膨大な量の資料が罹災したこともあり，１冊の報告書として報告することは，人的・予算的に難しいため，３冊程度に分冊し優先的に報告する。
③ 平成13年度以降事業終了年度までの調査成果は，平成５～12年度報告終了後に，数遺跡ずつをまとめて３～４冊程度に分冊のうえ報告すること。

本報告書は，上記指針に基づく１冊目の報告書である。なお，報告にあたっては，罹災し復元不可能な部分はその旨を明記した表現を行っている。

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	調査主体	発掘者	開発原因	面積(㎡)	報告出版期間	検出遺構	検出遺物	遺構検索もしくは遺構番号(*は遺構名・または遺構番)													備考
												弘道館	那珂湊	比毛城	松之郷	松原遺跡	那珂	市毛古墳	引井川	松之郷	引井川	比之郷	引井川	比之郷	
小屋	OKA	1	H5	試掘	市教委	市	道路関連	5,379	98.11.11-11.28	なし															
		2	H8	本調査	県センター	市	道路関連	13,548	94.04.18-08.10	RA8, RB3, RD110, RE13, RF10, RG25, RH1, RI1	鉄24集	001-006	001-003		001-110	001-013	001-010	001-023	001-001	001-001					
		3	〃	試掘	市教委	市	道路関連	2,282	94.04.11-12.09	RD 遺か															
		4	H7	本調査	県センター	市	道路関連	14,134	95.04.07-09.06	RA12, RB7, RC1, RD54, RE1, 2, RF2, RG26, R14, R27	鉄265集	001-018	004-010	001-	*110-173	014-025	011-012	030-055			002-005	*002-008	RD110遺構、R2091不明	
		5	〃	本調査	県センター	開発局	西バイパス	2,000	95.09.11-11.6	RE2, RD15, RE2, RG15, RZ	鉄267集		011-012		176, 179, 183, 184, 185, 189, 191, 192, 195, 198, 201, 206, 207-209	030-031		057, 058, 060, 066 *058, 071, 073, 074 B-089			010-014	5・7次一体調査	
		6	〃	本調査	県センター	公園	植樹防災	900	96.09.11-11.15	RB3, RD1, RG3	鉄246集		03, 10		176-178			61, 62, 64						
		7	H9	本調査	県センター	建設省	西バイパス	2,300	96.09.17-10.28	RB3, RD12, RE2, R95, RZ, RF11	鉄267集		013-014		210-212, 218-226	032-033		082-086			015-017			
		8	H10	本調査	市教委	市	宅地関連	11,656	98.04.05-11.06	RA14, R97, RD210, R67, R9, R8, R13, P11	鉄高解告	14	7		210	7		39		3		墓室時は9次		
		9	〃	本調査	市教委	市	都市計画	500	98.11.01-11.30	RD1, R51	鉄原報告				1			1				墓室時は10次		
		10	〃	本調査	県センター	市	海岸保全区	625	98.08.17-10.06	RA12, R05, R33, R22	鉄338集				343-347			128-130			021-022	本時点で次数・番号変更・時報では8次・報告では9次		
		11	〃	本調査	県センター	公園	植樹防災	815			鉄321集														
		12	H11	本調査	市教委	市・公園	道路関連	460	99.09.09-09.30	R23, R33	鉄高解告				355-357			136-139						
		13	〃	本調査	県センター	公園	植樹防災	558	99.04.07-04.30	R03, R52, R61, R21	鉄340集				352-354	042-043		136-135			023-023			
		14	〃	本調査	県センター	公園	道路関連	320	99.05.01-05.18																
		15	H12	本調査	県センター	市	道路防災																		
		16	〃	本調査	県センター	公園	道路関連																		
		17	〃	本調査	市教委	個人	結婚祝会所	369	00.05.09-06.29	RA2, R62, R66, R67	結婚報告	039, 024(R2)	2		6			7				個人住宅		
		18	H13	本調査	市教委	市	都市計画			なし	結婚報告														
		19	〃	試掘	県センター	市	西バイパス																		
		20	〃	試掘	県センター	公園	西バイパス																		
		21	H17	本調査	市教委	市	道路関連	317	05.05.23-06.03	R63, R62, R23, P17	結果報告		024-026		364-365,			140-142						
		22	H18	本調査	市教委	市	道路防災	182	06.08.21-08.29	R81, R81, R21, P17	結果報告		027,		366,			143,						
大室北	OKK	3	H5	試掘	市教委	個人	住宅	41	93.07.13-07.13	なし	結果報告														
		4	H8	本調査	県センター	市	道路防災	3,900	96.04.05-05.24	RA2, R05, R62, R72, R910, R21	鉄281集	001-002			001-006	001-002	001-002	001-010			001-001			
		5	H10	本調査	市教委	個人	下水道管渠	768	98.09.01-09.07	R63, P11	結果報告							011-013						
		6	H11	試掘	市教委	市	道路関連	120	99.11.17-11.17	なし	結果報告														
		7	H12	試掘	市教委	市	道路関連	372	00.05.23	なし	結果報告														
		8	〃	本調査	市教委	個人	結婚式場	500	00.06.02-07.10	R87, R62, R51	結果報告		021-007		067-068			014-014				個人住宅		
		9	〃	本調査	市教委	市	道路関連	782	00.06.23-06.01	R069	結果報告				069-068										
		10	H13	本調査	市教委	市	道路関連			なし	結果報告														
宮沢	OKZ	3	H8	試掘	市教委	市	道路防災	6,534	94.04.11-04.22	RA 遺か	結果報告														
		3	H8	本調査	県センター	市	道路関連	4,609	96.05.22-07.02		報 280 集														
		4	〃	本調査	県センター	公園	道路関連	700	96.06.03-06.28	RG14	報 285 集							*001-014							
		5	H11	本調査	市教委	市	道路関連	1,529	99.04.21-05.18	R91	結果報告							018-018,							
		6	H13	本調査	市教委	市	道路関連	43	01.11.30	なし	結果報告														
		7	H14	本調査	市教委	市	道路関連	258	02.04.17	なし	結果報告														
		8	〃	本調査	市教委	市	道路関連	844	02.11.18-12.10	RA3, R63, R66	結果報告	001-003			001-003			019-023,						
		9	H15	本調査	市教委	市	道路防災	1,080	03.06.09-07.17	RA3, R61, R64, R51,	結果報告	004-005	001		004-007			024,						
		10	H16	本調査	市教委	市	道路関連	2,860	04.12.09	なし	結果報告														
		11	H17	本調査	県センター	市	道路関連	1,881	06.07.07-07.32	R81	報 400 集		002,												
		12	H18	本調査	市教委	市	道路関連	1,450	06.07.28-22-29	R62	結果報告							025-028,							
		13	H19	本調査	市教委	市	道路関連	3,220	07.09.12	なし	結果報告														
鬼砦 A	OSA	1	H5	試掘	市教委	個人	宅地分譲住宅	100	93.08.18-08.18	なし	結果報告														
		2	H6	試掘	市教委	市	道路関連	1,200	94.11.07-12.09	RD 遺か	結果報告														
		3	H8	試掘	市教委	市	道路防災	1,461	96.05.08-06.10	RA 遺か	結果報告														
		4	H9	本調査	県センター	市	道路防災	4,614	97.04.04-05.30	RA2, R21, R27	報 305 集	001-007			001-001						001-007			
		5	H11	本調査	市教委	市	道路防災	1,171	99.07.22-08.10	R01, R21, R91	結果報告				002,		001-001		001-001					
		6	H12	試掘	市教委	個人	住宅	260	00.06.12-06.13	なし	結果報告														
		7	〃	本調査	県センター	開発公社	宅地開発	3,194	00.04.12-07.14	RA2, R81, R09, R64	報 370 集	009-006	001,		009-015			002-005						
		8	H13	本調査	市教委	市	道路防災			なし	結果報告														
稲荷	OIN	1	H8	試掘	市教委	市	道路関連	2,163	94.03.30-11.07	RD 遺か	結果報告														
		2	H8	試掘	市教委	市	道路防災	518	96.04.22-04.22	RD 遺か	結果報告														
		3	H9	本調査	県センター	市	道路関連	1,088	97.05.12-05.30	R92	報 382 集							001-002							
		4	H13	本調査	市教委	市・公園	道路関連			なし	結果報告														
		5	H14	本調査	県センター	市・公園	道路関連						001	001	-018			003,						
		6	H15	本調査	県センター	市・公園	道路関連					001,			016-017,			004,						
		7	〃	本調査	市教委	市	道路防災	5,834	03.04.14-05.02	R66,	結果報告							001, 002, 005,				R001, 02143次調査との連続部分		
		8	H16	本調査	県センター	都市機構	宅地開発	290	04.10.18-10.29	なし															
		9	〃	本調査	県センター	市	道路防災	7,995	04.09.01-11.01	R62, R02			002-003,		018-019,										
		10	〃	本調査	市教委	市	道路関連	721	04.10.20-10.22	R61	結果報告							001,				R001は、結果報告書からの編集			
		11	〃	本調査	市教委	市	道路関連	236	04.12.13	なし	結果報告														
		12	H16	本調査	市教委	市	道路関連		8	なし	結果報告														

遺跡名	箱号	次数	年度	調査方法	調査主体	所在地	調査原因	面積(㎡)	報告書掲載図	検出遺構	時代区分	遺物番号	縄文土器	弥生土器	須恵器	土師器	陶器	瓦	石器	石製品	石	木	瓦	金属	土	木	瓦	その他	備考
本宮熊野遺跡 B	OK2	11	H4	試掘	市教委	市	道路敷設																						
		1	H5	本調査	県トヤー	市	道路関連	14,400	S8.04.07-09.12	RA6, RB2, RC8, RD33, RE12	近 726 墓	001-009		001-052		001-003	001-033					001-012							熊笹地は次数連続・番号別々
		3	H7	試掘	市教委	市	道路敷設	2,799	S6.09.19-09.21	RA 遺か	縄文時代						-												
		14	H8	試掘	市教委	市	道路敷設	3,422	98.04.23-05.27	RA 遺か	縄文時代																		
		4	H9	本調査	県トヤー	市	道路関連	4,191	97.07.01-10.22	RA16, RB1, RD26, RE8, RE4,	墓 306	010-024		003-003			005-059		001-006			013-016			001-001	001-007		一体調査
		5	〃	本調査	県公営	市	道路敷設	2,910	97.09.18-10.15	R11, R27	墓 303 墓											*070-074							
		6	H11	本調査	県トヤー	市	道路関連	1,230	99.06.10-06.30	R20	縄文時代																		番号欠番不明
		8	H12	本調査	県トヤー	市	道路敷設	3,230	00.04.14-05.14	武器																			
		10	〃	本調査	県トヤー	公団	道路関連	3,235	00.04.14-06.14	RX2, RZ8, RZ10, RZ2	墓跡資料	025-026					062-068					076-086			009-010			管室
		11	〃	本調査	県トヤー	駐車場	道路敷設	3,230	00.04.14-05.14	RE1, RZ1																			
		12	〃	本調査	市教委	市	宅地関連	1,663	00.10.20-11.29	RA5, Lin	縄文時代																		
		13	H13	本調査	県トヤー	市	道路関連	3,751	01.06.01-10.31	RA5, RB8, RD11, RE1, RE6		033-041		004-011			069-079		010-016			085-090*							*墓壙？
		15	H14	本調査	県トヤー		道路関連																						
		16	〃	本調査	県トヤー		道路関連					-088					-130		-011			-105							
		18	H15	本調査	県トヤー	国交省	道路関連	8,452	03.04.11-05.30, 09.18-10.08	RA6, RB28, RE2, RE5, RZ1		069-073, 081					159-186		012-013			124-127, 097, 177			014				海は運輸(番号不明？)
		19	〃	本調査	県トヤー	公団	道路関連	97	03.09.01-09.30	RD5, RE7							154-158					088,						熊笹遺跡
		20	〃	本調査	県トヤー	市	道路敷設	10,216	03.4.11-10.17	RX22, RB1, RB37, RE2, RF1, RN26, RZ1		-080	012				080-153		014-015	001		-129			015-016		RA・RB連続あり、欠番様めあり。
		21	〃	本調査	県トヤー	市	道路敷設	1,285	03.06.05-06.19	RG2	縄文時代											126, 129,							
		23	〃	本調査	市教委	市	道路関連	3,425	03.10.20-12.05	RA2, RD1, RD13,	縄文時代	082-083					154,					011, 130-137,						RG連続あり	
		25	H16	本調査	県トヤー	国交省	道路敷設	7,360	04.06.01-11.22	RA43, RE2, RF2, RE45, RG5		50, 51, 54, 09 1~130,					191-217, 219-234,			002, 003		118, 138, 141-143,						RG連続あり	
		27	〃	本調査	県トヤー	市	道路関連	3,861	04.08.09-09.14	RA7, RE4, RE1, RG4,		084-090,					187-190,	018,				110, 138-140,						RG連続あり	
		28	〃	本調査	市教委	市	道路敷設	966	04.04.12-09.10	RA6, RB3, RE1, RG3,	縄文時代	093, 131-137,					218, 235-236,	017,				011, 138, 132						RG2全て番号又から選択	
		30	H17	本調査	県トヤー	駐車場	道路敷設	190	05.08.02-05.18	なし	縄文時代																		RG連続あり (RG12~RG084)
		31	〃	〃	〃	市	道路関連	2,412	05.04.12-05.31	RA1, RB1, RG1	墓 400 墓	138,					237,					144,						RG連続あり (RG12~RG084)
本宮熊野遺跡 A	OK2	2	H9	試掘	市教委	市	道路敷設	2,835	94.11.07-12.09	RD 遺か	縄縄時代																		
		15	H8	試掘	市教委	市	道路敷設	1,675	98.05.14-05.15	RD 遺か	縄文時代																		
		9	〃	本調査	県トヤー	市	道路敷設	19,110	96.07.03-10.24	RA1, RB1, RD22, RF7, RE66, RI16, RZ2	墓 281 墓	001-001					001-020				001-008	001-051			001-006	001-002		
		7	〃	本調査	県公営	公団	道路関連	3,800	96.09.02-10.23	8次調査と一体(ただし遺構番号は別々で報告)	墓 266 墓			001-001			*001-002				*001-001	*7集						番号重複
		14	H13	本調査	市教委	市	道路関連		02.01.22																				
		17	H15	本調査	県トヤー	市	道路関連	1,588	03.04.12-06.20	RA1, RB21, RF11, RZ2		002,					021-041,				007-017,	052-063,						
		22	〃	試掘	市教委	市	道路関連	215	03.07.29	Lin,	縄文時代																		
		24	H16	本調査	県トヤー	国交省	道路敷設	357	04.09.01-11.15	なし、ボ沢遺(縄文・古代)別表参																			縄文・古代包含層(旧河道)
		26	〃	本調査	県トヤー	市	道路関連	2,635	04.07.01-10.19	RA4, RB7, RE3, RF2, RS2, RH1		003-006					042-048		001-006	018-019		054-055		001.				
		29	H17	本調査	県トヤー	市	道路関連	263	05.08.01-08.30	RF3, RB3, RZ1	墓 503 墓										026-027	064,				003,		RD先遺跡あり
野古 A	OK	9	H5	試掘	市教委	個人	住宅	350	93.10.04-10.29	RA3, RB2, RD10, RG1, RZ2	平安時											001-001				001-002		野古地区次数連続・番号
		6	H6	本調査	市教委	個人	住宅	190	94.08.17-09.13		平安時	005-007		001-002			022-011											
		7	〃	試掘	市教委	市	道路敷設	2,602	94.11.07-12.09	RD 遺か	縄縄時代																		
		8	H8	試掘	市教委	市	道路関連	4,422	96.04.08-04.16	RA 遺か	縄文時代																		
		9	H9	本調査	県トヤー	市	道路敷設	11,820	97.05.28-09.30	RG3, RG5	墓 262 墓						012-014					002-004						
		10	〃	本調査	県トヤー	公団	道路関連	1,790	97.07.07-07.31	9次調査と一体	〃																		
		11	H12	本調査	市教委	市・公団	道路敷設	1,079	00.08.21-09.30	RA7, RE2, RE7	縄文時代	006-014					015-016					005-011						
		12	H13	本調査	県トヤー	市	道路敷設	8,224	01.06.08-11.12	RA27, RE47, RG8		015-040					017-063					012-017						
		13	〃	本調査	市教委	市	道路関連			なし																			
		14	〃	本調査	市教委	市	道路敷設			RG1												002*						*経済の連続
		15	H14	本調査	県トヤー	市・公団	道路関連					-063		-008			-083		001	001		-021				-004		
		16	〃	本調査	市教委	市	宅地関連	22	02.04.18	なし	縄縄時代																	
		17	〃	本調査	市教委	市・公団	道路敷設	320	02.09.11-11.25	なし	縄縄時代																	
		18	〃	本調査	市教委	市・公団	道路敷設	241	02.11.18-11.25	RA1, RE1,	縄文時代	054-055					064											
		19	H15	本調査	県トヤー	公団	道路敷設	1,687	03.06.12-10.28	RD4, RF3, RG2,							065-088,			002-004		022-023,						
		20	〃	本調査	県トヤー	市	道路関連	1,801	03.09.02-10.28	RD13, RG3,							089-095,					024-026,						
		21	〃	本調査	市教委	市	宅地開発	1,750	03.05.02-06.11	RA4, RD5 (5 B T-Pit 1), RG1	縄縄時代	056-058,					099-102,											
		22	〃	本調査	市教委	市	宅地開発	325	03.11.01-11.02	なし	縄縄時代																	
		23	H16	本調査	県トヤー	都市整備	宅地開発	2,059	01.10.01-11.01	RA3, RD5, RE1		059-062, 064, 066, 068, 070, 071					103-105, 108, 109					022,						
		24	〃	本調査	県トヤー	市	宅地開発	2,249	04.10.15-11.01	RA4, RD1, RG3		063, 065, 067, 069					107,					027-029						
		25	〃	本調査	市教委	市・公団	宅地開発	2,856	04.06.12-06.16	RA4, RD3	縄縄時代	072-075					109-111,											
		26	〃	本調査	市教委	個人	住宅	36	04.06.23	なし	縄縄時代																	国際福祉 市内家診療
		27	〃	本調査	市教委	市	宅地開発	926	04.08.27-09.30.11.25	なし	縄縄時代																	
		28	〃	本調査	市教委	市・個人	宅地・住宅	85	04.11.08	なし	縄縄時代																	
		29	H17	本調査	県トヤー	市	宅地開発	3,388	05.04.12-06.13	RA3, RB1, RE14, RE1, RZ2	墓 502 墓	000, 076-079, 004,					112-125,								005-006			

遺跡名	番号	次調	年度	調査方法	調査主体	関係者	調査原因	面積(㎡)	報告書遺跡名	検出遺構	検査番号	遺物番号 RA 縄文	RB 弥生	RC 古墳	須恵器	土師器	陶器	磁器	瓦	近世	近代	新	石	竹	木	その他	備考
台太郎	007	9	H5	試掘	市教委	個人		50	93.05.11-05.11	なし	年報																
		10	H7	試掘	市教委	市	道路関連	1,200	95.04.04-04-05	RA試9	発掘報告																
		11	〃	試掘	市教委	個人		320	95.06.18-06.27	なし	発掘報告																
		12	〃	試掘	市教委	市	都市関連	5,174	96.09.01-11.30	RA18ち	発掘報告																
		13	H8	試掘	市教委	市	道路関連	4,984	96.10.14-12.26	RA19ち	発掘報告																
		14	〃	本調査	市教委	個人		25	96.11.26-11.29	RA11, R61	発掘報告																
		15	H9	本調査	県センター	市	道路関連	12,900	97.04.04-11.26	RA08, RB4, RC2, RD60, RE4,	白3 398																
		16	〃	本調査	県センター	公団	都市関連	790	97.06.01-08.29	RA15, RE54, RE2	発 201	041-108	001-004	001-002	031-090		001-004	001-004	011-064					001-002		一体遺跡
		17	〃	試掘	市教委	個人	下水管	10	97.08.23-09.23	なし	発掘報告																
		18	H10	本調査	県センター	市	都市防災	28,404	98.04.15-11.20		年報																
		19	〃	本調査	県センター	公団	都市関連	4,765	98.07.07-09.31	RB4以上, RC1, RD21, RD12,	発 201	047-***	005-***		091-***		005-***	005-***	026-***					002-***		一体報告
		20	〃	本調査	市教委	個人	都市関連	1,400	98.09.17-12.21	RB4以上, RC1, RD21, RD12,	発掘報告																
		21	〃	試掘	市教委	個人	下水管	324	98.09.25-09.25	なし	発掘報告																
		22	H11	本調査	県センター	個人	都市関連	2,500	99.09.01-11.02	RA1, R61, RD13, RD13他,	年報																
		23	〃	本調査	県センター	市	都市関連	27,800	99.04.15-11.15	RA73, RB6, RE18, RD462, R	年報	***-303	***-032		***-635		***-045	***-052	***-291					***-024		
										464, RF35, RF19, RD96																	
		24	〃	本調査	市教委	市一般	道路関連	3,425	99.05.09-07.16	RA20, RB2, RD18, RD94,	発掘報告	304-323	*082-033		*635-852				*291-334							弥生川跡？
		25	〃	本調査	市教委	市一公団	道路関連	2,141	99.07.07-12.15	RA73, RB1, RD74, RE2, RE3	発掘報告	324-396	034-034		853-925		*049-047		335-357					025-025		弥生集落？
										3, RZ1																	
		26	H12	本調査	県センター	市	都市関連	14,229	00.04.19-10.31	RA75, RB9, RD125, RE3, RF	発掘報告	210, 214, 218,			586, 622, 628, 633											
										11, RE48, R13, RZ3		230, 232, 234,	031, 034-		-637, 639, 642-64											
												237, 281, 912,	041		5, 692, 829, 910, 9		48-50	024, 052-								
												316, 397-461			14, 919, 920, 922,			058,	***-358				011-013	023-028		
															923, 925-933, 935											
															-931, 933-937, 95											
															9-961, 971-999, 1											
															001-1038.											
		27	〃	本調査	市教委	市	宅地関連	2,513	00.06.12-11.14	RA28, RB29, RD22	発掘報告	73			22				29							国宝神27, 29次(25次調査分)
		28	〃	本調査	市教委	市一公団	都市関連	460	00.08.29-09.08	RA6, RD2, RD11, R61	発掘報告		005, 042		11				1							国宝神28次
		29	〃	本調査	市教委	個人	宅地関連	125	00.07.12-08.25	RA1, RD3	発掘報告				3											武芝神33次
		30	〃	本調査	市教委	市	都市関連	35	00.07.26-07.31	RE1, R61	発掘報告					1			1							飯倉遺31次
		31	〃	本調査	市教委	市	道路関連	128	00.08.01-08.08	RA2, RE1, R62	発掘報告				1				2							松内神32次
		32	〃	本調査	市教委	市一公団	都市関連	1,680	00.09.18-10.26	RA6, RD6, RE1, RD5, R12	発掘報告				8	1			5			014-015				飯倉神33, 35次(遺入路, 墳墓)
		33	〃	範囲確認	市教委	市	都市関連	664	00.09.22-10.13	RA3, R63	発掘報告				3											宮野神34次
		34	〃	配管保存	市教委	都市公	ガス→	156	00.11.20-11.22	RA2, RD18ち	発掘報告															飯倉地区外
	010	H13	本調査	県センター	市	都市関連	4,384	01.04.17-08.02	RA14, RD5, RD11, RF2, RE1,		507-622			796, 952, 958, 967,	063,	060-061,	330, 343-350, 401					029-030,			
										RZ1					958,		-402,									
		35	〃	本調査	県センター	公団	都市関連	290	01.05.22-06.05	RZ1, P174	発掘報告													029,		
		37	〃	本調査	市教委	市一公団	都市関連			RA1, RD6, R62	発掘報告	523,			859-963,				403, 404,							
		38	〃	本調査	市教委	市一公団	都市関連			なし	発掘報告															
		39	〃	本調査	市教委	市一公団	都市防災			RA12, RB1, RE10, RF1, RG1	発掘報告	524-635,	043,		964-973,			962,	405-423							
										g																
		40	〃	本調査	市教委	個人	住宅			RA3, R64, RE1, R612	発掘報告	536-638,			974-977,		064,		424-433							H13指導遺跡 青木遺跡群
		41	〃	本調査	市教委	個人	住宅			RA7, R64, R65	発掘報告	539-545,			978-981,				434-438							H13指導遺跡 市内遺跡群
		42	〃	本調査	市教委	市一公団	都市関連			RA1, R62, R63	発掘報告	546,			982-983,				439-441							
		43	〃	本調査	市教委	市一公団	道路関連			なし	発掘報告															武芝神社神宮台
		44	H14	本調査	市教委	市一公団	都市防災					-564	-048		-1076		-066	-064	442-466			016	-033			
	013	46	〃	本調査	市教委	市	道路関連	42	02.04.22	なし	発掘報告															
		48	〃	本調査	市教委	市公団	道路関連	1,918	02.05.07-06.09	RA13, RB8, RC1, RD87, RE4,	発掘報告	565-577	049-053	003	1077-1113		057-069		467-478							大溝801, 802(仮称名)
										RD11,																
		49	〃	本調査	市教委	市	道路防災	334	02.10.11-11.12	RD2,	発掘報告	576-579														
		47	〃	試掘	市教委	事業者	ガス→	483	02.11.06	なし	発掘報告															
		46	〃	配管保存	市教委	個人	店舗	329	02.11.21-11.22	RA12, RD3, RD6,	発掘報告															
		50	〃	試掘	市教委	事業者	ガス→	48	02.12.04-12.25	なし	発掘報告															
		50	H15	本調査	県センター	都市関連	道路防災	549	03.06.02-11.10	RD2, R62					1114-1115				487-489					60・61次一体調査		
		51	〃	本調査	県センター	市	道路防災	6,819	03.04.11-11.10	RA26, RD65, RE3, RF1, R62		580-609, 215,			1116-1180		062-064	065	490-503, 516, 543,		017,			堀の連続有り.		
										a, R11,		293							545, 598, 200, 201,							
																			222, 264, 265, 267,							
																			270, 318, 323, 487,							
																			489							
		52	〃	本調査	県センター	国交省	道路関連	585	03.08.01-09.03	RE1, R66							061		479-486							
		53	H16	本調査	県センター	都市関連	道路防災	240	04.05.06-09.02	RD1, R65					1185				493, 504, 505, 506							
		54	〃	本調査	県センター	市	道路防災	5,952	04.04.12-08.06	RA12, RE4, RD12, RD19		244, 604-612,			1181-1184, 1186-		065-066		200, 201, 224, 254,							
												614-615			1193				267, 326, 345, 486,							
																			507-517.							
		55	〃	本調査	市教委	個人	独用	293	04.06.07-07.09	RA1, RD12, R64, RC1, RE1	発掘報告	613,		004	1994-2022,		069,		198, 203, 518, 519,							
		56	H17	本調査	市教委	市	道路関連	160	05.06.20-08.21	RD1,	発掘報告				2004,											
		57	〃	〃	市教委	市	道路防災	971	05.06.06-08.05	RA6, RD2, RD7, RD8, RF1,	発掘報告	614-619	054-055		2005-2019				520-524							
		58	H18	本調査	県センター	市	道路関連	3,945	06.08.07-11.24	RA9, RB7, RD15, RE4, RG14		245, 287, 620	056-065	005-007	2011-2026		070-073		264, 273, 525-538					RA287, RG 弥生産遺跡あり		
												-628														

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	調査主体	遺構名	調査原因	面積(㎡)	弥生土器類型	検出遺構	報告書等	遺構番号しくは遺構名（*ばそ墳金・*まだ出土遺物有） RA 竪穴	掘 埋立	柱 抜列	柱 立柱	柱 建替え	柱 廃絶	柱 再建	柱 再戻	柱 その他	備考
向中田遺	OHN	1	H7	試掘	市教委	宅	個専開発	991	85.09.25-09.26	RA 法か	発掘報告										
		2	H8	試掘	市教委	宅	個専開発	119	96.11.14-11.15	RA 法か	発掘報告										
		3	H10	本調査	県センター	宅	集専開発	3,944	98.05.21-08.31	RA12,RB6,RB8	県 339 集	001-012		001-009		001-008					一体調査
		4	*	本調査	県センター	公民	個専開発	911	98.07.01-09.04		紀 321 集										
		5	H16	本調査	県センター	個市場	個専開発	467	04.07.13-10.08	RD1,RZ1						000,				007,	
		6	*	本調査	県センター	宅	個専開発	3,074	04.08.07-10.08	RD1,RS1,RZ8				010,		008,				002-009,	一体調査
		7	H17	本調査	県センター	都市機構	個専開発	798	05.07.15-11.15	RA1,RD5,RE1,RZ3	県 505 集	013,		011-012, 017-018,		010,				011, 013, 016, 018	
		8	*	*	*	宅	個専開発	1,202	05.07.15-11.15	RA2,RD4,RZ3	県 505 集	014-015,		013-016,						012, 014, 016	
		9	H18	本調査	県センター	宅	個専開発	3,055	06.06.16-08.10	RA2,RB8,RE10,RF2,RG1,RJ2		016-017	001-008	017-028	001-003	001-002	011		001-002		
南仙北	OMS	12	H8	本調査	市教委	個人		289	94.06.07-08.17	RA1,RD4,RE1	年報	109-108		106-111			107-107				
		13	*	本調査	市教委	個人		389	94.10.13-10.28	RA4,RZ2	年報	109-111					108-108				
		14	*	本調査	市教委	業者		1,080	94.12.05-12.08	RD1,RZ2	年報			112-112			109-111				
		15	H7	試掘調査	市教委	個人		77	95.08.09-08.11	RA1,RD1	発掘報告	012-012		113-113							
		16	*	試掘	市教委	宅		1,445	95.09.28-10.6	RD 法か	発掘報告										
		17	*	試掘	市教委	個人		94	96.12.10-12.18	RA 法か	年報										
		18	*	試掘	市教委	業者		54	96.08.07-08.07	なし	発掘報告										
		19	H8	本調査	市教委	業者		1,200	96.09.02-09.11	RS3	発掘報告						112-114				
		20	*	試掘	市教委	個人		39	96.06.27-06.27	なし	発掘報告										
		21	*	試掘	市教委	市	市道開発	80	96.10.02-10.04	なし	発掘報告										
		22	*	本調査	市教委	個人		59	96.11.15-11.15	RA1	発掘報告	013-013									
		23	*	試掘	市教委	宅	個専開発	198	96.11.26-11.29	RA 法か	発掘報告										
		24	*	試掘	市教委	個人		7	96.12.16-12.16	なし	発掘報告										
		25	H9	試掘	市教委	市	個専開発	180	97.07.11-07.24	なし	発掘報告										
		26	*	試掘	市教委	個人		49	98.02.16-02.16	なし	発掘報告										
		27	H10	本調査	市教委	個人		346	98.04.06-04.17	RD7,RE5	発掘報告			114-120			115-118				
		28	*	本調査	市教委	個人		232	98.04.06-04.13	RD4,RE3	発掘報告			121-124			120-122				
		29	*	試掘	市教委	個人		49	98.04.14-04.14	なし	発掘報告										
		30	*	本調査	市教委	市	下水道	本町	98.08.18-07.30	RA3,RE3,RE4	発掘報告	014-018		126-127			123-126				
		31	*	試掘調査	市教委	個人		本町	98.07.06-07.10	RG2 法か	発掘報告						127-129				
		32	H11	本調査	市教委	市・公団	個専開発	4,154	99.05.08-09.30	RD1,RE18	発掘報告			128-128			130-147				
		33	*	試掘	市教委	個人		19	99.09.14-09.14	なし	発掘報告										
		34	H12	本調査	市教委	個人	個人住宅	82	00.06.05-06.05	なし	年報										
		35	*	本調査	市教委	個人	個人住宅	145	00.06.08-06.22	RA1,RE2	発掘報告	017-017		129-130							
		36	*	本調査	市教委	個人	個人住宅	19	00.08.21-08.21	なし	発掘報告										
		37	H17	本調査	市教委	都市機構	個専開発	1,219	05.08.30-11.02、11.14-22.	RA2,RD10,RG7	発掘報告	018-019		131-141			148-155				
		38	H18	本調査	市教委	市・福祉	個専開発	2,880	06.04.14-07.21	RA3,RE14,RF4,PIT	発掘報告	020-025,		142-146,			149, 156-167,				
		39	*	本調査	市教委	市・機構	個専開発	2,480	06.11.28-12.06	RG1,	発掘報告						168,				
樋巻地	OHY	2	H6	試掘	市教委	市	個専開発	975	96.04.22-04.22	RA 法か	発掘報告										
		3	*																		
		4	H12	本調査	県センター	市	個専開発	3,477	00.06.14-10.31	RA35,RB3,RD11,RF2,RG9	発掘資料	001-035	001-003	001-061		001-002	001-009				
		5	H13	本調査	県センター	市	個専開発	5,905	01.04.16-07.31	RA4,RB3,RD8,RE8,RG12,RI1,RK3		036-039	004-006	062-136	001-005		010-021		1	001-003	
		6	*	本調査	県センター	公団	個専開発	190	01.08.23-08.08	RI1									2		
		7	H15	本調査	県センター	公団	個専開発	125	03.10.01-10.31	なし											
		8	*	*	*	市	個専開発	2,535	03.07.01-11.07	RA16,RG13,RE1,RZ5		040-051,		137-148,	006,					004-008	7・8次一体調査
		9	H17	本調査	県センター	都市機構	個専開発	1,835	05.04.12-11.18	RA11,RD12,RF1,RG2,RZ2	県 501 集	054,070-079		152-163, 190-195, 213,218		003,	022-024,			009-010	
		10	*	*	*	宅	個専開発	10,545	05.04.12-11.18	RA46,RB2,RD51,RF4,RG1,RZ2	県 501 集	062, 063, 065 -068, 080-10 9,	007-008,	159-190, 181-185, 199-212, 214-217, 219-222		004-007	022, 025-042			011-012	
		11	*	本調査	市教委	市・福祉	個専開発	1,620	05.04.11-05.20	RA1,RC1,RD10,RS5,PIT	発掘報告	109-112	001,	223-232			043-047				
		12	H18	本調査	区センター	個公団	個専開発	3,240	06.04.10-08.15	RD6,RE27,RE12,R11			009-017	102, 235-271			010, 014, 048-057		003		
		13	*	*	県センター	都市機構	個専開発	2,530	06.07.03-11.27	RA13,RB2,RC1,RD14,RE3,RS1		114, 116, 117, 120, 121, 135, 137-143	018, 019	002, 299-309, 311-313		007-009,	058, 071, 072				
		14	*	*	県センター	宅	個専開発	7,968	06.04.10-11.27	RA24,RD52,RE1,RG14		113, 115, 118, 119, 122-124, 136, 144-149		272-298, 310, 314 -337		010	058, 060-070, 073, 074				
		15	*	*	県センター	宅	個専開発	1,575	06.10.17-12.12	RA8,RE25		150-157		338-362							
宮田沢西	ISD	1	H7	試掘	市教委	宅	個専開発	384	95.09.21-09.22	なし	発掘報告										
		2	H8	試掘	市教委	宅	個専開発	2,995	96.10.28-11.01	RA 法か	発掘報告										
		3	H13	本調査	県センター	宅	個専開発	10,570	01.04.16-11.12	RA13,RB73,RE2,RG8,RZ4		001-013		001-073	001-002		001-009			001-046	
		4	*	試掘	市教委	宅	個専開発			RA 他	発掘報告										
		5	H14	本調査	県センター	宅	個専開発					-020	-002	-053	-099		-005		-011	-047	
		6	*	本調査	市教委	宅	個専開発	10	02.07.22	RG1,	発掘報告						012				
		7	*	試掘	市教委	宅	個専開発	171	02.11.12-11.14	RA3,RD1,RD4,他	発掘報告										
		8	H15	本調査	県センター	市・公団	個専開発	2,480	03.05.08-05.30	RA1,	発掘報告	021,									
		9	H16	本調査	県センター	公団	個専開発	1,179	04.06.01-07.06	RB2,RD4,RZ1			004,006	145-148,						049,	
		10	*	本調査	県センター	市	個専開発	4,620	04.04.12-07.06	RA10,RB3,RD52,RE1,RZ2		022-030	005,007, 008	000-144, 149-155	006,		013-018,			044, 048,	
		11	*	本調査	市教委	市・公団	個専開発	2,541	04.10.04-11.08	RA1,RD6,RE1,RZ1,	発掘報告	031,		156-161			019,			050,	

遺跡名	番号	次数	年度	試掘方法	調査主体	調査形態	調査期間	面積(㎡)	報告書巻号	検出遺構	報告書巻号	遺構番号もしくは遺構名（*は不整合・または結果者）									備考
												馬 住居	馬 墓広	馬 祀遺	馬 土坑	馬 整地状	馬 炉 鍛冶	馬 溝	馬 鉄石	馬 井戸	馬 その他	
飯田才川	15N	1	現	試掘	市教委	市	盛南開発	5,572	96.07.24-11.11	RA 建物	陸奥報告											
		2	H10	本調査	県センター	県	住宅地整備C	5,000	98.04.09-06.16	R81, R84, R88	県111集		001-001		001-004			001-008				
		3	H12	本調査	県センター	市	盛南開発	1,582	00.07.17-10.31		研究紀要											
		4	〃	本調査	県センター	公園	盛南開発	1,582	00.07.17-10.31		研究紀要											
		5	H15	本調査	県センター	公園	盛南開発	1,298	03.06.25-09.11	R94, R97,					033-036			015,				
		6	〃	〃	〃	市	盛南開発	4,339	05.08.01-09.11	R103, R81, R85,					037-054		001,	020-024,				
		7	H17	本調査	県センター	宅地造成	盛南開発	8,950	06.08.18-10.31	R97, R016, R011, R11, R29	集 493	009-015			057-072			016, 025-034,		001,	007-015,	
		8	〃	〃	〃	都市機能	盛南開発	893	05.09.01-09.29	R45, R85, RC1, R014, RE7, R08, RC1	集 506	016・017*, 018・019, 018・019*, 020	008-010	009-010	072-075, 083-085	009-008・011		018・020, 038・039			016	一体遺構
		9	〃	〃	〃	市	盛南開発	2,907	05.07.25-09.29					001	076-082, 084-086	005-011		036-039				
		10	〃	本調査	市教委	市	盛南開発	3,907	05.08.04-09.13	R010, RD (T-pit) 12, R11,	陸奥報告				087-088			041-050		002,		
		11	〃	〃	市教委	市・都市	盛南開発	1,819	05.11.07-12.06	R07, R03, R05, R04, R01, R 17	陸奥報告	021-027	011-013		099-103			051-054	001,	003,		
		12	〃	開発	県博文	市	盛南開発	3,230	05.10.03-11.10	特別記入												
	12NB	H18	本調査	広博文	市	盛南開発	4,000	06.09.19-11.24	R014, RC3, RD41, RF1, R05, R216			028-041		003-004	104-144		002,	052, 055-058			014, 017-234	
		13	〃	〃	県博文	国交省	国道 45 号	2,280	06.08.21-07.31	RA1, R005, R03, RE2, R01, R 11		042	014-016		146-153	012-013		059		004		
矢巾	17N	1	H4	本調査	県センター	県	工業団地C		92.04.09-08.06	RA3, R01, R51	集 205	001-003			001-001			001-001				
		2	H11	本調査	市教委	個人	盛南地区内	130	99.08.26-09.02	RC1, R03	陸奥報告			001-001				002-004				
		3	H15	本調査	県センター	公園	盛南地区内			RE, RE, R1,												
		4	〃	本調査	県センター	市	〃			〃			-003		-032					-003		
		5	H16	本調査	県センター	都市機能	盛南関連	180	04.09.09-05.16	R06, RC2					035, 036, 039, 040, 043, 044			005-006				
		6	〃	本調査	県センター	市	盛南関連	3,386	04.04.12-06.04	R067, RE1, R01, R11					033-035, 037, 041, 042, 045-096		001,	007,		004,		
		7	〃	工事	市教委	市	盛南関連			RC, R0,	陸奥報告											
		8	H17	試掘	市教委	市	盛南関連			RA, R08, RC, R0, RD, pit	陸奥報告											
		9	H18	本調査	県センター	国交省	国道 45 号	3,056	06.04.10-05.31	R02, RC1, R02, R07			004-005	002	098-097			008-014				
		10	〃	〃	県センター	都市機能	盛南関連	147	06.05.05-05.15	RC1								016				
		11	〃	〃	県センター	市	盛南関連	3,801	06.04.10-06.15	R014, RC1, RD16, RE6, RF1, R025, R13, R22			009-019	003	098-116	002-007	001	015-038		005-017		
夕室	11N	1	H7	試掘	市教委	市	盛南関連	566	95.10.04-10.06	R01	陸奥報告											
		2	H8	試掘	市教委	市	盛南関連	233	96.11.18-11.19	なし	陸奥報告											

第１表　盛南地区遺跡群　発掘調査一覧

4　体制

[調査主体]　盛岡市教育委員会

教育長 佐々木初朗（～12年度）・石川悌司（12～16年度）・八巻恒雄（16年度～）

[調査総括]　盛岡市教育委員会　文化課

文化課長　大崎塚夫（15年度），阿部光雄（16年度），武石幸久（17年度）

[事 務 局]　主幹　高橋清明（～15年度），課長補佐　川村昇子（～16年度），武藤英富（17年度）

文化財係長（副主幹）　千田和文

文化財主任　津嶋知弘，神原雄一郎，櫛頭祐子　　文化財主事　花井正香

文化財調査員　北田公子（～16年度），野崎奈美（15年度），

鎌山聖美（16年度～），高橋　史（17年度～）

[事　　務]　盛岡市遺跡の学び館（16年度～）

館長　山本韶夫（～16年9月），及川三治（16年10月～3月），三浦　晃（17年度～）

館長補佐　佐藤和男，　主査　杉浦雄治（17年度～），　文化財調査員　永山雄介（17年度）

[調　　査]　文化財主査　室野秀文，　文化財主任　三浦陽一

文化財主事　藤村茂広（～16年度），今野公顕，佐々木亮二

文化財調査員　佐々木紀子（～16年度），岩城志麻（～16年度），

松川光商，斎藤麻紀子（17年度），鈴木賢治（18年度）

学芸調査員　鷹筈あゆみ（16年度～）

[発掘調査担当者（本書詳細掲載分，氏名は調査当時）]

大宮北遺跡	第5次調査（平成10年度）	黒須靖之
	第8次調査（平成12年度）	平澤祐子
小幡遺跡	第8次調査（平成10年度）	似内啓邦・黒須靖之
	第9次調査（平成10年度）	似内啓邦・平澤祐子
	第12次調査（平成11年度）	今野公顕
	第17次調査（平成11年度）	津嶋知弘
宮沢遺跡	第5次調査（平成11年度）	今野公顕
鬼柳A遺跡	第5次調査（平成11年度）	今野公顕

発掘調査および本報告書の作成にあたり，下記の方々の協力を得た。記して感謝申し上げる。（敬称略）

[発掘調査・整理作業]（50音順　平成17・18年度）

天沼芳子，井上勝子，金沢達也，菊池武，工藤エキ，熊谷あさ子，斎藤幸恵，斎藤三郎，佐藤准子，

田貝恵子，竹花栄子，中島京子，樋口泰子，平賀眞利子，藤田友子，藤原亮子，南幅征子，南幅洋子，

武蔵照子，山下摩由美

[協力・助言]

岩手県教育委員会，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター，

独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所，盛岡市都市整備部盛岡南整備課，

赤沼英男（岩手県立博物館），井上雅孝（滝沢村教育委員会），宇部則保（八戸市教育委員会），

工藤雅樹（東北歴史博物館館長），高橋千晶（奥州市教育委員会），西野　修（矢巾町教育委員会），

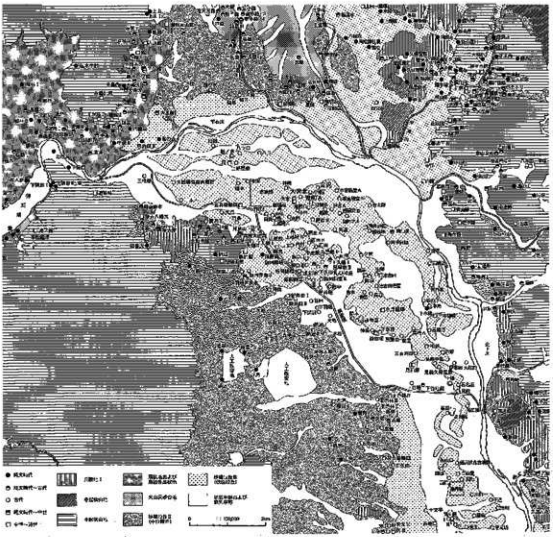
Ⅱ　遺跡群の位置と環境

1　地理的環境

地　　勢

岩手県盛岡市は岩手県の中央部に位置し，1992年4月に南に隣接する都南村と，2006年1月には北に隣接する玉山村と合併し，人口300,215人（平成19年3月1日現在，平成17年国勢調査人口に基づく推計人口），面積886.47㎢の県庁所在地である。

現在，市街地南西部の313.5haを対象に土地区画整理事業（盛岡南新都市開発整備事業）が実施されている。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で，平成3年12月に事業認可を受け，平成7年11月に着工した。これにともない，当市教育委員会では，事業区域内の埋蔵文化財試掘調査を平成5年度から実施している。



第1図　地形分類と遺跡分布図（1：100,000）

遺跡群　本遺跡群は，盛岡南新都市開発整備事業域内の16遺跡，大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・台太郎遺跡・向中野鎖遺跡・細谷地遺跡・南仙北遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・矢盛遺跡・夕覚遺跡が該当し，盛岡市本宮字大宮・字小幅・字宮沢・字鬼柳・字熊堂・字稲荷・字野古・字北，向中野字千刈田・字台太郎・字向中野・字八日市場・字野原・字才川・字細谷地・字鳩子・字幅，飯岡新田1地割沢田・2地割才川・3地割矢盛などに立地する。

地　形　盛岡市は，岩手県から宮城県を南流する北上川に中津川・雫石川・簗川といった支流の合流点である北上盆地の北端に位置し，本遺跡群は，北上川の西岸と北上川の支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。雫石川は奥羽山脈から東流し，鳥泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近(市内上太田)で急激に流路を狭められ，その狭窄部を抜け北上盆地に入り，北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより，狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ，沖積段丘（砂礫段丘Ⅲ）が発達している。

沖積段丘は，水成砂礫層を基底とし，その上に水成シルト層，そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが，砂礫層の上面高をはじめ，それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また，このシルト層は旧河道ばかりでなく，微高地などにも堆積している。このことは，この低位沖積段丘は，雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され，さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており，連続する大きなものは4条，そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており，複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に，古代を中心とした遺跡が分布している。

2　歴史的環境

本遺跡群の立地する平野部周辺には，縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見例はわずかであり，遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の集落遺跡である。

縄　文　縄文・弥生時代の遺構遺物は，本宮熊堂A遺跡や台太郎遺跡で晩期を中心とする竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり主体的なものではない。また，時期を特定する要素は乏しいが，飯岡才川遺跡など，多くの遺跡で陥し穴が確認されている。

古　代　古墳時代末，7世紀中葉の遺構遺物は，数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代，8世紀中葉以降竪穴住居跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は，大型の竪穴住居跡1棟を中心としその周囲に中～小型の竪穴住居跡が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

9世紀，平安時代初頭（延暦22（803）年）には，本地域の西に志波城（下太田方八丁他）が造営される。志波城は東北地方経営のために朝廷が造営した城柵であり，当時の社会に大きな影響を与えたと考えられる。坂上田村麻呂によって造営された志波城は，北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け，およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城（矢山町西徳田）

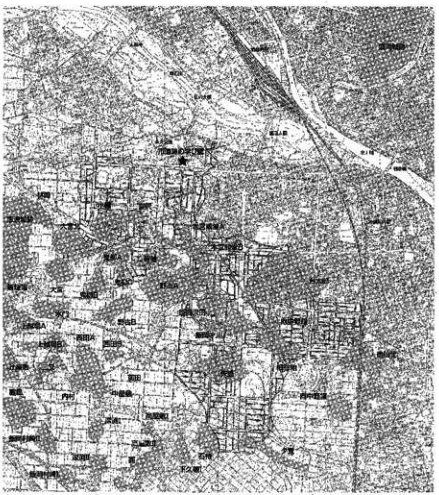
を造営し機能を移転した。その後，徳丹城は9世紀の半ばまでにはその機能を停止し，本地域も含む東北北部地域は，胆沢城（奥州市水沢区九蔵山）による一域支配の体制となる。

以降，竪穴住居跡を主体とした集落数は増加の一途をたどる。それにともない竪穴住居跡の規模の大小差は縮小し，重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも，向中野館遺跡の低湿地からの祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や飯岡沢山遺跡の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など，本地域内の使われ方の分化もみられる。

また，9世紀後葉から10世紀中葉にかけては，地域の拠点的な集落も姿を現す。細谷地遺跡では，微高地の南斜面に沿うように2×2間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し，倉庫群の存在をうかがわせる。また大宮北遺跡や，本地域の北西，志波城跡の北西に隣接する林崎遺跡などで，規模の大きな官衙的な掘立柱建物跡を計画的に配置した集落も見つかっている。

11～12世紀にかけての，本地域の様相ははっきりしないが，12世紀末～13世紀初頭頃のものと思われるかわらけが，大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13世紀後半には，台太郎遺跡では不整五角形のプランを持つ居館が営まれ，地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では，土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており，出土遺物から15世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢巾遺跡でも，堀跡が検出されており，出土遺物やそのプランから16世紀代を中心とする居館跡と考えられている。　中　世

江戸時代に入ると，雫石川は現在の流路となり，旧河道の東側には奥州道中や仙北組町が開かれ，本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓，南仙北遺跡では道路遺構などの近世の遺構が見つかり，この姿は盛南開発施行直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。　近　世



第２図　盛南地区遺跡群　分布図（スケールフリー）

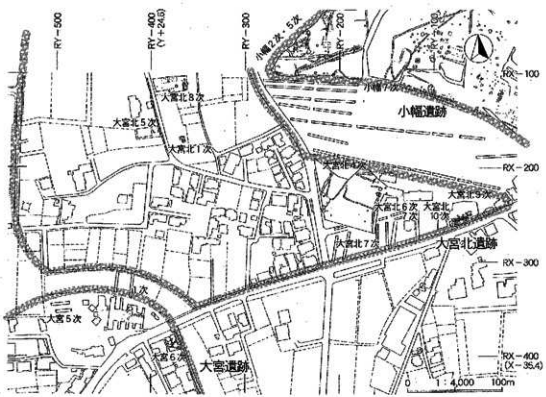
Ⅲ　調査成果

1　大宮北遺跡（第３・５・６・７・８・９次調査）

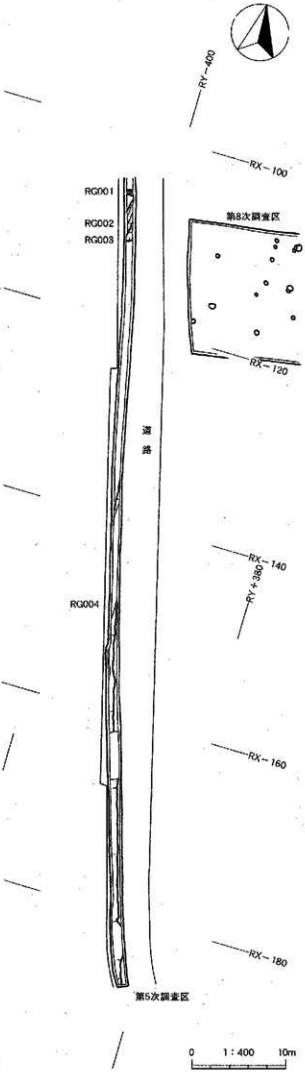
（１）遺跡の概要

位　　置　大宮北遺跡は，盛岡駅から南西約2.5kmの本宮字大宮地内に位置する。盛南開発地域の北西端に位置し，現状は宅地・果樹園・田畑である。遺跡の範囲は南北約250m，東西約500mと推定され，標高は約127～129mであり，ほぼ平坦である。遺跡の北部は，芋石川の旧河道と考えられ２ｍほどの段丘によって画され，それ以外は１ｍ弱の比高差が見られ他の遺跡と画される。

周辺の遺跡　延暦22（803）年に造営された城柵志波城跡外郭東辺から東約450mに位置し，本遺跡の北西には10世紀半ばを中心とした官衙的な掘立柱建物跡や塀跡がみつかっている林崎遺跡，南には12世紀末～13世紀初頭のものと考えられるかわらけの出土した大溝が発見されている大宮遺跡，北東には古代の集落および近世の村落跡が見つかっている小幅遺跡が，それぞれ旧河道で画されて隣接している。このうち，林崎遺跡ではコ字状に配置された掘立柱建物跡とそれを囲むように配置された塀跡をはじめ竪穴住居跡などが検出されている。10世紀半ば頃と考えられる土器が多く出土しているが，灯明皿と考えられる炭化物が付着したあかやき土器坏や「寺」字墨書が出土しており，宗教的な色彩の濃い，地域を支配した拠点的な集落だった可能性が指摘されている。これまでの調査で，本遺跡北部段丘縁には古代の集落，東部には近代の墓域などが検出されている。当市は平成５～12年度に，第３・５・６・７・８・９次にわたる調査を実施した（第１表）。



第３図　大宮北遺跡全体図（1：4,000）



第４図　大宮北遺跡　第５次調査区全体図（1：400）

（２）第５次調査

第５次調査区は，遺跡の北東部，第１次調査区の西側，第３次調査区の東側に位置する。公共下水道管敷設工事にともなって，788㎡を対象に，平成10年９月１日から７日まで調査を実施し，溝跡３条などを検出した。検出面は路盤直下のシルト層で掘り込み面は失われていた。

なお諸記録は罹災しており詳細は不明な点が多い。

ＲＧ001・002・003溝跡（第４図）

調査区北部に検出した溝跡である。RG001・003溝跡は東西方向に，RG002溝跡は南北方向に走るものである。重複関係からRG002溝跡はRG003溝跡より新しい。

規模は，検出面における上幅でRG001は0.6m，RG002は1.2m，RG003は1.6mほどをはかる。出土遺物等が罹災しており年代等は不明だが，古代以降のものと考えられる。

ＲＧ004溝跡（第４図）

調査区中央～南部に検出した溝跡である。北東方向から南方へ調査区内で屈曲するものと考えられる。規模は，遺構の大半が調査区外に広がるため詳細は不明だが，検出面における上幅は約４ｍをはかるものと考えられる。出土遺物等が罹災しており年代等は不明だが，古代以降のものと考えられる。

（3）第8次調査

位　　置　第8次調査区は，遺跡の北部，第1次調査の北側，第5次調査の東側に位置する。盛南開発関連代替地としての個人住宅建設にともなう調査を，平成12年6月2日から同年7月10日に，500㎡を対象に実施し，古代以降の掘立柱建物跡7棟，土坑2基，小柱穴を検出した。検出面はシルト層上面で，掘り込み面は削平されていた。調査区の東側，RY－370以東に検出したRB005～007の各遺構は，建築住宅の基礎底面が検出面に達しないよう盛土の施工をし，一部のみ精査を実施し，RY－370付近以東の遺構は地下に保存されている。各遺構の詳細な平面図や断面図等は罹災し残存していない。

①検出遺構

ＲＢ001掘立柱建物跡（第5図）

調査区北西部に検出した掘立柱建物跡である。調査区外の北側に伸びる可能性もあり，規模

規　　模　は南北2間もしくは3間以上，東西2間，南北総長4.65mもしくはそれ以上，東西総長4.8m，柱間は西側南北柱筋南から2.55m・2.1m，東側南北柱筋南から2.1m・2.4m，東西柱筋北側は2.4m等間，東西柱筋南側西から2.7m・2.1mをはかる。柱穴は楕円形を呈し，東西柱筋北側の中央や東西柱筋南側の中央ならびに東のものは，作り変えが見られるものもある。規模や

時　　期　柱配置から古代以降の掘立柱建物跡と考えられる。

ＲＢ002掘立柱建物跡（第5図）

調査区北部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。調査区の北側に伸びる可能

規　　模　性が高い。規模は桁行2間以上，梁行2間，西側桁行に1間の庇もしくは縁が付く。桁行総長2.5m以上，梁行総長5.7m，身舎の梁行長4.2m，柱間は身舎の桁行西側柱筋1.95m，同東側柱筋1.7m，身舎の梁行は2.1m等間，庇もしくは縁は桁行2.1m，梁行1.5mをはかる。身舎の柱穴は隅丸方形から楕円形を呈し，それぞれ柱痕跡を確認した。庇もしくは縁の柱穴は小ぶり

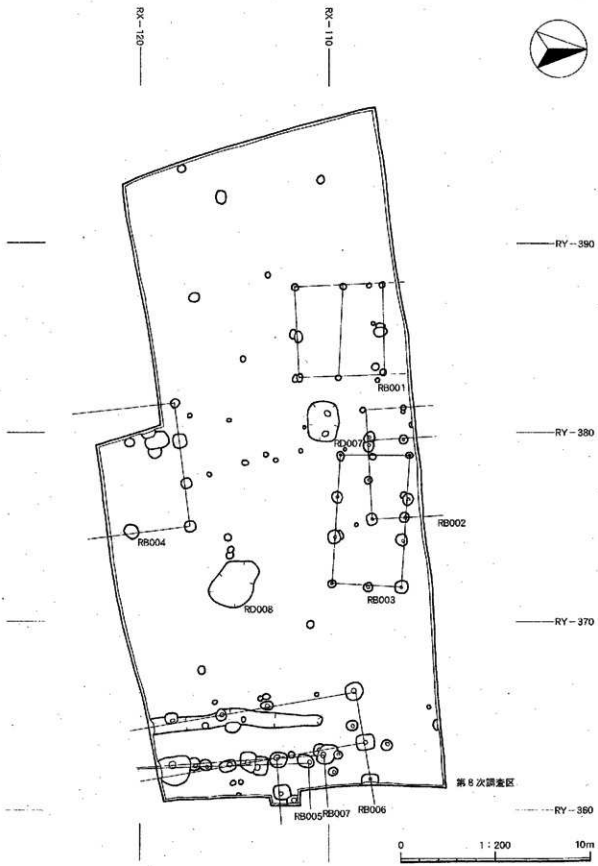
時　　期　で円形を呈する。規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

ＲＢ003掘立柱建物跡（第5図）

規　　模　調査区北部に検出した東西棟の掘立柱建物跡である。規模は桁行3間，梁行2間，桁行総長南側柱筋6.8，北側柱筋7.0m，梁行総長3.7m，柱間は桁行南側柱筋西側から2.25m・2.15m・

棟　方　向　2.4m，同北側柱筋西側から2.4m・2.2m・2.4m，梁行は1.85m等間をはかる。建物棟方向の傾きはW4.5°Nをしめす。柱穴は隅丸方形から楕円形を呈し，それぞれ柱痕跡を確認した。

時　　期　作り変えの確認できるものもある。規模や柱配置から古代以降の掘立柱建物跡と考えられる。



第５図　大宮北遺跡　第８次調査　全体図

ＲＢ004掘立柱建物跡（第５図）

規模　調査区南部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。調査区の南側に伸びる可能性が高い。規模は桁行２間以上，梁行３間，桁行総長4.2m以上，梁行総長6.6m，柱間は桁行東側柱筋北側が3.3m，梁行は西から2.1m・2.25m・2.25mをはかる。身舎の柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。北西隅の柱穴が他のものよりも若干規模が小さいこと，梁行の西から１間目の柱穴の南側に柱穴の可能性のあるピットが検出されていることから，梁行西１間分は庇もしくは縁の可能性もあるが，柱筋が不明瞭であり不明である。

時期　規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

ＲＢ005掘立柱建物跡（第５図）

規模　調査区東部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。重複関係からRB006・007掘立柱建物跡より古い。調査区の東側に伸びる可能性が高い。規模は桁行４間以上，梁行１間以上，桁行総長8.0m以上，梁行総長1.4m以上，柱間は桁行柱筋が2.7m等間をはかる。柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。桁行柱筋の西側約2.1mの位置に，幅0.5～0.8mほどの溝が平行に走る。雨落ち溝の可能性もある。

時期　規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

ＲＢ006掘立柱建物跡（第５図）

規模　調査区東部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。重複関係からRB005掘立柱建物跡より新しく，RB007掘立柱建物跡より古い。調査区の東側に伸びる可能性が高い。規模は桁行４間以上，梁行１間以上，桁行西側柱筋に１間分の庇もしくは縁がつく。桁行総長10.7m以上，庇または縁を含んだ梁行総長5.0m以上，柱間は身舎桁行が2.4m等間、庇または縁の桁行が北から2.1m・2.7m・2.4m・2.4m，身舎梁行は1.8m，庇または縁の梁行は2.7mをはかる。柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。庇もしくは縁の桁行１間目の柱穴は，規模が特に小さい。柱穴の周辺には，足場穴のものの可能性のある小柱穴が散見する。

時期　規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

ＲＢ007掘立柱建物跡（第５図）

規模　調査区東部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。重複関係からRB005・006掘立柱建物跡より新しい。調査区の東側に伸びる可能性が高い。規模は桁行３間以上，梁行１間以上。桁行柱筋北側１間分は庇もしくは縁，または間仕切りと考えられるが詳細は不明。桁行総長8.6m以上，梁行総長2.4m以上。柱間は桁行が庇もしくは縁，または間仕切りと考えられる１間分を含め北から2.4m・2.4m・3.0m、梁行は1.6mをはかる。柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。

時期　規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

ＲＤ007土坑（第５図）

調査区中央部に検出した東西に長い不整隅丸方形を呈する土坑である。規模は長軸約2.1m，短軸約1.7mほどである。断面形は浅い皿状を呈する。底面に２口の小ピットが検出された。何らかの施設の可能性がある。出土遺物から古代の土坑と考えられる。

ＲＤ008土坑（第５図）

調査区中央部に検出した不整楕円形を呈する土坑である。規模は東西長軸約2.8m，南北短軸約2.2mほどである。断面形は浅い皿状を呈する。検出面および埋土中から，あかやき土器の高台付坏や坏などの，意図的に割られたようにうかがえる破片が多量に出土した。土器廃棄土坑の可能性がある。出土遺物から古代の土坑と考えられる。

②出土遺物（第６～８図・第５表）

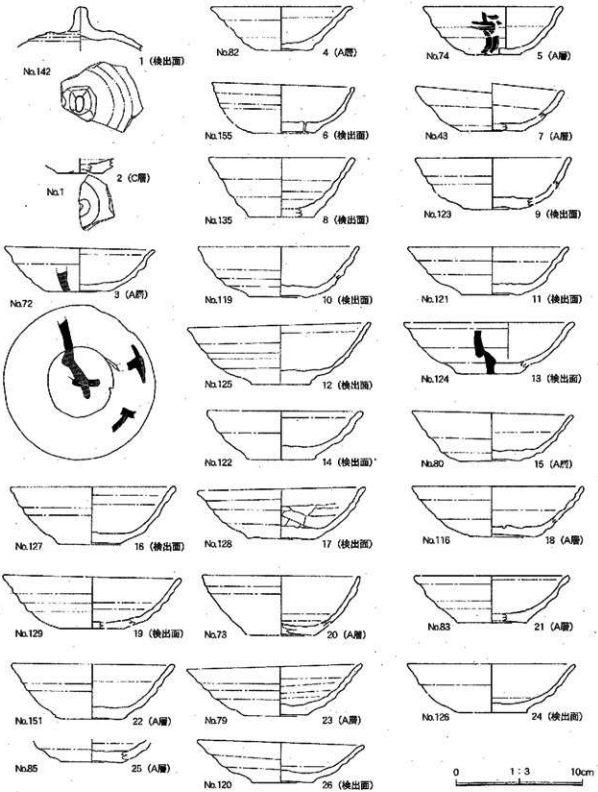
今次調査区付近は，耕作土中に多くの土器片が散布している。調査区内において，表土中および遺構検出面，RB001・003掘立柱建物跡堀方検出面および埋土，RD007・008土坑検出面および埋土，その他小ピット検出面および埋土から，須恵器の坏・甕・長頸瓶，あかやき土器の坏・高台付坏・耳皿，土師器の壺・坏・甕，あわせておよそコンテナ５箱分出土した。また僅かではあるが縄文土器の小破片，古代以降の砥石，古代以降の鉄釘，近世以降の陶磁器，古代以降の炭化物も出土した。

概観すると，遺構にともなわない遺物は摩滅した小破片が多く，図示できるものは少ない。RD008土坑出土のものは，接合する資料が多く出土したが，坏類に比べて甕類の出土が極めて少ない。土器廃棄の土坑と考えられる。

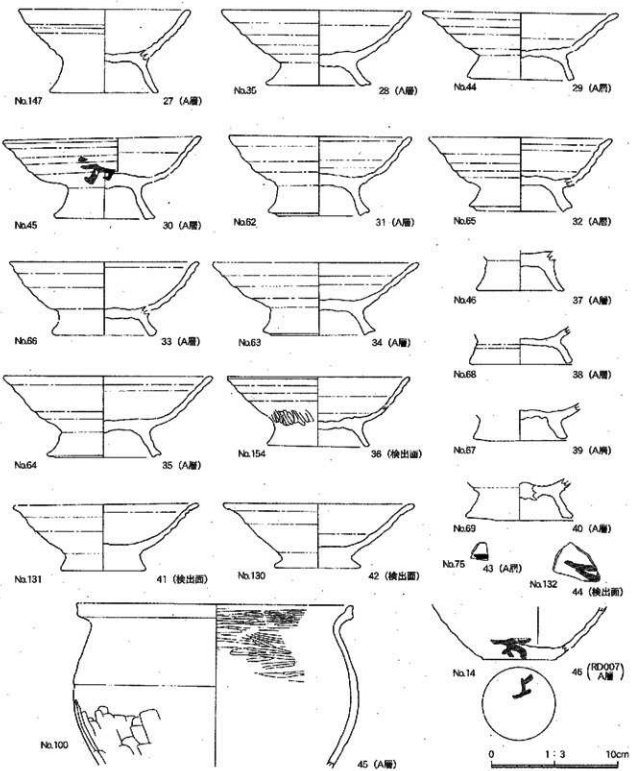
（４）第３・６・７・９次調査

第３次調査区は，遺跡の北部，第１次調査の北側，第５次調査の西側に位置する。盛南開発関連代替地としての個人住宅建設にともなう試掘調査を，平成３年７月13日に，41㎡を対象に実施し，遺構遺物は検出されなかった。第６次調査区は，遺跡の南部に位置する。盛南開発にともなう試掘調査を平成11年９月１日から同年９月７日まで120㎡を対象に実施し，遺構遺物は検出されなかった。第７次調査区は遺跡の南部に位置する。盛南開発にともなう試掘調査を平成12年５月23日に実施し，遺構遺物は検出されなかった。第９次調査区は遺跡の東部に位置する。盛南開発にともなう調査を平成12年５月23日から同年６月１日まで792㎡を対象に実施し，近世および近代の土坑墓60基を検出した。上記の詳細な平面図や断面図および出土遺物，請記録等は罹災し残存していない。

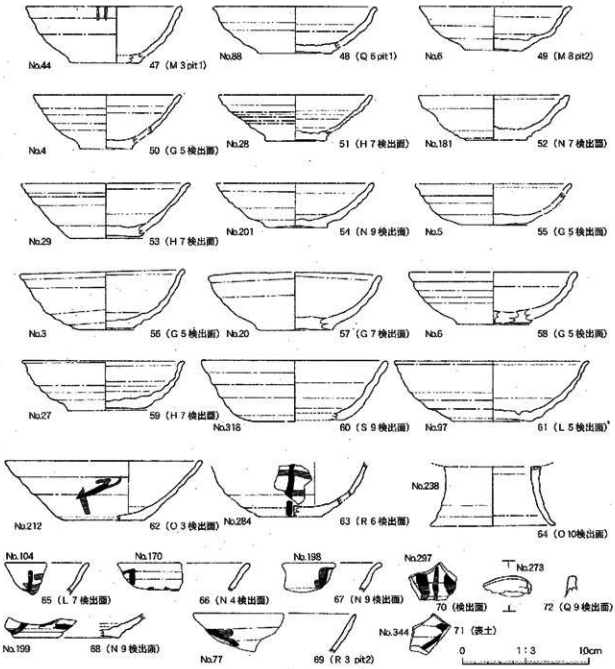
第３次調査
第６次調査
第７次調査
第９次調査



第６図　大宮北遺跡　第８次調査ＲＤ008土坑出土遺物（1：3）



第７図　大宮北遺跡第８次調査ＲＤ007・008土坑出土遺物（1：3）



第８図　大宮北遺跡第８次調査ピット、遺構外出土遺物（1：3）

2　小幅遺跡　（第1・3・8・9・12・17次調査）

（1）遺跡の概要

位　　置　　小幅遺跡は，盛岡駅から南西約2.5kmの本宮字大宮地内に位置する。盛南開発地域の北西部に位置する。区画整理事業前は宅地・田畑・果樹園などが広がっていた。遺跡の北部から西部は，雫石川の旧河道と考えられる2mほどの段丘によって画され，それ以外は1m弱の比高差が見られ他の遺跡と画されている。遺跡の範囲は南北約250m，東西約550mと推定され，標高は約125～127mであり，ほぼ平坦である。

周辺の遺跡　　城福志波城跡外郭東辺から東約800mに位置し，本遺跡の南西には10世紀後半を中心とした掘立柱建物跡がみつかっている大宮北遺跡が隣接しているほか，東には宮沢遺跡，南には鬼柳A遺跡が，それぞれ旧河道によって画されている。

これまでの調査で，古代の集落および近世の集落が検出されている。当市教育委員会では平成5～12年度に，盛南開発にともなう発掘調査を，第1・3・8・9・12・17次にわたって実施した（第9図・第1表）。遺構は，ほぼ後世の耕作等による削平を受けている。各遺構の諸記録や各図・出土遺物が罹災した。

（2）竪穴住居跡（RA）

縄文時代の竪穴住居跡を1棟（RA041），古代の竪穴住居跡を14棟（RA019～031，039）を検出した。

RA041竪穴住居跡（第10図）

位　置	II区	平面形	不正円形	規　模	4.60m×5.20m×0.00m
主軸方向	N00°E	重複関係	RD316土坑に切られる	埋　土	削平
壁	削平	床	地山面	炉	石囲炉	遺　物	なし

削平されており，炉と周溝のみが残存。縄文時代晩期の竪穴住居跡と考えられる。

RA019竪穴住居跡（第11・12図）

位　置　C区　　平面形　方形　　主軸方向　E18°S

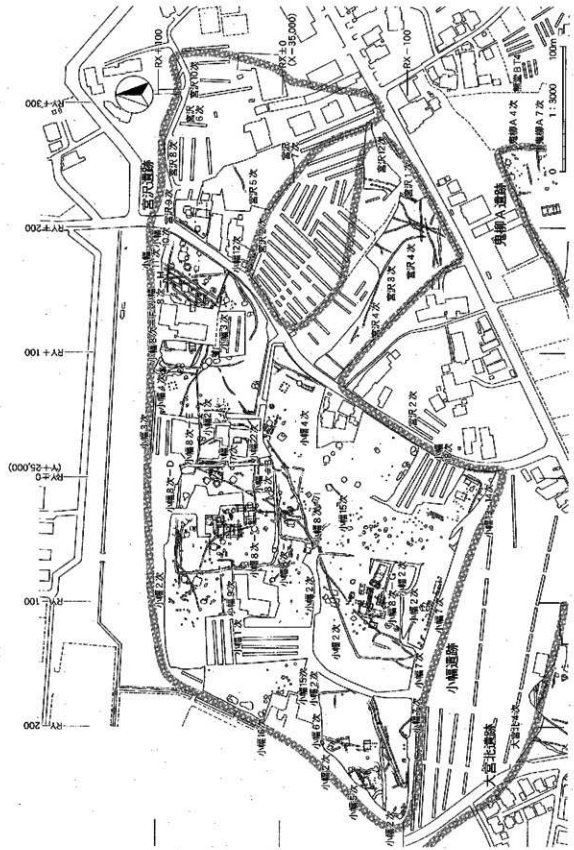
規　模　東西5.18m，南北4.94m，検出面からの深さ30～38cm

重複関係　RD227・228土坑に切られる　　埋　土　A，Bの2層に大別され，各層はさらに細別。

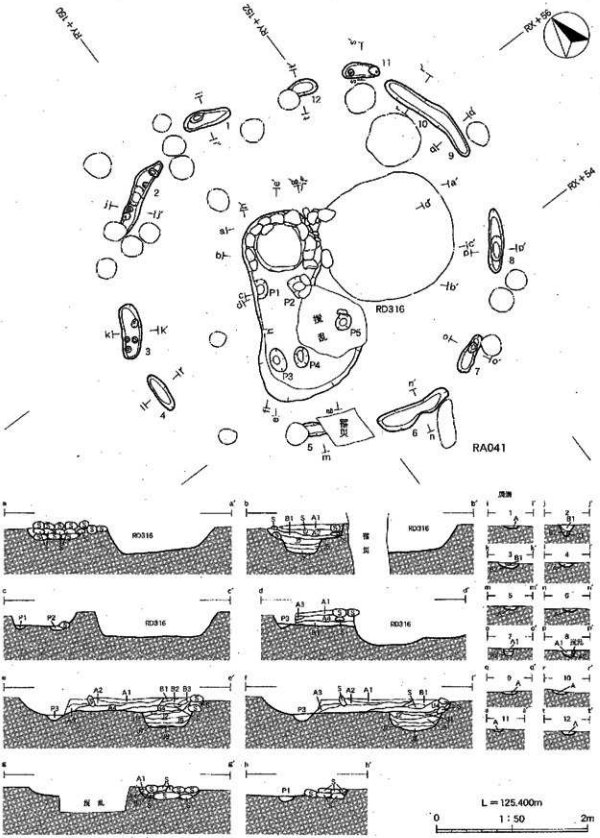
床　　褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土（D層）の上面。ほぼ全面が硬化（D2層）。

カマド　東辺北寄りに1基。南基底部のみ残存。煙道形態は掘り込み式か。煙道は長さ1.42m，幅60cm。検出面からの深さは約60cm。煙道部は床面よりも若干窪み，底面はわずかに煙出しに向かって傾斜。構築土は褐色土（K層）を主体。煙道内は暗褐色土褐色土を主体に焼土炭化物を含む流入土（J層）が堆積。焚口は，前面に径約1.0m程度の焼土を検出。

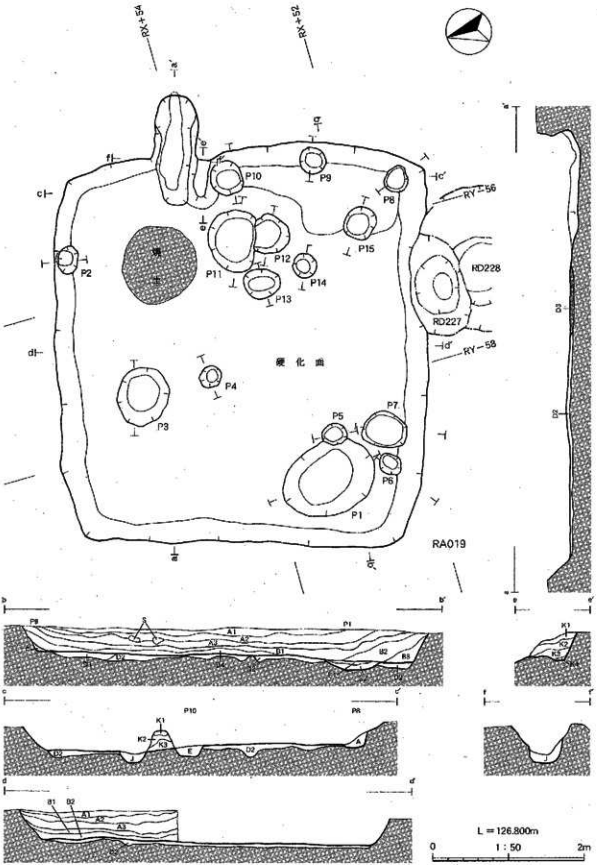
ピット　床面及び壁面に15口検出。主柱穴はP3・7・12と考えられる。P8・9・10は壁際にあることから，出入口の柱穴の可能性もある。



第９図　小幅遺跡・宮沢遺跡全体図（1：3,000）



第10図　小幅遺跡ＲＡ041竪穴住居跡

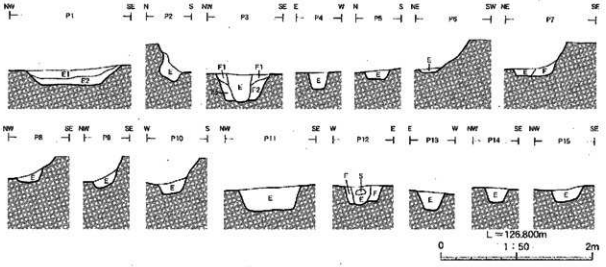


第11図　小幅遺跡ＲＡ019竪穴住居跡平面図・断面図

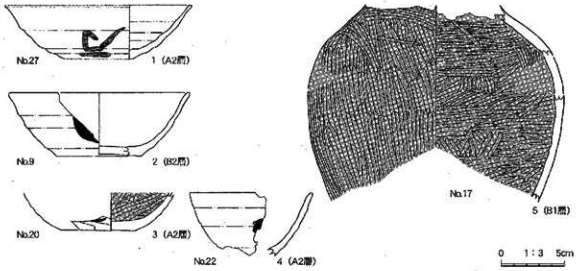
遺物（第13図・第6表）　須恵器の坏・大甕，あかやき土器の坏，土師器の坏・甕などが出土。図化できたものは5点。1は須恵器の坏である。底部糸切無調整。体部外面に墨書がある。倒位で「万」と読める。2・4はあかやき土器の坏である。2は口縁部から底部まで1/3ほど残存。底部糸切無調整。体部外面に墨書が認められる。4は口縁部から体部の一部が残存。体部外面に墨書が認められる。3は土師器の坏である。ロクロ整形，内面ヘラミガキ，黒色処理が施される。体部外面に墨書が認められる。5は土師器の球胴状の壺（？）である。頸部から体部まで残存している。内外面共にヘラミガキ，黒色処理が施される。

ＲＡ020竪穴住居跡（第14図）

位　置	Ｃ区	平面形　方形	主軸方向	Ｅ4°Ｎ
規　模	東西3.50m，南北3.57m，検出面からの深さ30～42cm		重複関係	なし
埋　土	Ａ，Ｂ，Ｃの３層に大別され，各層はさらに細別。			
床	褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土（Ｄ層）の上面。硬化面が認められるが構築土の差異は明確ではない。			

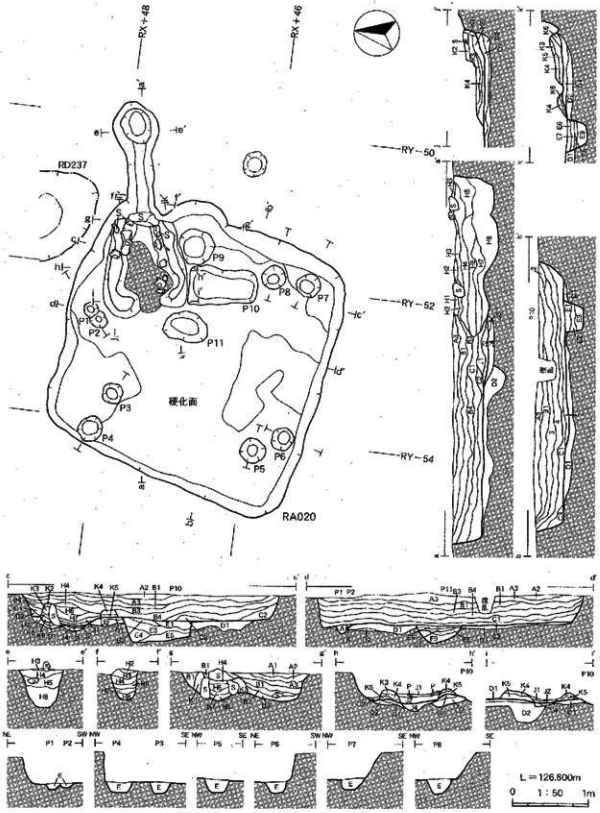


第12図　小幅遺跡ＲＡ019竪穴住居跡断面図



第13図　小幅遺跡ＲＡ019竪穴住居跡出土遺物

カ マ ド　北東隅に東向きに１基。煙道形態は掘り込み式か。煙道は長さ1.54m，幅30～35cm。検出面からの深さは約38～58cm。煙道部は床面よりも一部高まりを持ち，煙出しに向かって傾斜。煙出しはピット状に窪む。基底部構築土は褐色土（K層）を主体。カマド埋土（J層）は暗褐色土褐色土を主体に焼土炭化物を含む。煙道は，褐色土を主体とした崩壊土および流入土（H層）が堆積。焚口は基底部にはさまれた径90×60cm程度の焼土を検出。基底部周辺には礫や土器が



第14図　小幅遺跡ＲＡ020竪穴住居跡

散乱。

ピット　床面及び壁面に11口検出。主柱穴はＰ１～８と考えられる。それぞれ２ずつセットになっており，作り変えの可能性がある。Ｐ９・10は貯蔵穴の可能性がある。

遺物（第15図・第６表）　須恵器の坏蓋・坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕・長頸瓶，またカマド脇貯蔵穴から砥石が出土。図化できたものは土器13点。１は須恵器の坏蓋である。口縁部の小破片である。２・３は須恵器の坏である。４～９はあかやき土器の坏である。10・11は土師器の坏である。ロクロ整形・内面にはヘラミガキが施される。12・13はあかやき土器の甕である。体部外面はヘラケズリ，内面はヘラナデ，口縁部は外反し直立する。

ＲＡ021竪穴住居跡（第16図）

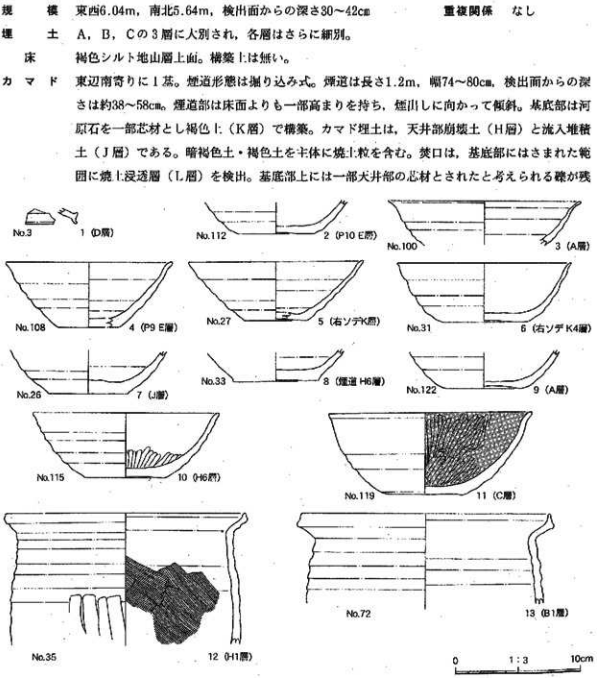
位　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　Ｅ4°Ｓ

規　模　東西6.04m，南北5.64m，検出面からの深さ30～42cm　　重複関係　なし

埋　土　Ａ，Ｂ，Ｃの３層に大別され，各層はさらに細別。

床　褐色シルト地山層上面。構築土は無い。

カマド　東辺南寄りに１基。煙道形態は掘り込み式。煙道は長さ1.2m，幅74～80cm，検出面からの深さは約38～58cm。煙道部は床面よりも一部高まりを持ち，煙出しに向かって傾斜。基底部は河原石を一部芯材とし褐色土（Ｋ層）で構築。カマド埋土は，天井部崩壊土（Ｈ層）と流入堆積土（Ｊ層）である。暗褐色土・褐色土を主体に焼土粒を含む。焚口は，基底部にはさまれた範囲に焼土浸透層（Ｌ層）を検出。基底部上には一部天井部の芯材とされたと考えられる礫が残



第15図　小幅遺跡ＲＡ020竪穴住居跡出土遺物

存。

ピット　床面及び壁面に８口検出。主柱穴はＰ１～５，７・８と考えられる。作り変えの可能性がある。Ｐ６は埋土の状況から貯蔵穴と考えられる。

遺　物　すべて福災し残存しない。

ＲＡ022竪穴住居跡（第18図）

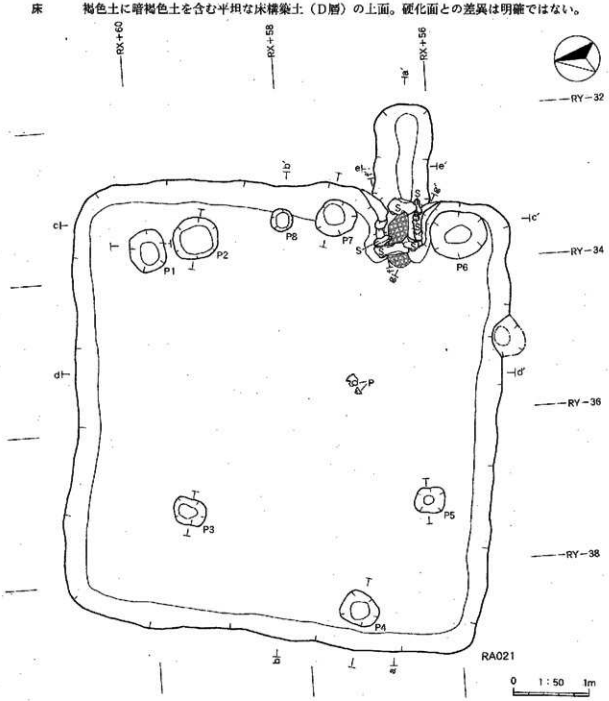
位　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　不明

規　模　南北2.96m，東西2.58m，検出面からの深さ４cm未満

重複関係　RB015掘立柱建物跡・RC002柱列跡と重複し，それらより古い。

埋　土　ほぼ削平されている。Ａ層。

床　褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土（Ｄ層）の上面。硬化面との差異は明瞭ではない。



第16図　小幅遺跡ＲＡ021竪穴住居跡平面図

カ　マ　ド　平面図罹災のため不明だが，断面図Ｃにカマド流入堆積土（Ｊ層）が見られることから，北辺東寄りにあった可能性が高い。

ピ　ッ　ト　平面図罹災のため不明だが，断面図Ｃに１口確認できる。

遺　　物　すべて罹災し残存しない。

ＲＡ023竪穴住居跡（第19図）

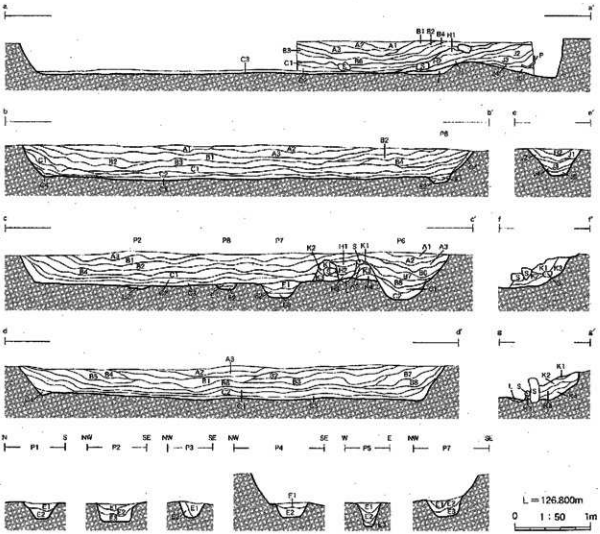
位　　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　W9° N

規　　模　東西3.60～3.68m，南北3.89m，検出面からの深さ43～50cm　　重複関係　なし

埋　　土　Ａ，Ｂ，Ｃの３層に大別され，各層はさらに細別。

床　　褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土（D層）および一部地山シルト層の上面。中央部に硬化面が認められる。

カ　マ　ド　西辺中央に１基。煙道形態は掘り込み式で天井部が一部残存。煙出しがやや北向きに屈曲。煙道部はほぼ平坦で，長さ1.48m，幅42cm，検出面からの深さは約38～58cm。煙出しはピット状に径42cm，検出面からの深さ51cm。埋土は褐色土を主体とした天井部（Ｉ層）および天井崩壊土（Ｈ層），暗褐色土に焼土・炭化物を含む流入土（Ｊ層）が堆積。基底部は礫を芯材に褐色土（Ｋ層）で構築。燃焼部は基底部にはさまれた径80×40cm程度の焼土浸透層（Ｌ層）を検出。中心やや壁寄りに径約６cmの礫を支脚としている。



第17図　小幅遺跡ＲＡ021竪穴住居跡断面図

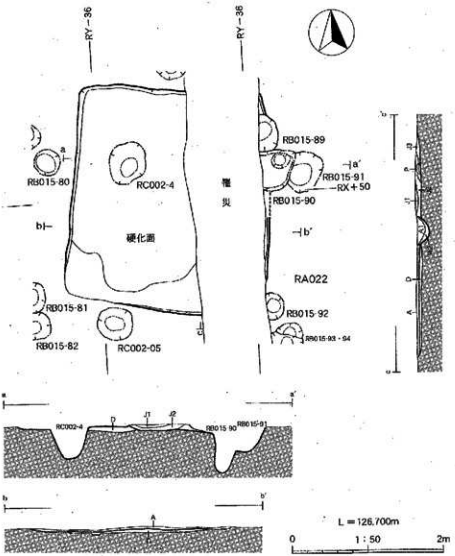
遺物（第20図・第6表）　須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕，軽石が出土。図化できたのは土器2点。1は須恵器の坏である。口縁部から底部まで約1/4残存。底部糸切無調整。内外面に火襷痕跡確認。2は土師器の甕である。口縁部はヨコナデ，体部外面は縦方向の強いヘラナデおよび一部ヘラミガキ，内面は横方向の弱いヘラナデが施される。

ＲＡ024竪穴住居跡（第21図）

北半を第8次，南半を第17次で調査。

位　置	Ｃ区	平面形	方形	主軸方向	N40°Ｅ
規　模	南北4.24m，東西4.64m	重複関係	北半は後世の削平をひどく受ける。		
煙　道	断面図が欠災し不明。北半は後世の削平をひどく受ける。				
カマド	北東辺南寄りに1基。煙道底部のみ残存。長さ64cm，幅32cm。煙出し径40cm。				
地床炉	床面中央やや東寄りに径30～38cmほどの焼土を確認。				
ピット	南東隅寄りに2口。Ｐ1は貯蔵穴の可能性もあるが不明。				

遺物（第22図・第6表）　須恵器の坏・塊・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕，軽石が出土。図化できたのは土器3点。1は須恵器の坏である。口縁部から底部まで約1/2残存。底部糸切無調整。2は須恵器の塊である。底部糸切無調整。3は土師器の甕である。口縁部から体部まで残



第18図　小幅遺跡ＲＡ022竪穴住居跡

fk。頸部に弱い段が認められる。口縁部はヨコナデ，体部外面は縦方向のヘラナデ，内面は横方向のヘラナデが施される。

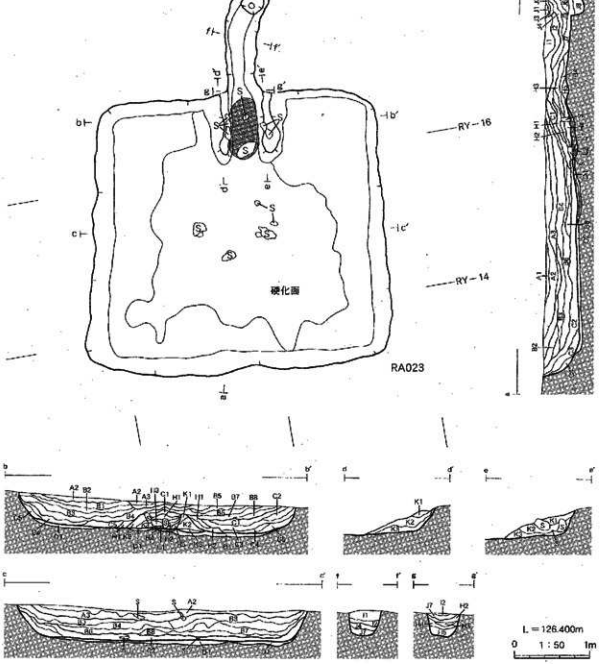
ＲＡ025竪穴住居跡（第23図）

位　　置　Ｃ区　　**平面形**　方形　　**主軸方向**　W24° N

規　　模　東西3.22m，南北3.11m，検出面からの深さ6～24cm

重複関係　RG041と重複し古い。

埋　　土　Ａ，Ｂ，Ｃの３層に大別され，各層はさらに細別。



第19図　小幅遺跡ＲＡ023竪穴住居跡

床　　地山シルト層の上面。構築土は認められない。

カマド　西辺中央に１基。煙道形態は掘り込み式。煙道部は火床面から一段低くなりほぼ平坦に延びる。長さ1.15m，幅36cm，検出面からの深さは約７～９cm。煙出しはピット状で径39cm，検出面からの深さ41cm。埋土は暗褐色土に焼土・炭化物を含む流入土（Ｊ層）が堆積。基底部および火床面下に構築土（Ｌ層）を確認。基底部は褐色土（Ｋ層）で構築。火床面は基底部奥に径0.2m程度の焼土浸透層（L1層）を検出。

ピット　床面中央東寄りに１口検出（Ｐ１）。用途は不明だが，人為堆積土で埋没している。

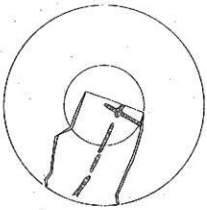
遺　物　床面および埋土，検出面からあかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土。いずれも小破片であり図化できたのはないが，あかやき土器の坏の底部は糸切無調整。土師器の坏はロクロ整形，外面にヘラナデ，内面はヘラミガキ・黒色処理が施されるものである。

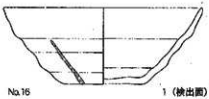
ＲＡ026竪穴住居跡（第25図）

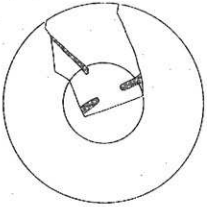
位　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　W43° N

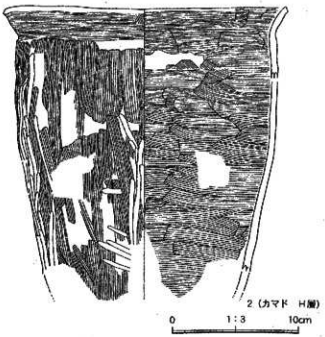
規　模　東西5.42m，南北4.76m，検出面からの深さ39～42cm　　重複関係　なし

堆　土　Ａ～Ｄの４層に大別され，各層はさらに細別。Ｄ層は壁面崩壊土。





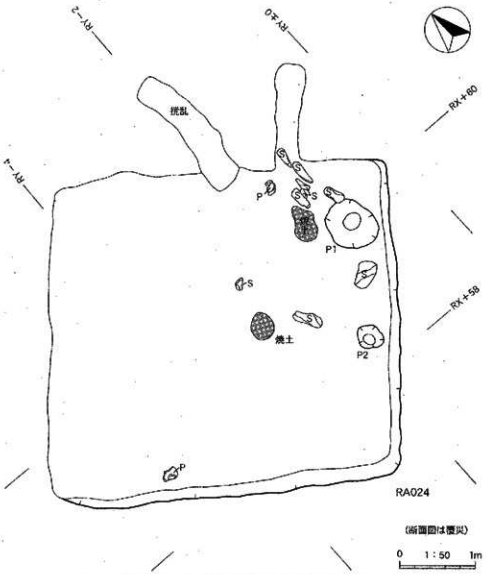




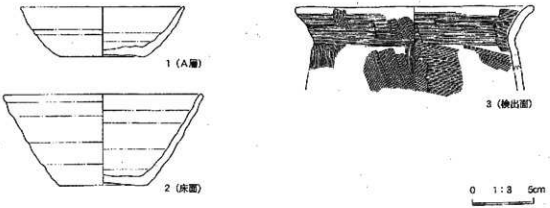
第20図　小幡遺跡ＲＡ023竪穴住居跡出土遺物

床　構築土（L層）および一部地山シルト層の上面。カマドからＰ２にかけては，構築面上の床面が固く締まるが，中央部Ｐ１周辺の非構築面上においては，周辺よりも締まりがない。

カマド　西辺中央に１基。煙道形態は刳り貫き式。煙道部は火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜する。長さ1.15m，幅36cm，検出面からの深さは約７～９cm。煙出しはピット状で径39cm，検



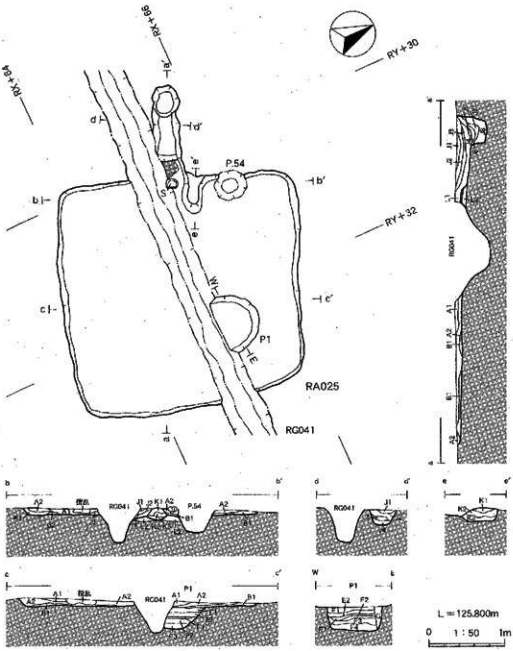
第21図　小幅遺跡ＲＡ024竪穴住居跡



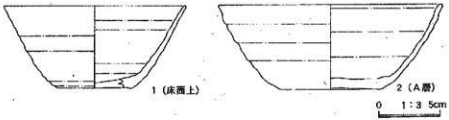
第22図　小幅遺跡ＲＡ024竪穴住居跡出土遺物

出面からの深さ41cm。埋土は暗褐色土に焼土・炭化物を含む流入土（J層）が堆積。基底部および火床面下に構築土（L層）を確認。基底部は褐色土（K層）で構築。火床面は基底部奥に径20cm程度の焼土浸透層（L1層）を検出。

ピット　床面中央に1口（P1）と南東壁際に1口（P2）検出。共に浅いが柱穴と考えられる。

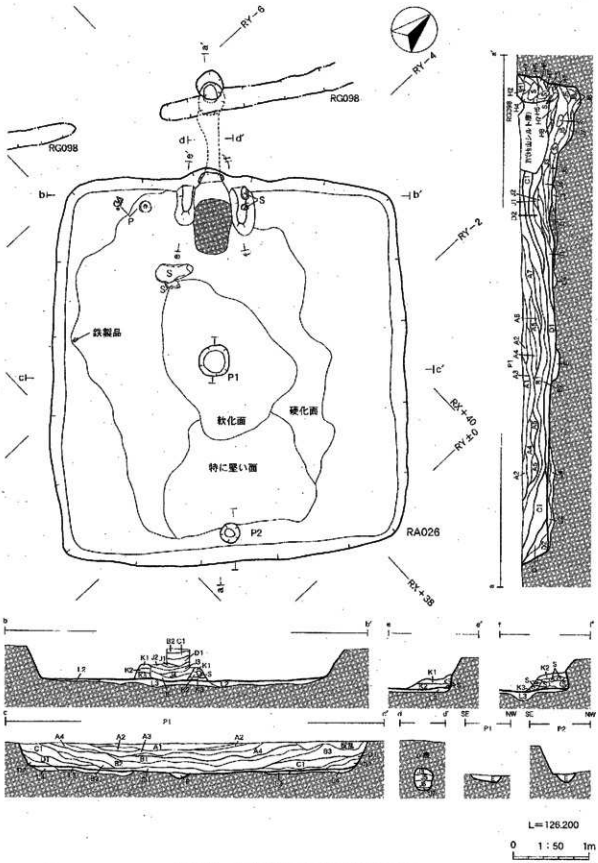


第23図　小幅遺跡ＲＡ025竪穴住居跡



第24図　小幅遺跡ＲＡ026竪穴住居跡出土遺物

遺物（第24図・第6表）　床面および埋土。検出面から須恵器の坏・甕。あかやき土器の坏・甕。土師器の坏・甕が出土。1は須恵器の坏である。底部は糸切，底部から体部下端に回転ヘラケズリ再調整を施す。2はあかやき土器の坏である。底部糸切無調整。



第25図　小幅遺跡ＲＡ026竪穴住居跡

ＲＡ027竪穴住居跡（第26・27図）

位　置　C区　　平面形　方形　　主軸方向　W18° N

規　模　東西6.76m，南北6.02m，検出面からの深さ26～32cm　　重複関係　なし

埋　土　A～Cの３層に大別され，各層はさらに細別。

床　構築土（D層）上面。ほぼ全面にわたり構築面上に硬化面①（D１層），②（D２層）を検出。構築土の違いが認められる。

周　溝　各辺の壁面直下に周溝を検出した。埋土（E層）は壁面崩壊褐色土に暗褐色土を含む。底面には小規模なピットが連続している部分や柱穴が掘り込まれている部分もあり，壁面部材の据え方の可能性がある。

カ　マ　ド　西・北・東の各辺に１基ずつ，計３基検出。平面形や残存状況，埋土の状況などから，カマド３→２→１の順に構築されたものと考えられる。

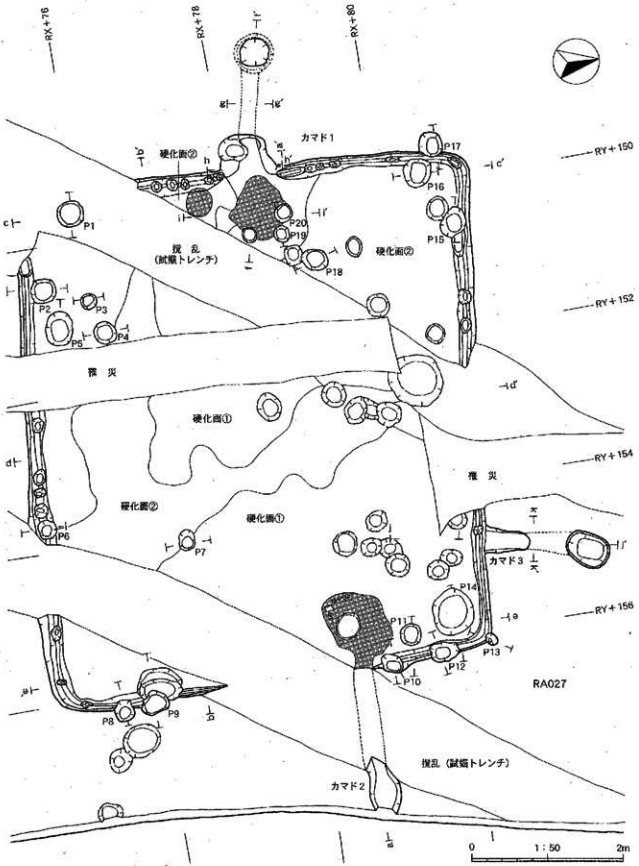
カマド１　西辺中央に検出。煙道形態は刳り貫き式。煙道部天井が一部残存。煙道部は火床面から煙出しに向かって傾斜する。長さ1.78m，幅32cm，検出面からの深さは約26～51cm。煙出しはピット状で上端径38cm，中端径57cm，底面径42cm。検出面からの深さ58cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土および崩壊土（J層）が堆積。基底部は残存しないが，P19と20が基底部芯材として使われた礎の据え方痕跡の可能性がある。径88×82cmにわたって，わずかに凹んだ火床面（L層）を確認。また南側にも径35cm程度の焼土を検出したが，カマド１との関連は不明。

カマド２　東辺北寄りに検出。煙出し部は調査区外に延び検出していない。また煙道部は攪乱を受けている。長さ1.9m以上，幅30～40cm，検出面からの深さ約29cm。埋土は暗褐色土を主体とし褐色土・焼土が混入する流入土（I層）が堆積。基底部は残存しない。火床面は1.0×0.7mにわたって焼土および焼土浸透層（L層）を確認。

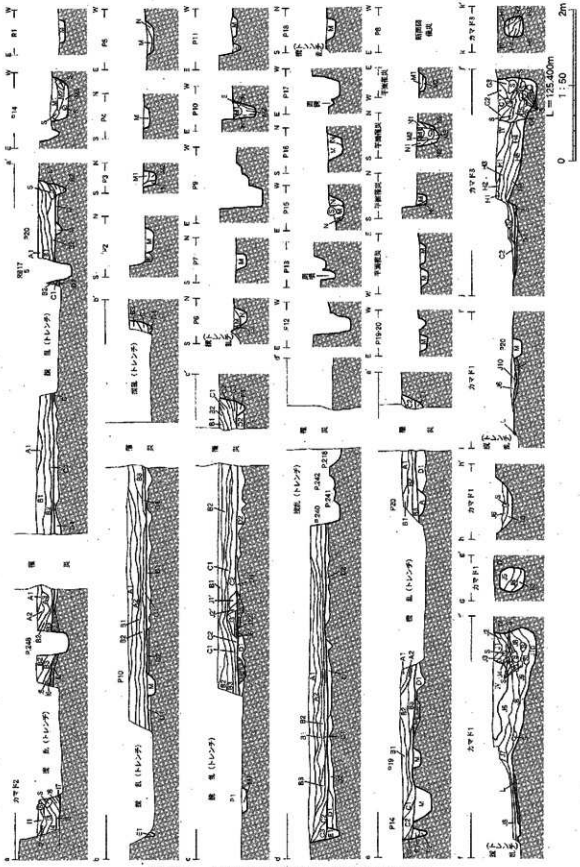
カマド３　北辺東寄りに検出。煙道形態は刳り貫き式。煙道部天井が一部残存。煙道部は火床面との境界部が高まり，煙出しに向かって傾斜する。長さ1.64m，幅約24cm，検出面からの深さは約18～36cm。煙出しは平面形が楕円形を呈するピット状でやや東に傾く。上端径58×42cm，底面径34×24cm，検出面からの深さ51cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土および崩壊土（H層・G層）が堆積。基底部や火床面は残存せず，住居内壁周溝が構築されている。

ピ　ッ　ト　床面および壁際に計20口検出。柱穴はＰ１・２・３・５・６・８・９・10・12・13・15・16と考えられ，Ｐ８・９・10・12は出入口に関連するものの可能性がある。Ｐ14はカマド２もしくはカマド３に付随する貯蔵穴と考えられる。埋土はおおむね２層（M層・N層）に大別。

遺物（第28図・第６表）　検出面・埋土・床面・構築土等から，須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土した。磨滅した小破片が多く，図化できたものは７点。１～３はあかやき土器の坏である。１の底部切り離しは静止糸切無調整。４・５はロクロ整形の土師器の坏である。共に内面はヘラミガキ・黒色処理が施される。４は口縁部外面にヘラミガキ調整が施される。底部は回転糸切の後，体部下端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。５の底部は回転糸切，ヘラナデ，体部下端から底部端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。６はあかやき土器の甕である。頸部から底部まで残存。体部中程以下の外面は一部ヘラナデののち全面にヘラケズリ，内面は縦方向のヘラナデの後，横方向のヘラナデが施される。体部外面下方から外



第26図　小幅遺跡ＲＡ027竪穴住居跡平面図



第27図　小幅遺跡ＲＡ027竪穴住居跡断面図

底面に二次焼成が認められる。7は軽石の砥石である。1面に使用痕跡が認められる。

ＲＡ028竪穴住居跡（第29図）

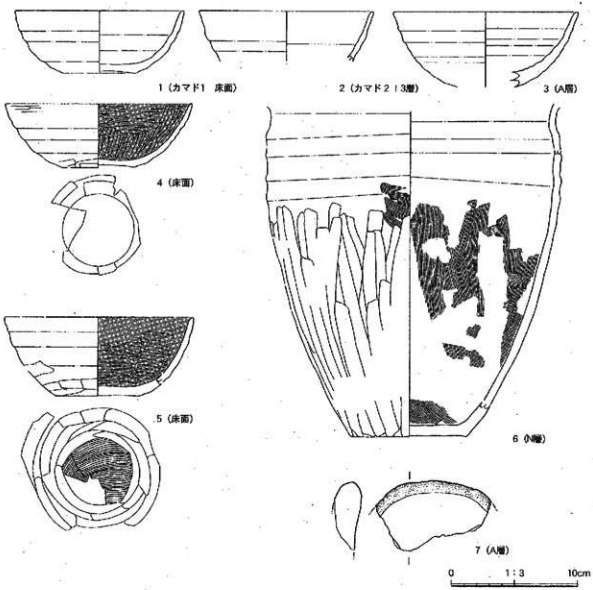
位　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　N10°W

規　模　南北2.1m，東西2.16m，検出面からの深さ16～30cm　　重複関係　なし

埋　土　Ａ・Ｂの２層に大別され，各層はさらに細別。

床　構築土（Ｄ層）上面。中央南寄から北辺にわたり構築面上に硬化面を検出。

カマド　北辺中央やや東寄りに１基検出。煙道形態は刳り貫き式。煙道部天井が一部残存。煙道部は住居北辺の壁面中ほどから掘り込まれ，火床面との境界部が高まり，煙出しに向かって傾斜する。長さ98cm，幅15～26cm。検出面からの深さは約21～40cm。煙出しは上端径30×28cm，底面径42cm程，検出面からの深さ38cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土および崩壊土（Ｊ層）が堆積。基底部は褐色土（Ｋ層）および一部地山を削りだして構築。火床面は基

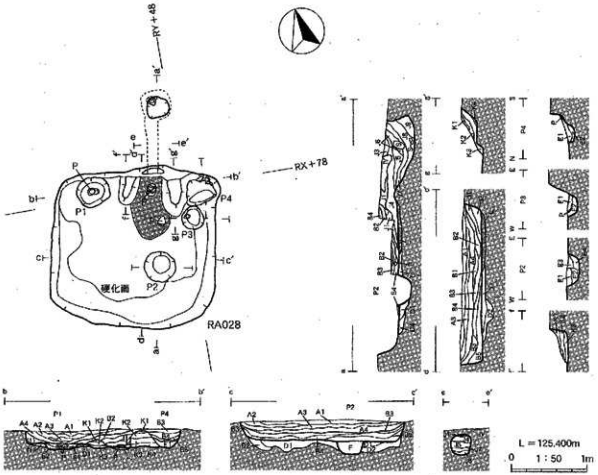


第28図　小幅遺跡ＲＡ027竪穴住居跡出土遺物

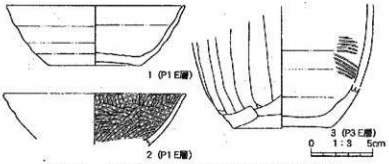
底部間に80×42cmの範囲に焼土および焼土浸透層（L層）を確認。基底部間には土師器甕が伏せて設置されていた。支脚と考えられる。

ピット　床面および壁際に計4口検出。P2は柱穴，P1・3・4は土器片が出土している。貯蔵穴と考えられる。

遺物（第30図・第6表）　検出面・埋土・床面・構築土等から，須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土した。磨滅した小破片が多く，図化できたものは7点。1～3はあかやき土器の坏である。1の底部切り離しは静止糸切無調整。4・5はロクロ整形の土師器の坏である。共に内面はヘラミガキ・黒色処理が施される。4は口縁部外面にヘラミガキ調整が施される。底部は回転糸切の後，体部下端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。5の底部は回転



第29図　小幅遺跡ＲＡ028竪穴住居跡



第30図　小幅遺跡ＲＡ028竪穴住居跡出土遺物

糸切，ヘラナデ，体部下端から底部端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。6はあかやき土器の甕である。頸部から底部まで残存。体部中程以下の外面は一部ヘラナデののち全面にヘラケズリ，内面は縦方向のヘラナデの後，横方向のヘラナデが施される。体部外面下方から外底面に二次焼成が認められる。7は軽石の砥石である。1面に使用痕跡が認められる。

ＲＡ029竪穴住居跡（第31図）

位　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　Ｅ10°Ｎ

規　模　東西4.22m以上，南北4.28m，検出面からの深さ32～42.3cm　　重複関係　なし

埋　土　Ａ～Ｄの４層に大別され，各層はさらに細別。

床　構築上（Ｈ層）上面。構築面上に硬化面（Ｈ１層）を検出。

周　溝　カマドが構築されている辺以外の壁面直下に周溝を検出した。埋土（Ｅ層）は崩壊褐色土に暗褐色土を含む。壁面部材の据え方の可能性がある。

カマド　東辺北寄りに１基検出。煙道形態は掘り込み式。煙道部は火床面との境界部が高まり，煙出しに向かって傾斜する。長さ1.32m，幅28cm，検出面からの深さは約12～43cm。煙出しは径26cm，検出面からの深さ45cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土（Ｊ層）および褐色土を中心とした崩壊土（Ｉ層）が堆積。煙出し埋土中ほどには礫が堆積しており，廃棄時に投げ込んだものではなく，煙出しの壁面を礫で補強していた可能性がある。基底部は褐色土（Ｋ層）および礫で構築。火床面は基底部間に焼土および焼土浸透層（Ｌ層）を確認。平面詳細は罹災し不明。

ピット　床面および壁際に計13ヵ検出。Ｐ12・13は貯蔵穴と考えられる。

遺物（第34図・第６表）　検出面・埋土・床面・構築土等から，須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土した。図化できたものは５点。１は須恵器の坏である。糸切無調整。２～３はあかやき土器の坏である。底部糸切後に，２は底部の一部をヘラケズリ再調整，３は体部下端の一部を手持ちヘラケズリの再調整を施す。４はあかやき土器の甕である。器面の摩滅が著しいが，体部外面はタタキ調整の後ハケメ，内面は横方向のハケメ調整が施されている。５は土師器の甕である。非ロクロ整形。頸部に弱い段がみえる。口縁部はヨコナデ，体部外面はヘラケズリ，体部内面はヘラナデの調整が施される。

ＲＡ030竪穴住居跡（第32図）

位　置　Ｃ区　　平面形　方形　　主軸方向　Ｅ24°Ｓ

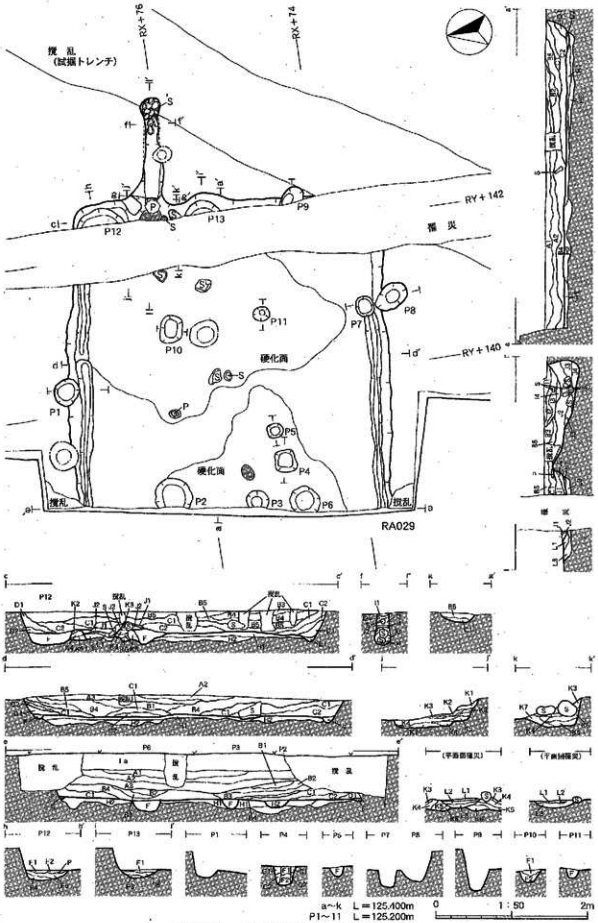
規　模　東西4.18m，南北3.95m，検出面からの深さ15～20cm

重複関係　RB022掘立柱建物跡と重複し，古い。

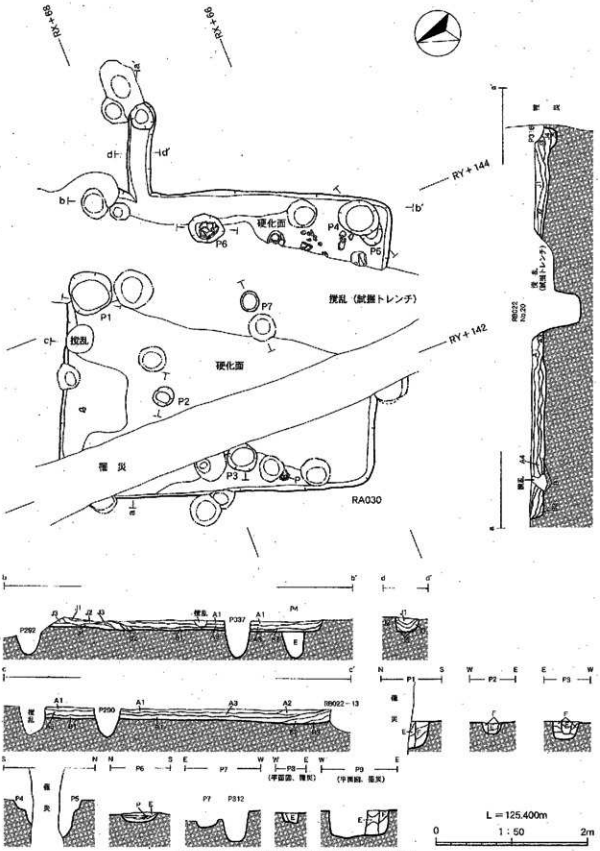
埋　土　Ａ・Ｂの２層に大別され，各層はさらに細別。

床　地山シルト層上面。構築土は確認できない。床面の大半に硬化面を確認。

カマド　東辺北寄りに１基検出。煙道形態は掘り込み式。煙道部は床面からほぼ平坦に延び，煙出しに向かってわずかに傾斜する。長さ1.11m，幅31cm，検出面からの深さは約13～19cm。煙出しは径38cm，検出面からの深さ30cmのピット状。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土（Ｊ層）が堆積。基底部，火床面は残存しない。



第31図　小幅遺跡ＲＡ029竪穴住居跡



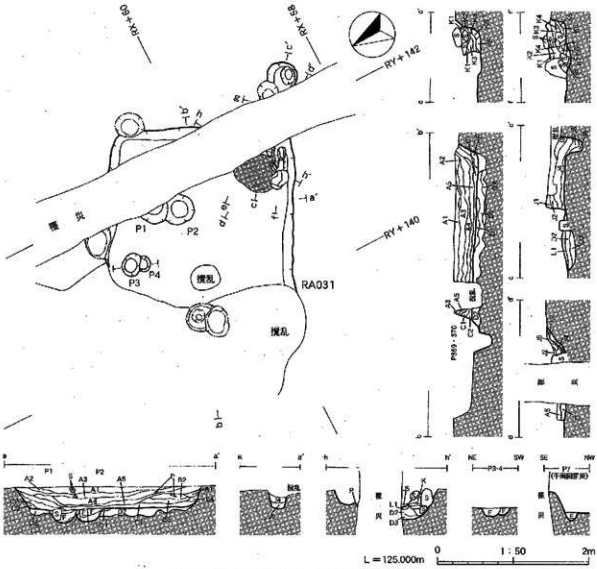
第32図　小幅遺跡ＲＡ030竪穴住居跡

ピット　床面および壁際に計９口検出。Ｐ６はカマド脇の貯蔵穴と考えられる。

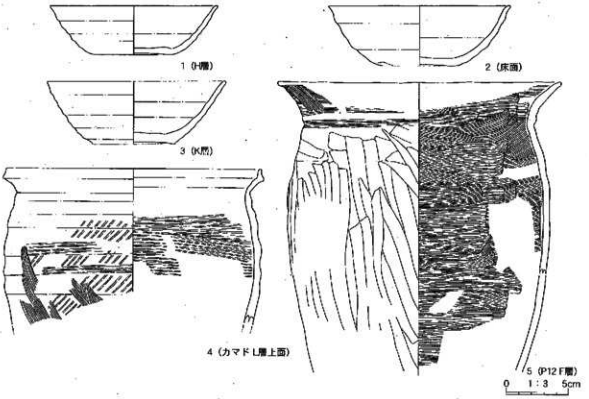
遺物（第35図・第６表）　検出面・埋土・床面等から，須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土した。図化できたものは５点。１～２は土師器の坏である。ロクロ整形。内面黒色処理・ヘラミガキ。２の底部中央には，焼成後に内側から穿孔されている。３～５は土師器の甕である。３の体部外面はヘラケズリ，一部ヘラナデ，内面はヘラナデ。４の口縁部はヨコナデ，体部外面はヘラケズリ，体部内面はヘラナデ。５の体部は内外面ともにヘラナデ。５の底部は，中心部に砂が多く付着するいわゆる砂底土器である。

ＲＡ031竪穴住居跡（第33図）

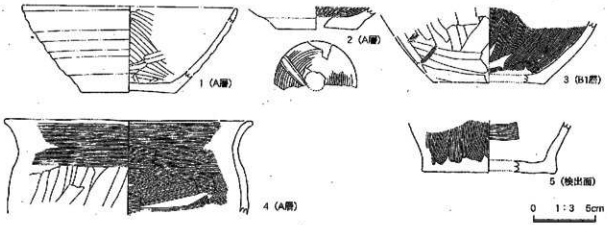
位　置	Ｃ区	平面形	方形	主軸方向	Ｅ29°Ｓ
規　模	東西2.3m以上，南北2.49m，検出面からの深さ38～42cm			重複関係	なし
埋　土	Ａ～Ｃの３層に大別され，各層はさらに細別。				



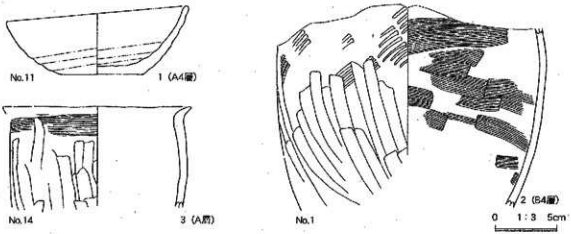
第33図　小幅遺跡ＲＡ031竪穴住居跡



第34図　小幅遺跡ＲＡ029竪穴住居跡出土遺物



第35図　小幅遺跡ＲＡ030竪穴住居跡出土遺物



第36図　小幅遺跡ＲＡ031竪穴住居跡出土遺物

床　　構築土（D１～３層）上面。

カ マ ド　東辺南端隅に１基検出。煙道形態は掘り込み式。煙道部は床面からほぼ平坦に延びる。長さ約1.10m，幅20cm，検出面からの深さは約20～24cm。煙出しは，上端径40cm，下端径18×25cm，検出面からの深さ45cmのほどのピット状。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土（J層）が堆積。

ピ ッ ト　床面に４口検出。

遺物（第36図・第６表）　検出面・埋土・床面等から，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土した。１はあかやき土器の坏である。２はあかやき土器の甕である。体部外面はタタキの後ヘラケズリ，体部内面はヘラナデの調整が施される。３は土師器の甕である。頸部にヨコナデ，体部外面はヘラケズリが施される。

ＲＡ039竪穴住居跡（第37図）

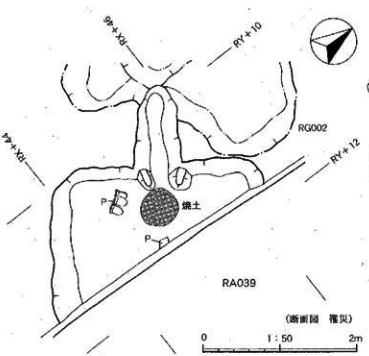
位　　置　C区　　平面形　方形　　主軸方向　N38° W

規　　模　北西－南東1.8m以上，北東－南西2.8m　　重複関係　なし

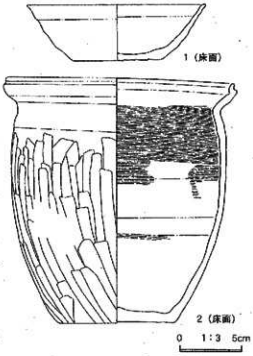
埋　　土　（断面図等罹災のため不明）

カ マ ド　北西壁中央に１基検出。煙道形態は掘り込み式と考えられる。煙道部は床面からほぼ平坦に延びる。長さ約1.05m，幅40～60cm。基底部全面に火床面を確認。

遺物（第38図・第６表）　床面等から，須恵器の坏，あかやき土器の甕が出土した。１は須恵器の坏である。回転ヘラ切り無調整。２はあかやき土器の甕である。体部外面はヘラケズリ，体部内面はカキメ調整が施される。



第37図　小幅遺跡ＲＡ039竪穴住居跡



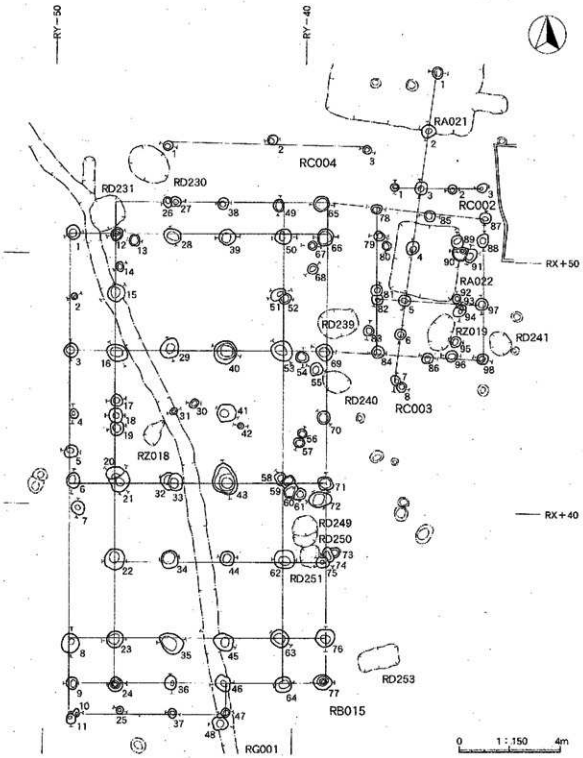
第38図　小幅遺跡ＲＡ039竪穴住居跡出土遺物

（3）掘立柱建物跡（ＲＢ）・一本柱列（ＲＣ）

掘立柱建物跡15棟（RB015～23，027～032），一本柱列３条（RC002～004）を検出した。

ＲＢ015掘立柱建物跡（第39・40図，第２表）

桁行７間・梁間３間で構成される南北棟の主屋と北東側に桁行３間・梁間３間の付属屋，南西側に１間の下屋がつく掘立柱建物跡である。付属屋は，南に振れる。主屋は４ないし５間の



第39図　小幅遺跡ＲＢ015掘立柱建物跡，ＲＣ002，003，004柱列跡平面図

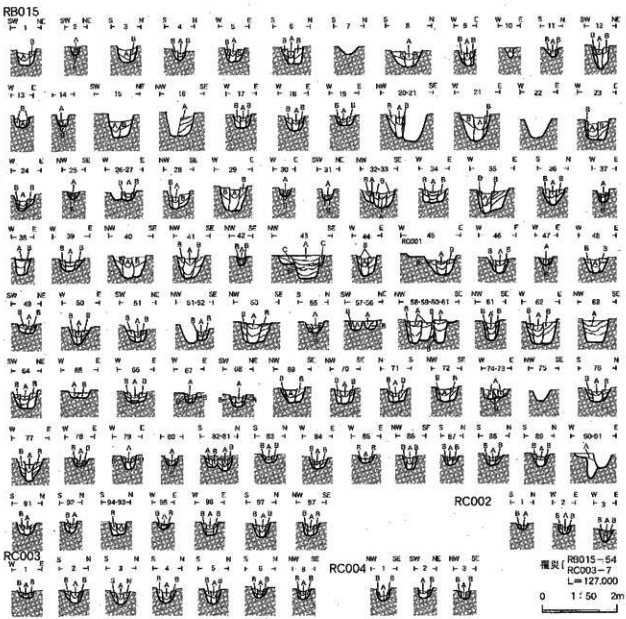
間仕切りがある。構造から近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＣ002・003・004一本柱列跡（第39・40図，第２表）

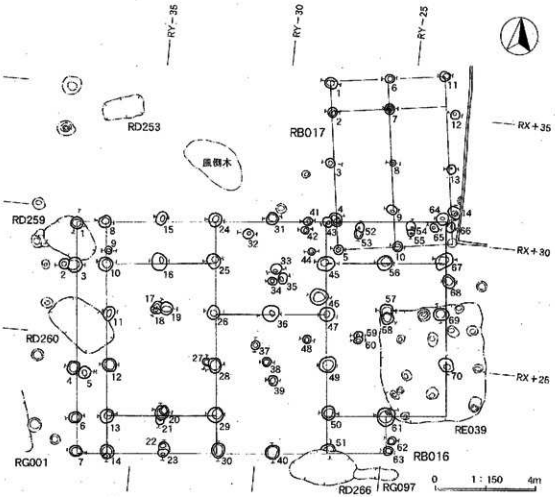
RC002と004の一本柱列は，RB015建物跡の北側に平行していることから，RB015付属の施設と考えられ，下屋などを構成する可能性もある。RC003一本柱列は，RB015，RC002，004よりも新しい可能性がある。

ＲＢ016掘立柱建物跡（第41・42図，第２表）

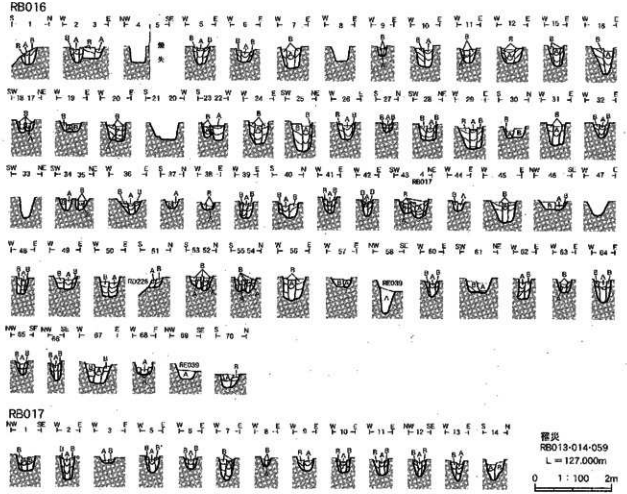
桁行７間・梁間５間で構成される東西棟の掘立柱建物跡である。南東隅に出入口，中央から西側が互い違い山の字型の部屋に分かれる。構造から近世（17世紀末以降）の建物跡と考えられる。



第40図　小幡遺跡ＲＢ015掘立柱建物跡，ＲＣ002，003，004柱列跡断面図



第41図　小幅遺跡ＲＢ016，017掘立柱建物跡平面図



第42図　小幅遺跡ＲＢ016，017掘立柱建物跡断面図

ＲＢ017掘立柱建物跡（第41・42図，第２表）

桁行４間・梁間２間で構成される南北棟の掘立柱建物跡である。RB016建物跡よりも新しい。構造などから近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ018掘立柱建物跡（第43図，第２表）

桁行３間・梁行３間で構成される東西棟の掘立柱建物跡である。RG113と重複し古い。北側桁行柱筋の西から１間目に間柱が入ると考えられる。構造等から近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ019掘立柱建物跡（第44図，第２表）

桁行３間・梁行３間で構成される南北棟の掘立柱建物跡である。RG099溝跡と重複し新しい。北から１間目に間仕切り等が配置されていた可能性がある。構造等から近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ020掘立柱建物跡（第44図，第２表）

桁行２間・梁行２間で構成される正方形の掘立柱建物跡である。総柱の建物跡の可能性もあるが，内部に柱穴は確認できなかった。木建物跡の北西に位置するRA024竪穴住居跡と方向が酷似する点や構造等から，古代の建物跡の可能性がある。

ＲＢ021掘立柱建物跡（第45図，第２表）

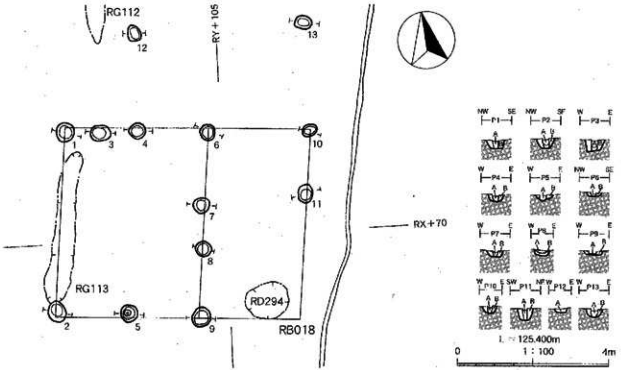
桁行1間・梁行1間で構成される正方形の掘立柱建物跡である。南側柱筋は建替えのある可能性がある。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ022掘立柱建物跡（第46図，第２表）

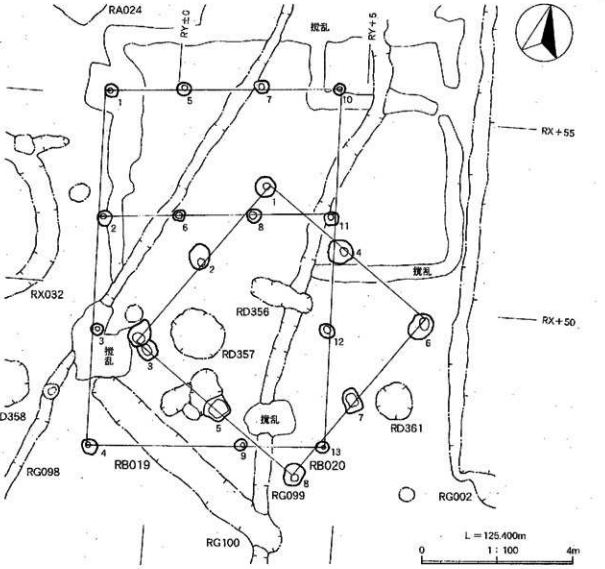
桁行５間・梁行３間の東西棟で南北に１間ずつ庇もしくは縁のつく掘立柱建物跡である。南側柱筋は建替えのある可能性がある。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ023掘立柱建物跡（第47図，第２表）

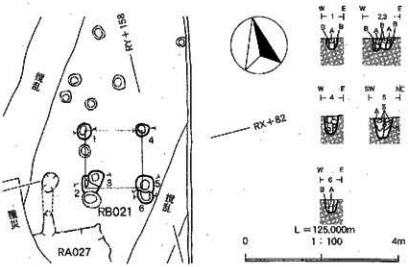
桁行３間・梁行１間の南北棟の掘立柱建物跡である。桁行柱筋には柱筋溝状遺構が検出されている。地覆もしくは壁材の据付痕もしくは抜き取り痕の可能性がある。近世以降の建物跡と考えられるRB029建物跡などと方向が揃うことや周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。



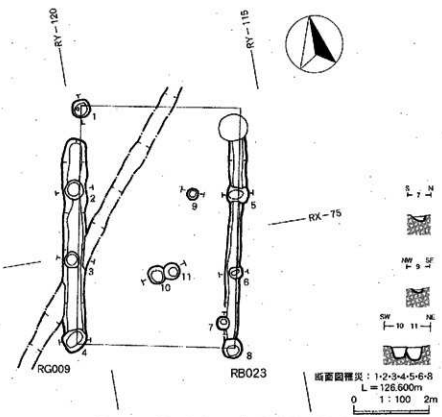
第43図　小幅遺跡ＲＢ018掘立柱建物跡



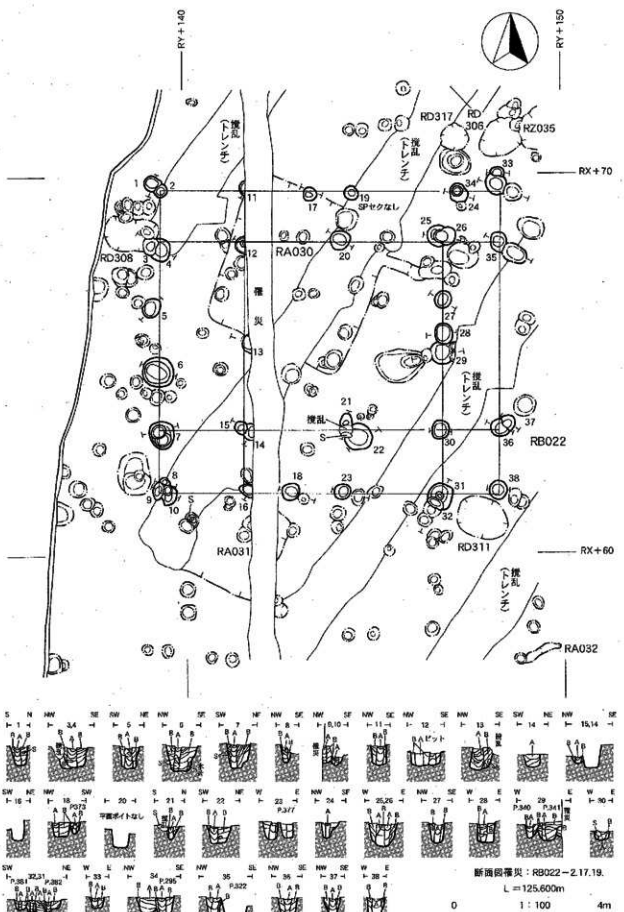
第44図　小幅遺跡ＲＢ019，020掘立柱建物跡



第45図　小幅遺跡ＲＢ021掘立柱建物跡



第46図　小幅遺跡ＲＢ023掘立柱建物跡



第47図　小幅遺跡ＲＢ022掘立柱建物跡

ＲＢ027掘立柱建物跡（第48・49図，第２表）

桁行２間・梁行２間の南北棟で，間仕切りをもつ掘立柱建物跡である。RB028建物跡と一部重複し，RB028建物跡よりも新しい。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ028掘立柱建物跡（第48・49図，第２表）

桁行15間・梁行３間の東西棟の身舎に，南西側に桁行７間・梁行３間の南北棟がつくＬ字形の平面形，いわゆる曲り家状を呈する掘立柱建物跡である。身舎南側柱筋の西端に１間分の下屋がつき，玄関部と考えられる。曲り家西側柱筋の北から２間目に桁行３間梁行１間分の ト屋がつく。建物の一部が調査範囲外であるが，身舎は４回の建替が認められる。RB027建物跡と重複し，古い。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ029掘立柱建物跡（第48・49図，第２表）

桁行６間・梁行２間の東西棟で南に２間の庇もしくは縁のつく掘立柱建物跡である。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ030掘立柱建物跡（第50図，第２表）

桁行６間・梁行２間の南北棟の掘立柱建物跡である。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ031掘立柱建物跡（第50図，第２表）

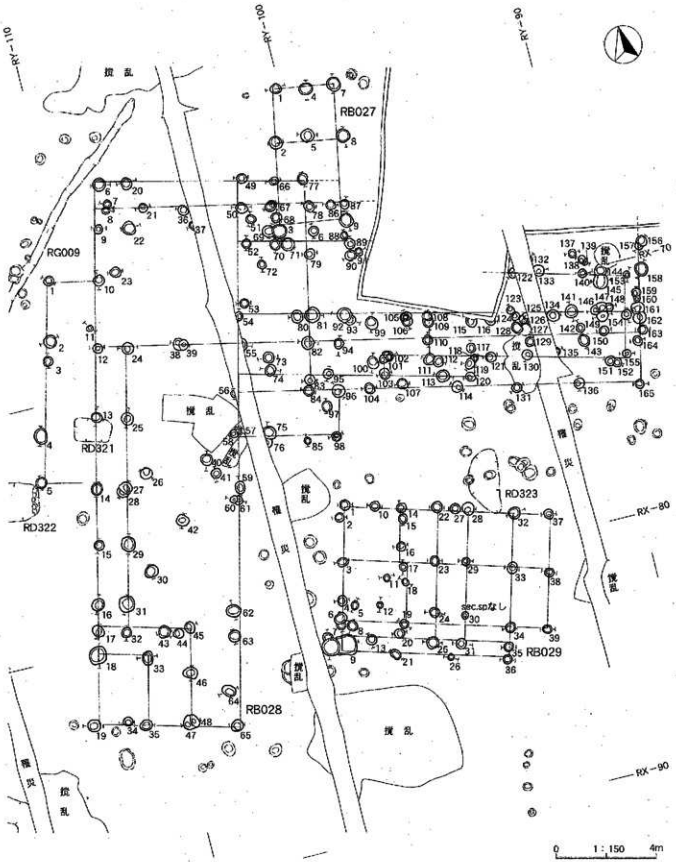
桁行６間・梁行１間の南北棟の掘立柱建物跡である。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

ＲＢ032掘立柱建物跡（第51図，第２表）

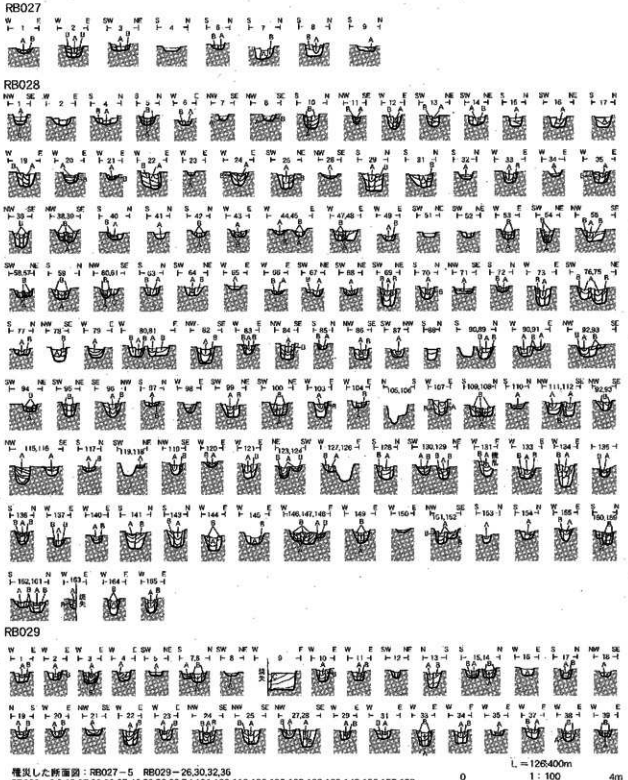
桁行７間・梁行３間の東西棟の掘立柱建物跡である。柱穴の重複関係から同位置同規模の２時期の変遷がある。桁行北側柱筋に１間分の庇がつく。桁行柱筋４間目に間仕切りがつく。構造や周辺の状況から，近世以降の建物跡と考えられる。

遺構名	位置 区	位置 NX	位置 NY	軸方向	軸長（m/尺） 桁行軸長	軸長（m/尺） 梁行軸長	身舎桁筋 桁行柱間	身舎桁筋 梁行柱間	柱間寸法（m） 桁行柱間	柱間寸法（m） 梁行柱間	新旧関係（旧→新）	備考
RB015 全景				N1° W	17.5/59	6.7/22	7間	3間	2.4・2.4・5.2・3.0・3.0・1.8・1.2	2.4・2.1・2.1		北東に付属屋。南西に下屋。
付属屋					6.3/21	6.8/18.5	3間	3間	2.1・2.1・2.1	0.9・2.4・2.1		
RB016				E4.5° N	14.7/48.5	8.2/30.5	7間	5間	1.05・2.1・2.3・2.3・2.1・2.4・2.4	1.7・1.8・1.9・2.1・1.7	→RB017	
RB017				N6.5° W	6.7/22	9.7/30.5	4間	2間	1.2・2.1・2.25・1.05	2.35・2.25	RB016→	
RB018	E	+75	+100	E3.5° W	9.6/31.5	5/16.5	3間	1間	1.8・1.8・2.7	5.1		
RB019	C	+55	−5	W1.5° W	9.4/31	6.3/21	3間	3間	3.3・3.0・3.0	2.1・2.1・2.1		
RB020	C	+50	±0	N35.5° E	5.4/18	5.4/18	2間	2間	2.7・2.7	2.7・2.7		
RB021		+84	+160	N14.5° E	1.5/5	1.5/5	1間	1間	1.5	1.5		
RB022	H	+70	+145	E1° S	8.9/29.5	7.9/26	6間	3間	北 2.25・1.7・1.05・2.9・1.1 南 2.25・1.25・1.3・2.6・1.5	1.65・1.65・1.05		南北に１間ずつ拡小傾（北 1.3・南 1.85）
RB023	G	−69	−118	N10° E	3.1/10	2.1/7	3間	1間	1.1・0.9・1.1	2.1		地盤悪弾もしくは盛土付属
RB027	G	−62	−102	N10.5° E	5.9/20	2.4/8	2間	2間	2.1・3.8	1.2・1.2		
RB028-A	G	−84	−108									
RB028-B	G	−84	−108									
RB028-C	G	−84	−108									
RB029	G	−84	−102	E16° S	9.3/27.5	5.2/17	6間	3間	1.2・1.05・1.5・1.2・1.8・1.5	2.1・2.4・0.8		
RB030	G	−70	−86	W10° E	7.4/24.5	3.2/10.5	6間	2間	東 0.75・2.25・1.2・1.2・1.8・1.5 西 1.1・1.1・1.1・1.1・1.1・1.9	北 1.35・1.85 南 1.65・1.5	31→	
RB031	G	−70	−86	W18° E	8.2/27	3.3/10	6間・5間	1間	東 1.3・1.2・1.9・2.1・1.5・1.5 西 1.5・0.9・1.9・2.1・1.8	北 3.2 南 3.3	→30	
RB032	G	−72	−82	E17.5° S	13.8/46.5	6.7/22	6間	4間	2.55・2.85・2.1・2.1・2.1・2.25	東 0.8・0.9・2.1・2.4 西 0.9・1.2・2.1・2.4		2時期

第２表　小幅遺跡　掘立柱建物跡一覧

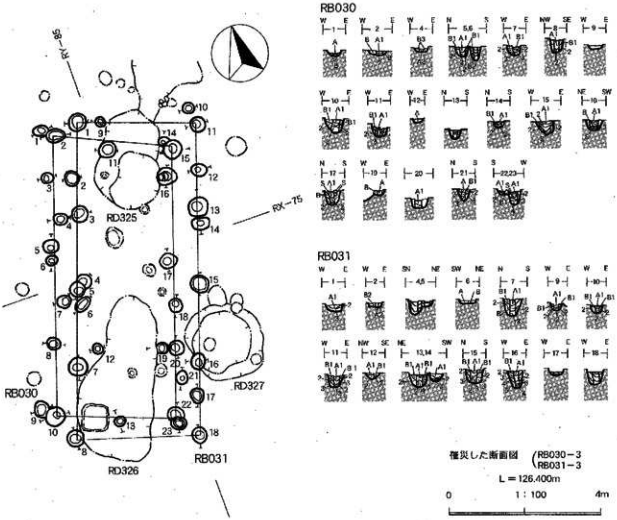


第48図　小幅遺跡ＲＢ027，028，029掘立柱建物跡平面図

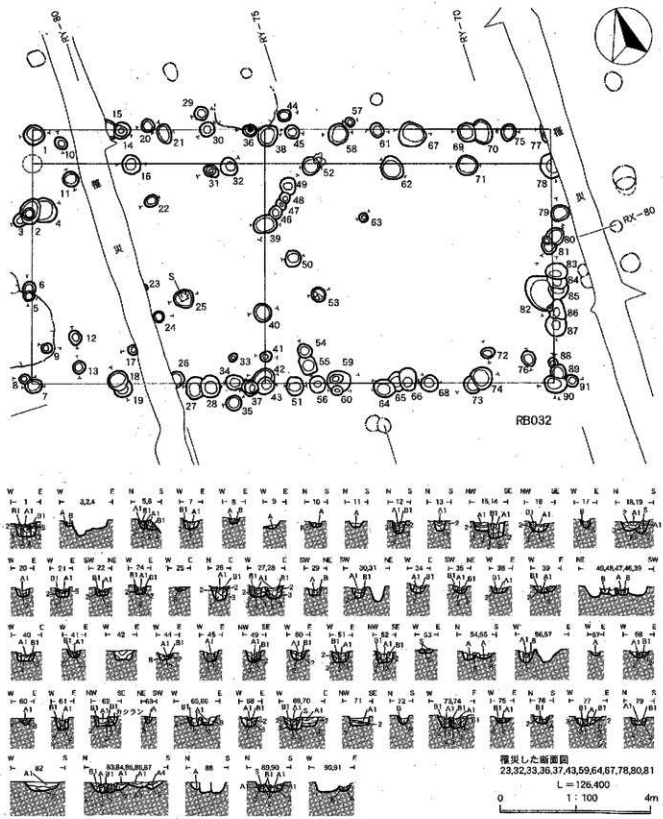


種災した柱痕跡：RB027－5　RB029－26,30,32,36
RB028－3,9,18,27,28,30,37,46,50,56,62,74,101,102,113,122,125,132,138,139,142,156,157,158

第49図　小幅遺跡ＲＢ027，028，029掘立柱建物跡断面図



第50図　小幅遺跡ＲＢ030，031掘立柱建物跡



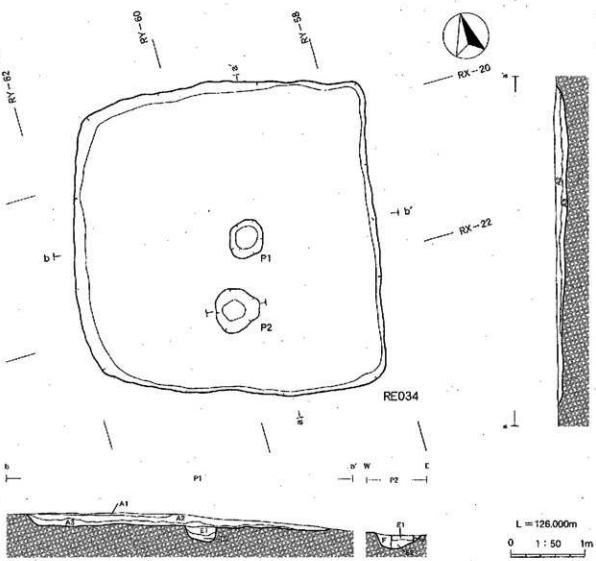
第51図　小幅遺跡ＲＢ032掘立柱建物跡

（4）竪穴建物跡（ＲＥ）

竪穴建物跡９棟（RE034～042）を検出した。

ＲＥ034竪穴建物跡（第52図）

南北4.2m，東西4.1mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは，8～18cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面はほぼ平坦で，壁面は皿状を呈する。床目中央やや南寄りに小ピット２ヵを検出した。柱穴と考えられる。近世以降の窯の可能性がある。



第52図　小幅遺跡ＲＥ034竪穴建物跡

ＲＥ035・36・37竪穴建物跡（第53図）

３棟重複して確認された。古い順に，RE037→036→035に構築されたものである。おおむね南北2.3～2.5m，東西2.04～2.5mをはかり，方形を呈する。検出面から床面までの深さは５～24cmをはかり，RE036が最も深い。近世以降の室の可能性がある。

ＲＥ038竪穴建物跡（第54図）

南北に突出部を持つ南北方向の竪穴建物跡である。突出部も含め南北3.31m，東西1.95mをはかる。不整長方形を呈する。検出面から床面までの深さは72～94cmをはかり，床面は北側にむかって緩やかに深くなる。検出面から突出部底面までの深さは30～34cmをはかる。埋土は自然堆積である。壁面下の床面に６ヶの小ピットを検出した。桁行２間，架行１間の柱穴と考えられる。南北の突出部は出入口部と考えられるが，同時に南北共にあったのか，片方ずつ新旧関係があるのかは不明である。中近世以降の遺構の可能性がある。

ＲＥ039竪穴建物跡（第55図）

南北4.6m，東西4.1mをはかり，方形を呈する。検出面から床面までの深さは28～30cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面は平坦であり，柱穴と考えられる小ピットをつなぐように壁下周溝と，内側に壁面とほぼ平行に１条の溝がめぐる。Ｐ６・７・８は棟持柱の可能性がある。中近世以降の遺構の可能性がある。

ＲＥ040竪穴建物跡（第56図）

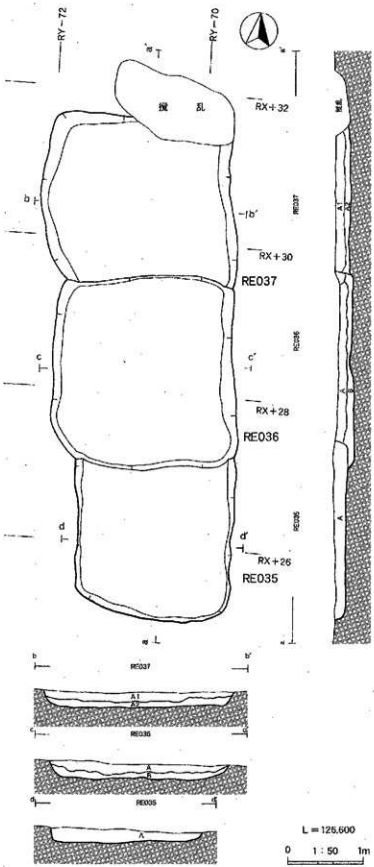
平面形は方形で，北東隅に突出部をもつ。南北3.18m，東西2.5m，突出部も含めると東西2.8m以上をはかる。検出面から床面までの深さは10～18cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面はほぼ平坦である。中近世以降の遺構の可能性がある。

ＲＥ041竪穴建物跡（第56図）

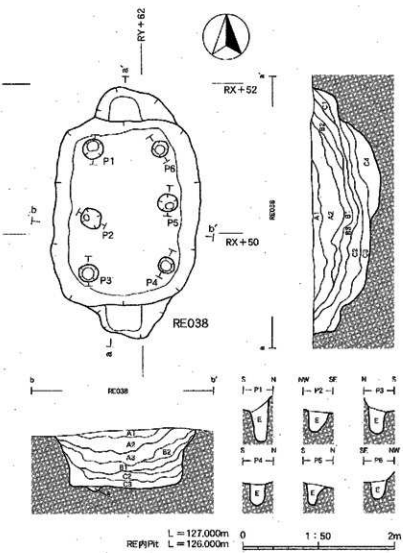
調査区外に大半が位置し，その北東隅だけを検出した。平面形は方形と考えられ，検出面から床面までの深さは15～20cmをはかる。埋土は自然堆積である。古代以降の可能性がある。

ＲＥ042竪穴建物跡（第56図）

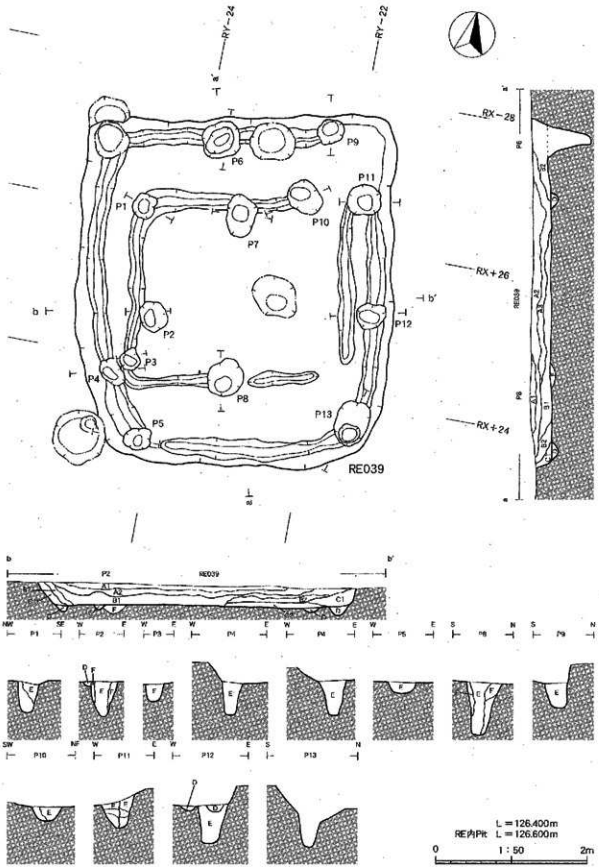
調査区外に大半が位置し，その西端だけを検出した。平面形は方形と考えられる。南北6.3m，東西1.2m以上をはかる。検出面から床面までの深さは約28cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面はほぼ平坦である。古代以降の遺構の可能性がある。



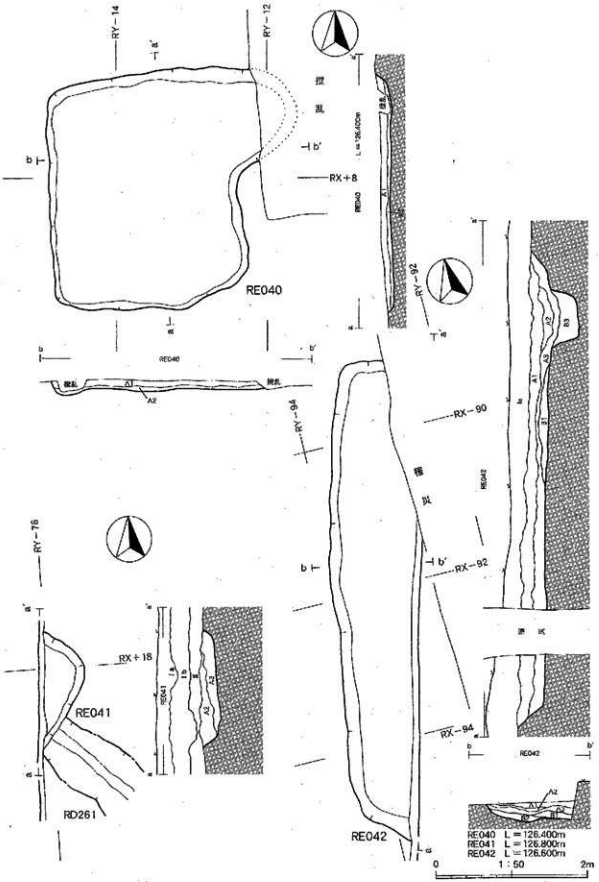
第53図　小幅遺跡ＲＥ035，036，037竪穴建物跡



第54図　小幡遺跡ＲＥ038竪穴建物跡



第55図　小幅遺跡ＲＥ039竪穴建物跡



第56図　小幅遺跡ＲＥ040，041，042竪穴建物跡

（5）井戸跡（ＲＩ）

井戸跡３基（RI006・007・008）を検出した。

ＲＩ006井戸跡（第57図）

平面形は長軸1.7m，短軸1.42mほどをはかる円形を呈する。検出面から底面までの深さは，62cmをはかる。埋土は自然堆積である。底の壁際には壁溝が確認された。底面に木片を検出した。中近世以降の井戸の可能性がある。

ＲＩ007井戸跡（第57図）

平面形は長軸2.62m，短軸2.42mほどをはかる円形を呈する。検出面から底面までの深さは，1.68mをはかる。埋土は自然堆積で，上層部には礫を含む。底面に木片を検出した。断面形はフラスコ状を呈するが，崩壊したものと考えられる。中近世以降の井戸の可能性がある。

ＲＩ008井戸跡（第58図）

長軸1.2m，短軸1.1mほどをはかる円形を呈する。検出面から底面までの深さは，1.2～1.3mをはかる。埋土はＡ・Ｂ・Ｃ層は自然堆積で，下層部のＤ層は，井戸構築時に井戸枠をおさえるために埋め戻した人為堆積土と考えられる。Ａ層は崩壊流入土と考えられ，礫を多く含む。底面やや南東寄りに井戸枠が残存していた。中近世以降の井戸の可能性がある。

（6）円形周溝（ＲＸ）

円形周溝３基（RX032・039・040）を検出した。

ＲＸ032円形周溝（第60図）

平面形は4.7mほどをはかる円形を呈する。溝は幅40～60cm，検出面から底面までの深さ14～24cmをはかる。埋土は自然堆積である。

ＲＸ039円形周溝（第59図）

平面形は長軸5.2m，短軸4.7mほどをはかる不整楕円形を呈する。溝は幅1.0～1.8m，検出面から底面までの深さ30～50cmをはかる。埋土は自然堆積である。

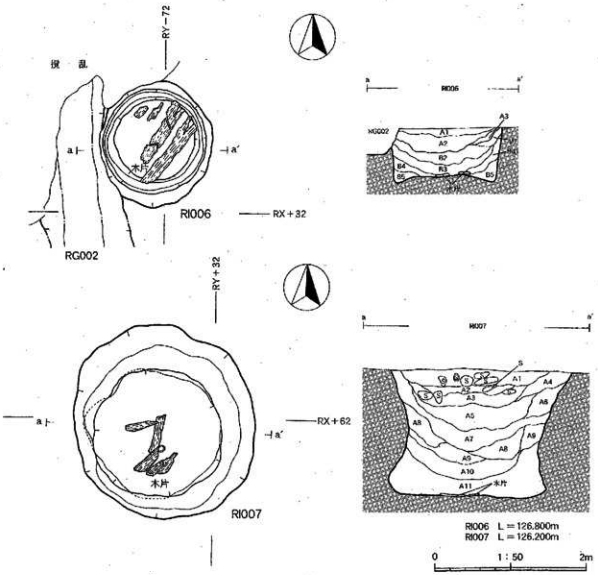
ＲＸ040円形周溝（第61図）

平面形は長軸4.4m，短軸3.5mほどをはかる楕円形を呈する。溝は幅58～92cm，検出面から底面までの深さ8～18cmをはかる。埋土は自然堆積である。

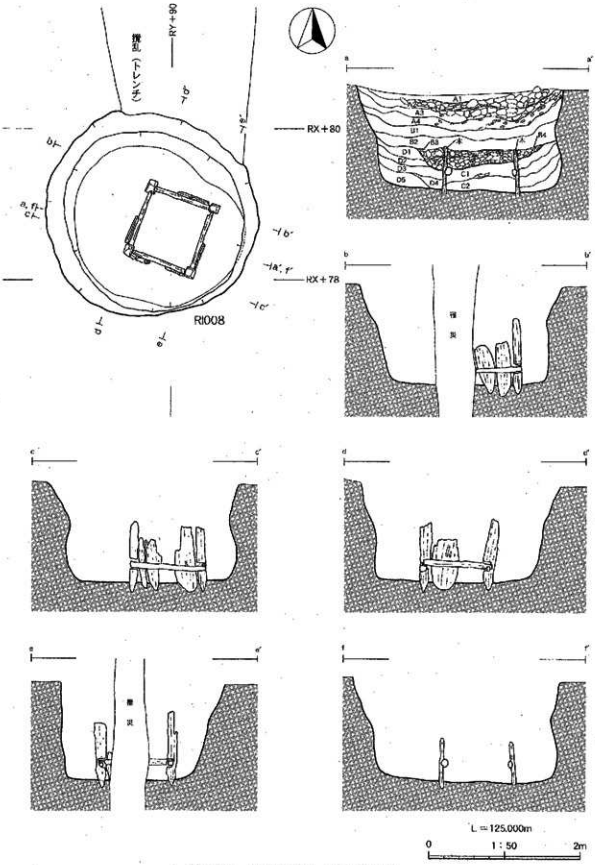
（7）土坑（ＲＤ・ＲＺ）（第62～84図　第３・４表）

土坑は121基検出した。詳細は第62～84図および第３・４表のとおりである。ＲＺは，埋土に焼土層を含むものに付した。

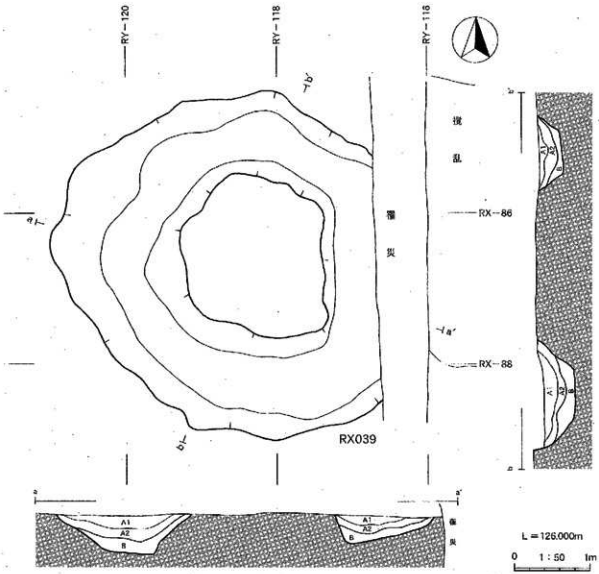
RD246・247・261・275は，形状から縄文時代以降の陥し穴と考えられる。RD272は，壁面に袋状ピットをもつ古代の土坑墓の可能性がある。RD276は，その形状から中世以降の素掘りの井戸の可能性がある。RD323はその形状から風倒木痕の可能性がある。RD329は，床面も壁面も木製板で覆われており近現代の室(むろ)の可能性がある。



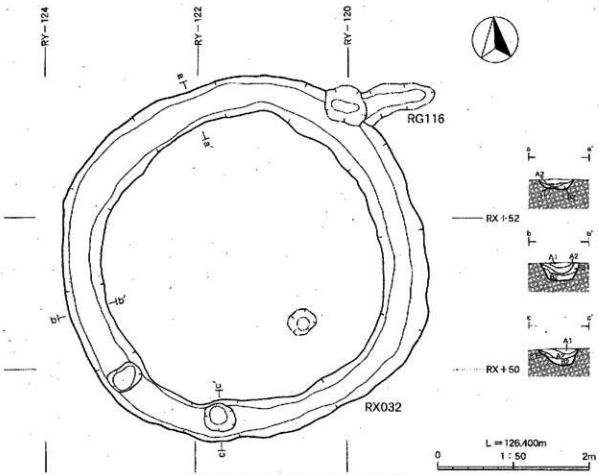
第57図　小幅遺跡ＲＩ006，007井戸跡



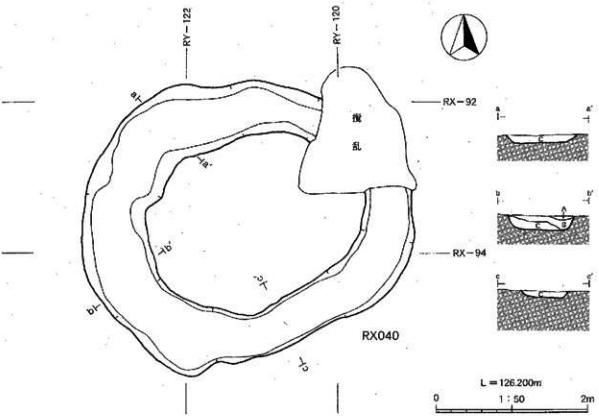
第58図　小幅遺跡ＲＩ008井戸跡



第59図　小幅遺跡ＲＸ039円形周溝



第60図　小幅遺跡ＲＸ032円形周溝



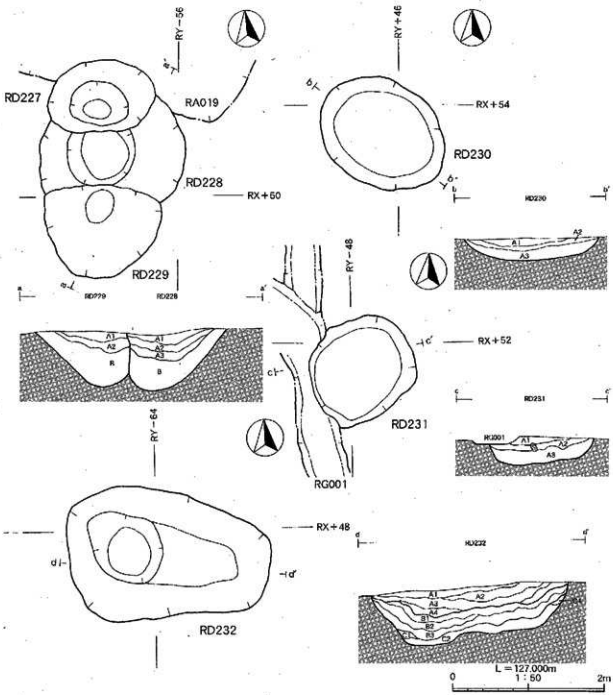
第61図　小幅遺跡ＲＸ040円形周溝

遺構名	位置		平面形	規模			主軸方向	遺物
	RX	RY		長軸（m）	短軸（m）	検出面からの深さ		
RD227	+50	−56	不整楕円形	1.40	0.97	0.94	E15° N	あかやき・坏・甕　陶磁器
RD228	+50	−56	楕円形	0.7 以上	1.93	0.74	N0°	
RD229	+50	−56	不整楕円形	1.22 以上	1.54	0.73	S0°	
RD230	+50	−56	楕円形	1.80	1.33	0.30	W35° N	土師器・坏、甕
RD231	+50	−56	方形	1.41	1.31	0.37	E28° N	土師器・坏　須恵器・甕
RD232	+50	−56	不整長方形	2.76	1.71	0.74	E23° N	
RD233	+46	−62	不整楕円形	0.92	0.63	0.40	E40° N	
RD234	+46	−62	ほぼ円形	1.90	1.79	0.60	E43° N	土師器・坏　須恵器・甕
RD235	+46	−60	不整楕円形	1.28	1.27	0.32	W36° N	
RD236	+46	−64	不整長方形	1.54	1.26	0.48	W21° N	
RD237	+50	−62	不整楕円形	1.56	1.18	0.55	N42° W	
RD238	+50	−52	不整長方形	1.93	1.30	0.85	N0°	
RD239	+48	−36	不整長方形	1.64	1.14	0.60	E21° N	土師器・坏
RD340	+46	−56	不整楕円形	1.16	0.99	0.32	W32° N	
RD241	+42	−32	長楕円形	3.38	1.47	0.26	N43° W	
RD242	+40	−32	不整楕円形	1.42	1.40	0.13	E8° N	
RD243	+40	−36	不整長方形	1.50	0.95	0.15	N38° W	
RD244	+48	−34	楕円形	1.00	0.93	0.35	W5° N	
RD245	+44	−28	不整楕円形	2.80	1.13	0.20	N7° E	
RD246	+42	−72	長楕円形	3.66	1.70	0.71	N6° E	
RD247	+42	−70	不整長方形	1.32 以上	1.10	0.62	N33° E	
RD248	+36	−52	不整楕円形	2.17	0.98	0.50	N42° W	
RD249	+40	−40	不整楕円形	1.06	0.48	0.48	E30° N	
RD250	+40	−40	不整楕円形	0.90	0.44	0.50	E21° N	
RD251	+40	−40	不整楕円形	0.90	0.74	0.21	N0°	
RD253	+36	−38	不整長方形	1.69	0.84	0.27	E18° N	
RD254	+38	−32	不整楕円形	0.90 以上	0.98	0.28	E38° N	
RD255	+38	−32	不整楕円形	1.49 以上	1.09	0.32	N42° E	
RD256	+38	−32	不整楕円形	1.10	0.98	0.22	E28° N	
RD257	+28	−64	楕円形	1.77	1.59	0.68	N23° W	
RD258	+24	−46	不整楕円形	2.25	1.55	0.66	W44° N	
RD259	+30	−36	不整楕円形	2.16	1.52	0.64	W25° N	
RD260	+26	−38	不整長方形	2.55	1.63	0.58	W34° N	
RD261	+18	−76	不整長方形	1.94 以上	0.79	0.40	W44° N	
RD262	+16	−72	不整長方形	2.64	1.10	0.67	N13° W	
RD263	+20	−46	不整楕円形	2.60	1.22	0.70	W4° N	
RD264	+14	−44	不整楕円形	2.42	1.31	0.70	N42° E	
RD265	+14	−44	不整楕円形	2.60	1.24	0.43	N37° E	
RD266	+18	−26	不整楕円形	2.61	1.40	0.75	E7° N	
RD267	+20	−24	不整長方形	2.67	1.35	0.67	W30° N	
RD268	+18	−26	不整長方形	2.74	1.31	0.79	N32° W	
RD269	+16	−26	不整楕円形	2.05	1.17	0.67	E10° N	
RD270	+12	+26	不整楕円形	1.33 以上	1.10	0.51	N0°	土師器・坏
RD271	+14	−32	不整楕円形	1.63	1.24	0.52	E25° N	
RD272	+6	−36	不整長方形	3.24	1.60	0.53	N38° W	
RD273	+6	−30	不整長方形	2.20	1.02	0.54	E7° N	
RD274	+6	−24	不整楕円形	1.75	1.05	0.55	W2° N	
RD275	+6	−58	不整長方形	3.50	0.63	0.56	N10° E	
RD276	+80	−24	ほぼ円形	2.11	2.10	1.26	N0°	
RD277	+76	−10	ほぼ円形	0.62	0.60	0.60	N0°	
RD278	+58	−12	不整楕円形	3.25	2.18	0.43	W17° N	
RD279	+50	−14	不整長方形	3.12	0.8	0.25	N10° W	
RD280	+48	−14	ほぼ円形	0.92	1.52 以上	0.28	N23° W	
RD281	+38	+2	ほぼ円形	1.20	1.13	0.35	N0°	
RD282	+36	+2	ほぼ円形	1.89	1.21	0.4	N0°	土師器・坏、中国青磁椀
RD283	+34	+2	不整楕円形	1.70	1.22	0.13	E8° N	
RD284	+32	+2	不整楕円形	1.34	1.19	0.25	N24° N	
RD285	+32	+2	不整楕円形	0.79	0.24 以上	0.23	N0°	
RD286	+26	+12	不整長方形	1.06 以上	0.87	0.25	W43° N	
RD287	+22	+4	ほぼ円形	1.07	1.02		N0°	
RD288	+12	−8	不整長方形	3.90	1.82	0.36	N28° E	
RD289	+4	−14	不整楕円形	3.9	2.63	0.73	N24° W	
RD290	+4	−12	不整長方形	1.73	0.83	0.21	N33° W	陶磁器・国産青磁　皿、染付碗
RD291	+4	−10	不整長方形	1.94	1.08	0.39	N40° W	
RD292	+4	−12	不整楕円形	1.38	1.14	0.96	N20° W	
RD293	+94	−104	不整長方形	3.51 以上	1.47	1.47	E2° N	
RD294	+70	−106	不整楕円形	1.12	0.97	0.27	E20° N	

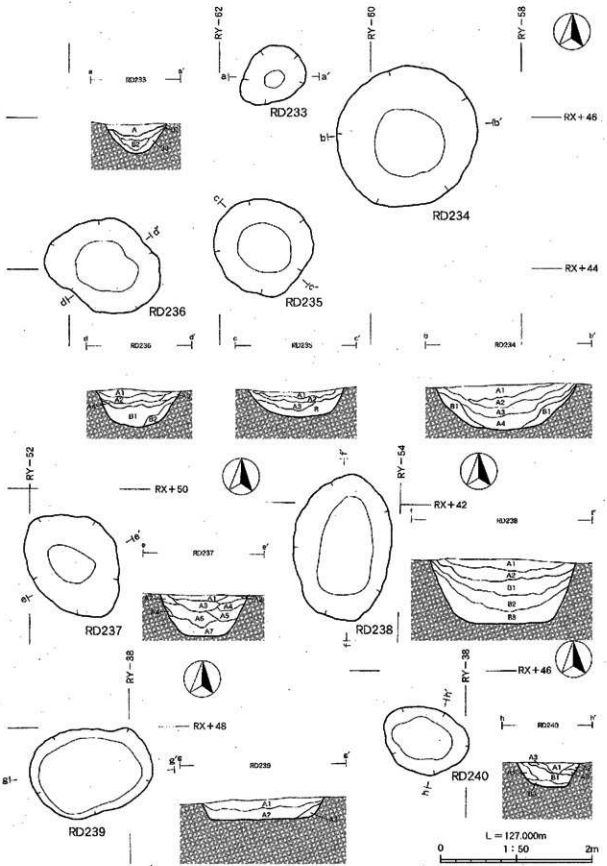
第３表　小幅遺跡　土坑一覧（1）

遺構名	位置		平面形	規模		検出面からの深さ	主軸方向	遺物
	RX	RY		長軸（m）	短軸（m）			
RD295	+58	+68	不整楕円形	5.08	4.75	0.4	E43° N	土師器・坏、肥前染付椀、国産染付、国産陶器皿
RD298	+56	+90	不整楕円形	5.90	5.38	0.39	W13° N	
RD297	+94	+148	不整楕円形	0.57	0.70	0.48	W40° N	
RD299	+64	+150	不整楕円形	1.42	1.39	0.25	N0°	
RD300	+96	+168	不整楕円形	2.75	1.61 以上	0.53	N18° N	あかやき・坏・甕、陶磁器
RD301	+90	+156	不整楕円形	1.89	0.40	0.4	W26° N	
RD302	+88	+156	不整方形	0.74	0.30	0.3	E44° N	
RD303	+88	+154	不整楕円形	2.40	1.77	0.18	N30° N	
RD304	+80	+146	不整形	1.80	1.04	0.30	N5° N	
RD305	+72	+152	楕円形	0.68	0.64	0.27	N0°	
RD306	+72	+148	不整楕円形	1.38	0.96	0.36	E44° N	
RD307	+72	+150	不整長方形	1.43 以上	2.58	0.27	E35° N	あかやき・坏・甕
RD308	+70	+138	不整長方形	1.44	0.81	0.33	W1° N	須恵器・甕
RD309	+68	+156	不整楕円形	1.46 以上	1.31	0.30	N0°	
RD310	+70	+156	不整楕円形	2.2 以上	1.12	0.33	N43° W	土師器・坏、あかやき・坏
RD311	+62	+148	不整楕円形	1.35	1.07	0.26	W18° N	
RD312	+58	+158	不整楕円形	3.45	1.84 以上	0.55	N0°	須恵器・坏・甕、あかやき・坏・甕
RD313	+64	+138	不整楕円形	1.36	1.29	0.22	E34° N	あかやき・坏
RD314	+56	+140	不整長方形	1.89 以上	1.17	0.17	W19° N	あかやき・坏、須恵器・坏
RD315	+56	+142	不整長方形	1.32 以上	1.00	0.12	W16° N	かわらけ・小皿
RD316	+52	+150	不整方形	1.77	1.80	0.44	W18° N	土師器・坏
RD317	+68	+148	楕円形	0.74	0.73	0.07	W25° N	
RD318	−58	−124	不整長方形	2.17	0.94	0.24	N33° W	
RD319	−60	−122	不整楕円形	1.54	1.00	0.27	W8° N	
RD320	−58	−118	不整楕円形	1.33	0.64	0.21	W25° N	
RD321	−70	−108	不整長方形	1.50	0.9	0.12	W20° N	相馬灰釉椀、国産染付
RD322	−72	−112	不整楕円形	1.96	1.55	0.31	W13° N	
RD323	−76	−96	不整楕円形	2.58	1.27	0.34	N11° W	
RD324	−70	−90	不整楕円形	1.82 以上	1.78	0.29	W9° N	
RD325	−72	−84	不整楕円形	2.61	1.71	0.30	N26° E	
RD326	−76	−84	不整長方形	4.27	2.02	0.31	N24° E	
RD327	−76	−84	不整楕円形	2.22	1.97	0.58	N0°	
RD328	−74	−76	不整楕円形	1.72	0.87 以上	0.17	W23° N	
RD329	+27	−74	不整楕円形	1.41	1.36	0.65	N0°	
RD330	+42	−74	不整楕円形	1.58	1.26	0.39	N18° N	
RD331	+44	−78	不整楕円形	0.65	0.58	0.24	W34° N	
RD332	+40	−98	楕円形	0.86	0.78	0.14	N16° N	
RD333	+40	−88	不整楕円形	0.76 以上	1.02	0.33	N26° N	
RD355	−968	+140	不整方形	3.68	2.82	0.42	N30° N	
RD356	−948	+140	不整楕円形	0.98	0.76	0.07	W41° N	
RD357	−948	+144	不整楕円形	1.26	1.06	0.34	N43° W	
RD358	+48	+2	不整楕円形	1.70	0.59	0.49	N20° W	
RD359	+46	±0	不整楕円形	1.42	1.28	欠損	W27° N	
RD360	+48	−4	不整楕円形	1.52	0.88	欠損	E8° N	
RD361	+48	+6	不整楕円形	1.06	0.58	欠損	N30° N	
RD362	+48	±0	不整楕円形	1.26	0.76	欠損	N0°	
RD363	+48	±0	不整楕円形	1.00	0.98	欠損	N34° N	
RZ018	+44	−46	不整楕円形	1.10	0.87	0.23	N34° N	須恵器・坏
RZ019	+48	−46	不整長方形	1.53	0.97	0.17	N31° N	あかやき・坏
RZ020	+42	−32	不整楕円形	1.33	0.90	0.44	N5° N	
RZ024	+42	−34	不整方形	0.97	0.82	0.14	N0°	土師・坏、甕
RZ025	+44	−34	不整長方形	1.53	0.26	0.26	E28° N	土師・坏、甕、焼成粘土塊
RZ026	+42	−36	不整楕円形	1.43	1.09	0.29	N25° N	
RZ027	+42	−34	不整長方形	1.74	1.05	0.23	N21° N	あかやき・坏

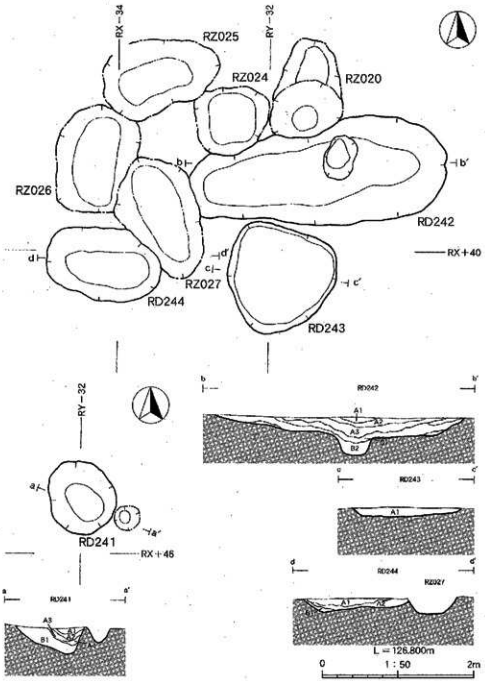
第４表　小幅遺跡　土坑一覧（2）



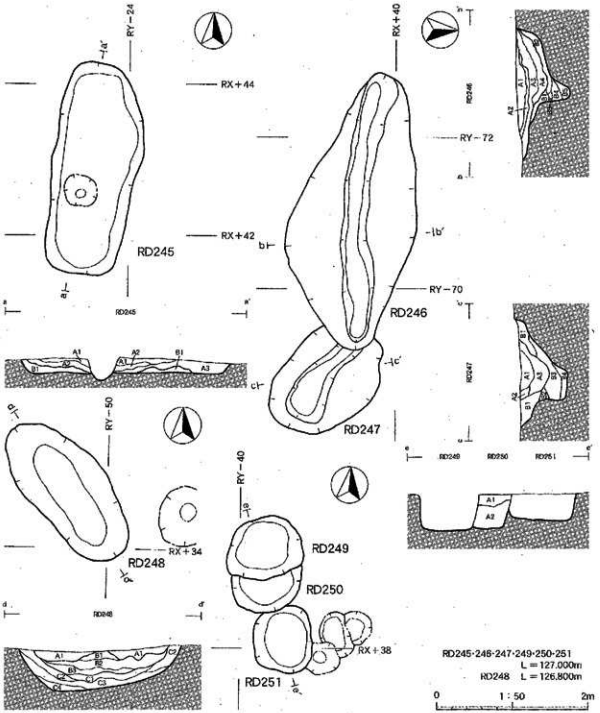
第62図　小幅遺跡ＲＤ227，228，229，230，231，232土坑



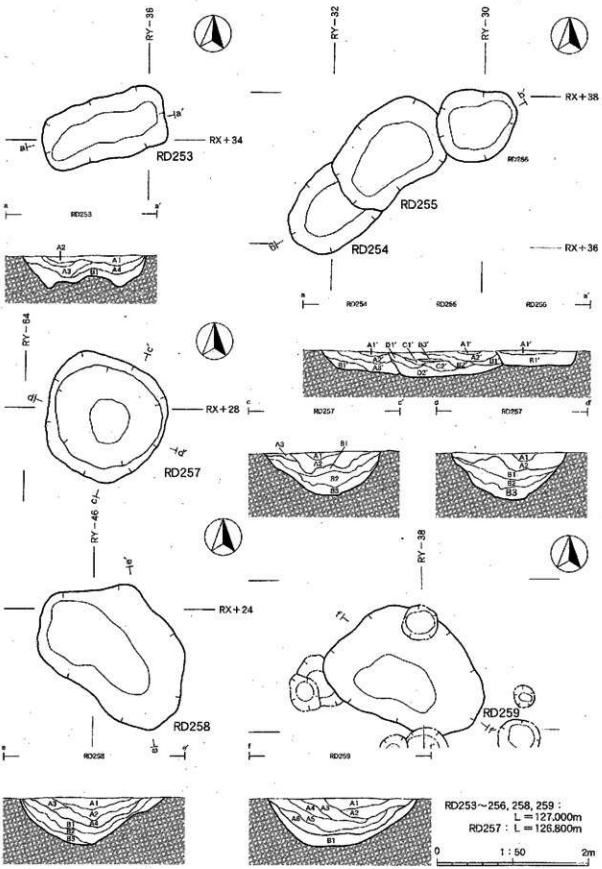
第63図　小幡遺跡ＲＤ233，234，235，236，237，238，239，240土坑



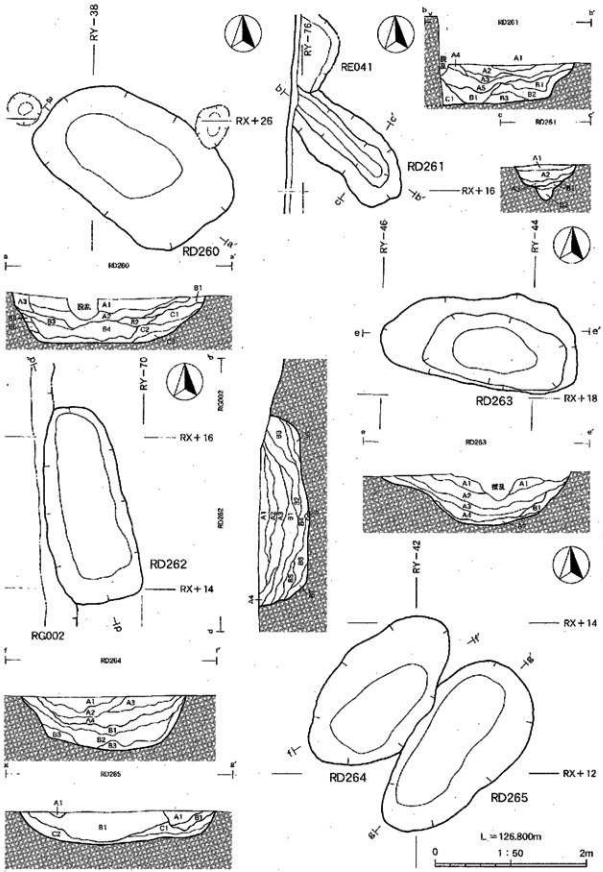
第64図　小幅遺跡ＲＤ241，242，243，244土坑



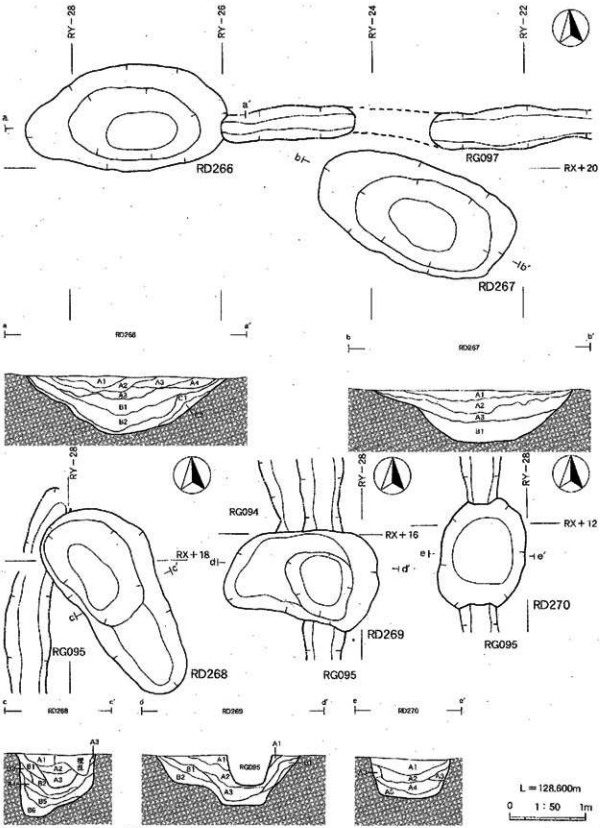
第65図　小幅遺跡ＲＤ245，246，247，248，249，250，251土坑



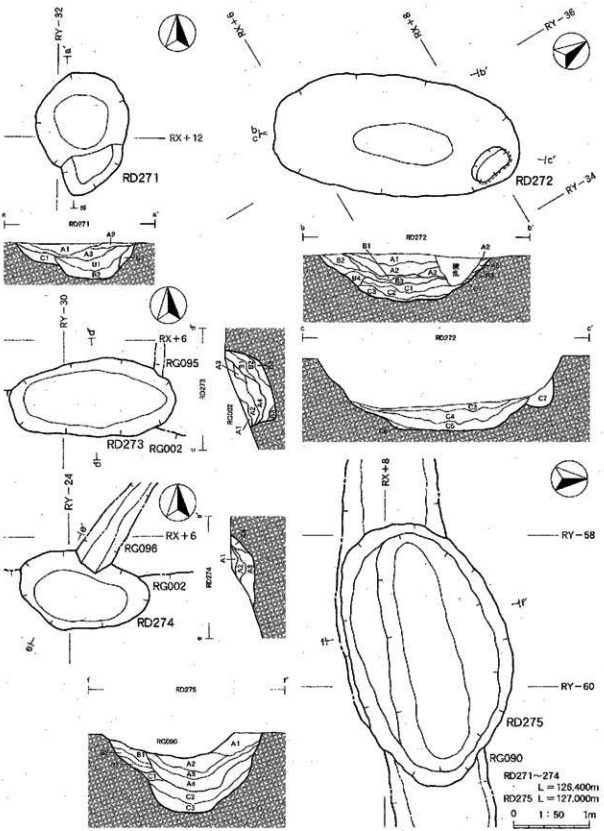
第66図　小幅遺跡ＲＤ253，254，255，256，257，258，259土坑



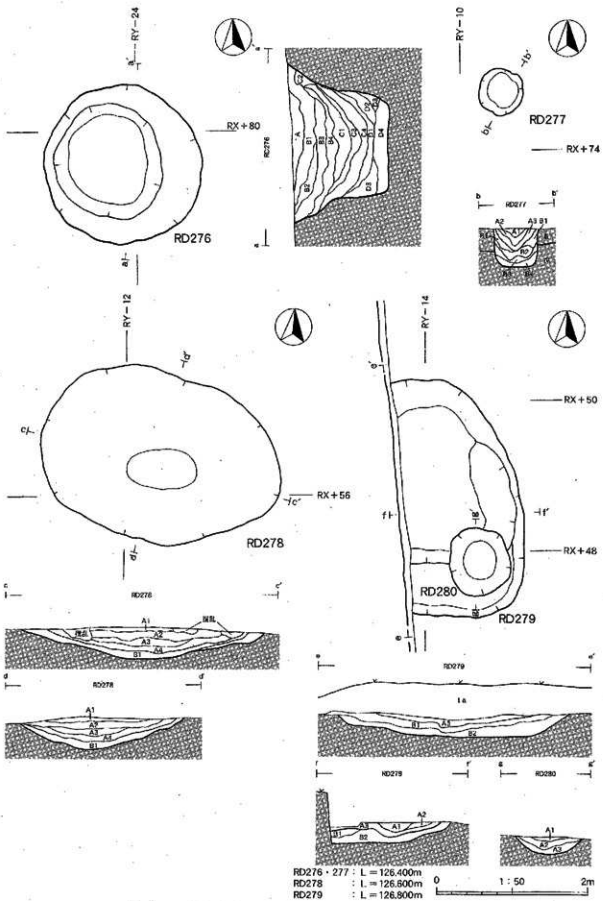
第67図　小幅遺跡ＲＤ260，261，262，263，264，265土坑



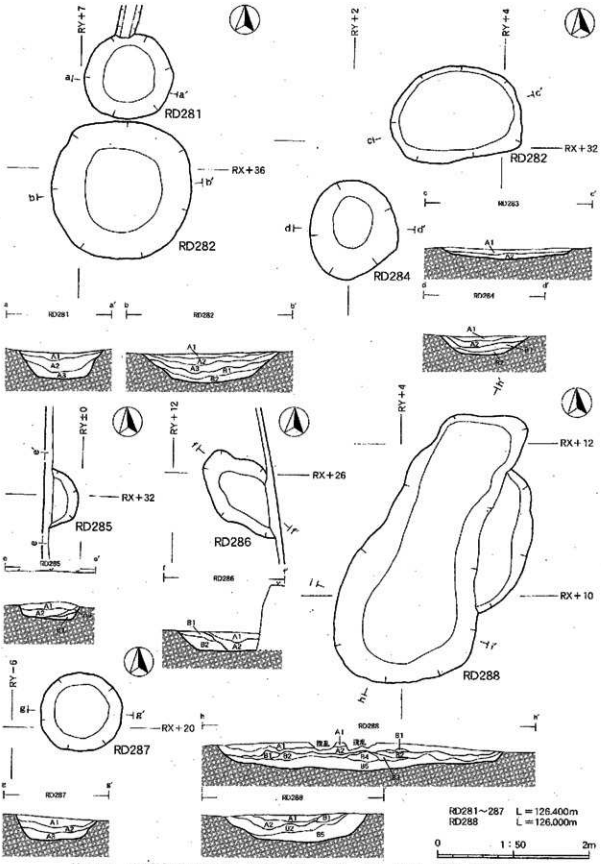
第68図　小幅遺跡ＲＤ266，267，268，269，270土坑



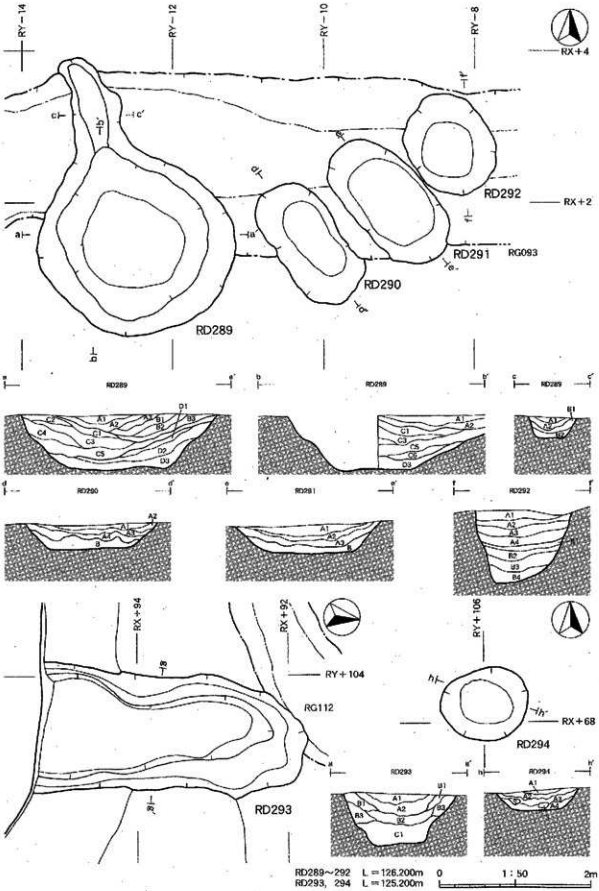
第69図　小幅遺跡ＲＤ271，272，273，274，275土坑



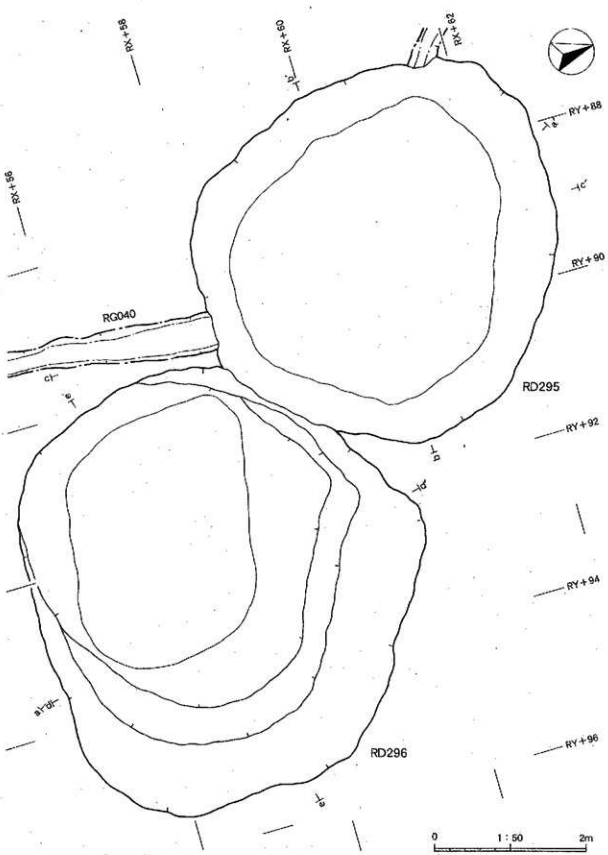
第70図　小幅遺跡ＲＤ276，277，278，279，280土坑



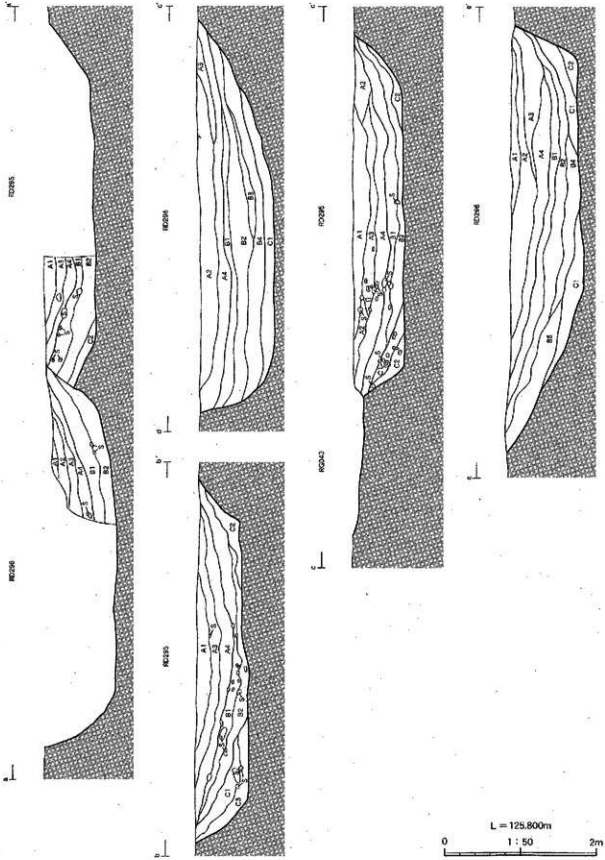
第71図　小幅遺跡ＲＤ281，282，283，274，285，286，287，288土坑



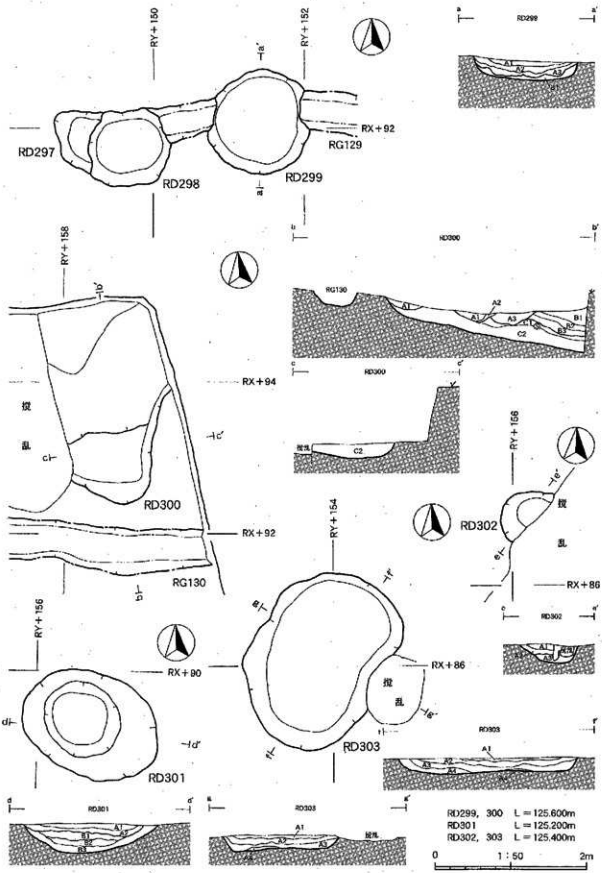
第72図　小幅遺跡ＲＤ289, 290, 291, 292, 293, 294土坑



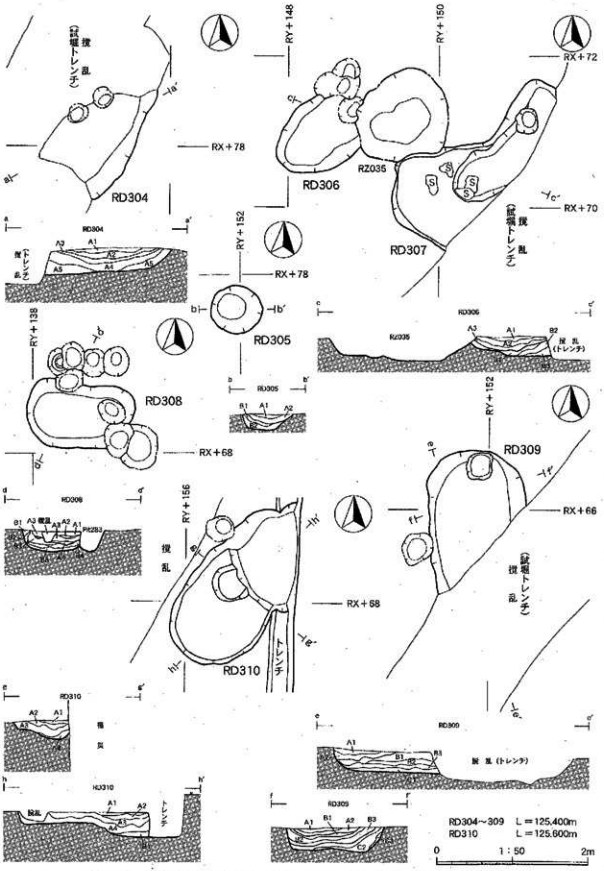
第73図　小幅遺跡ＲＤ295，296土坑平面図



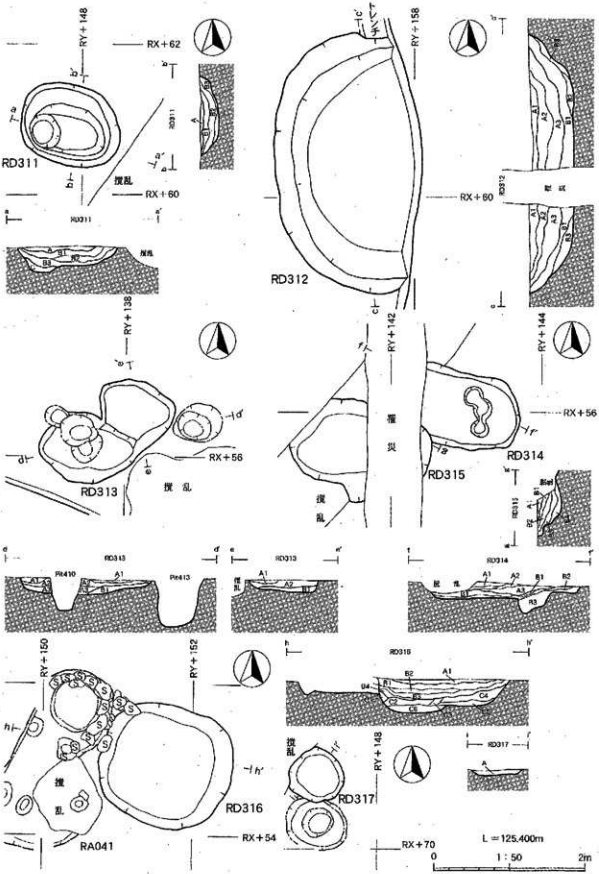
第74図　小幅遺跡ＲＤ295，296土坑断面図



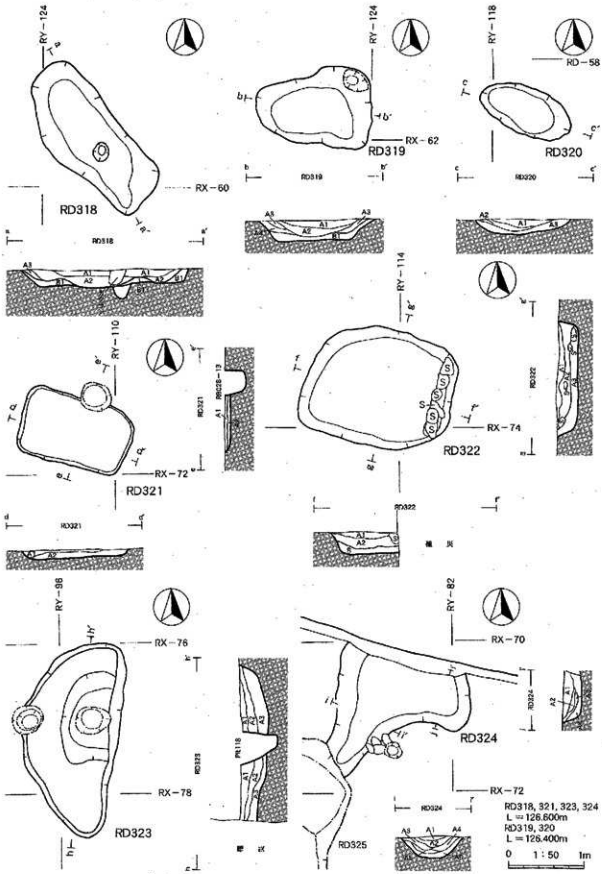
第75図　小幅遺跡ＲＤ297，298，299，300，301，302，303土坑



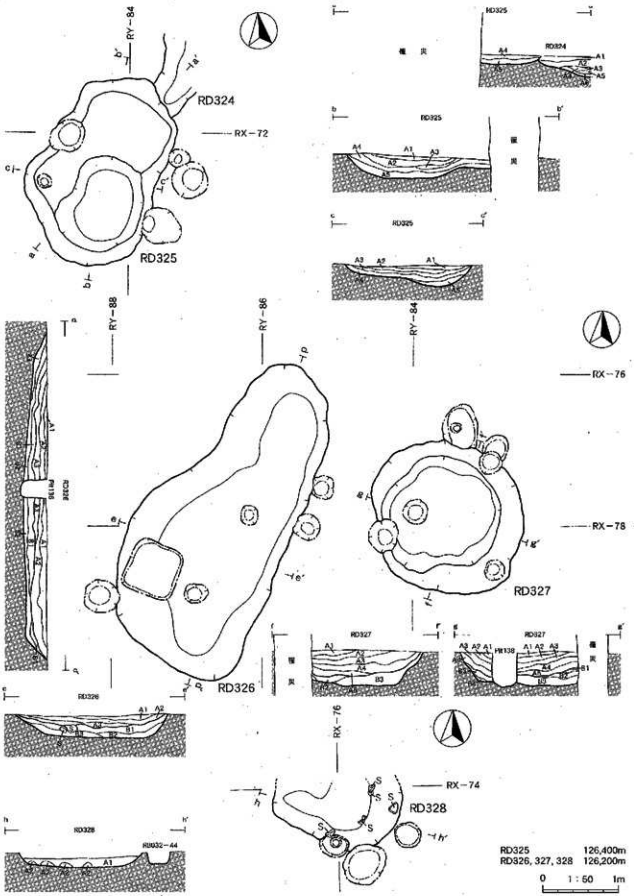
第76図　小幅遺跡ＲＤ304，305，306，307，308，309，310土坑



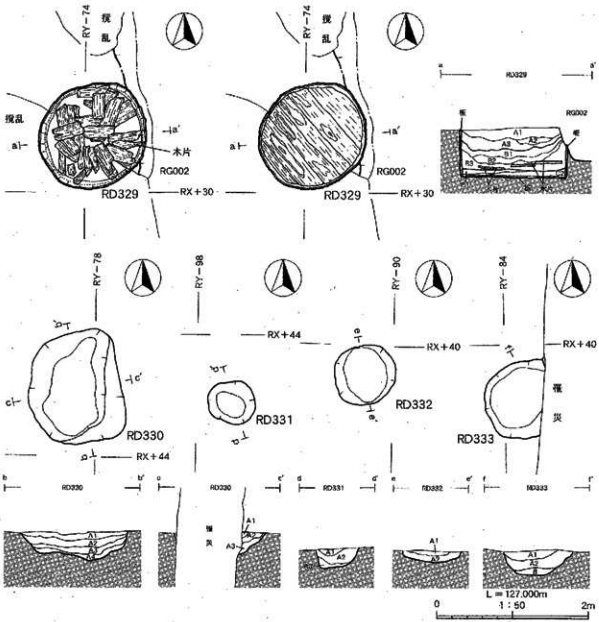
第77図　小幅遺跡ＲＤ311，312，313，314，315，316，317土坑



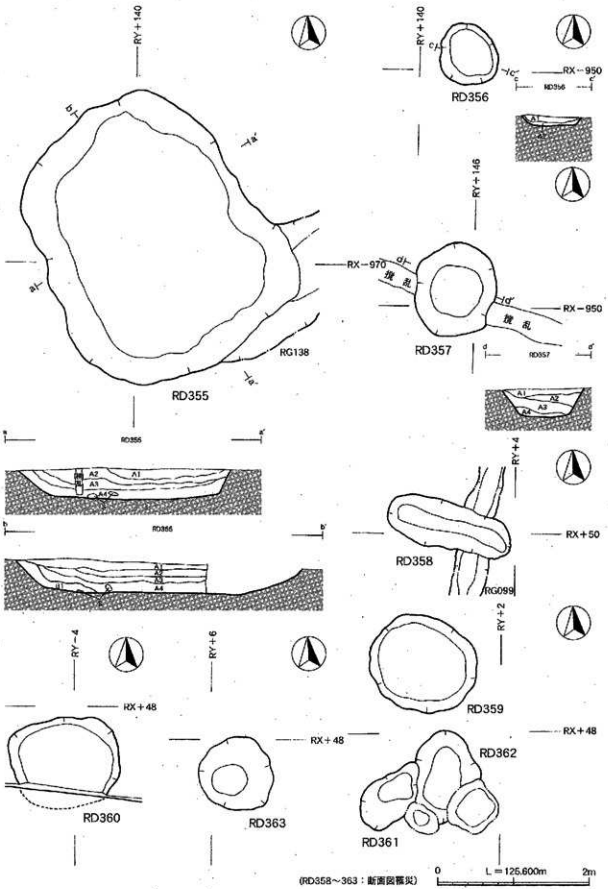
第78図　小幅遺跡ＲＤ318，319，320，321，322，323，324土坑



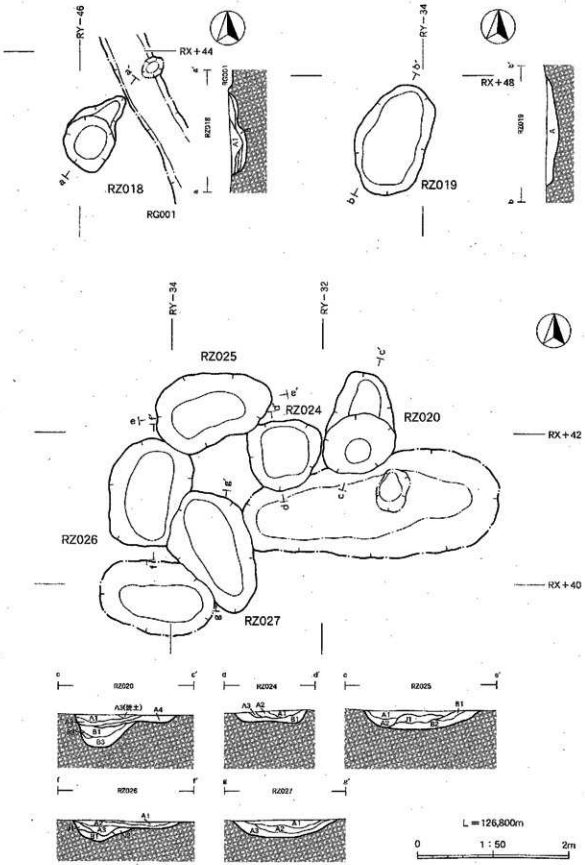
第79図　小幅遺跡ＲＤ325，326，327，328土坑



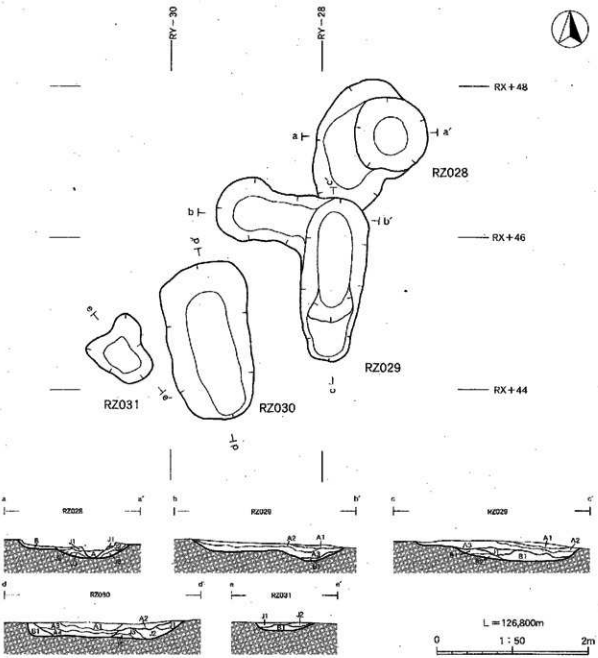
第80図　小幅遺跡ＲＤ329，330，331，332，333土坑



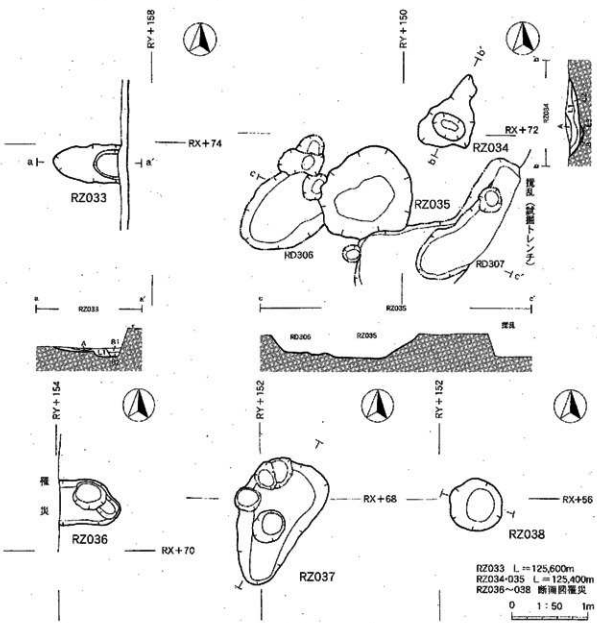
第81図　小幅遺跡ＲＤ355，356，357，358，359，360，361，362，363土坑



第82図　小幅遺跡ＲＺ018，019，020，024，025，026，027土坑



第83図　小幅遺跡ＲＺ028，029，030，031土坑



第84図　小幅遺跡ＲＺ033，034，035，036，037，038土坑

（8）溝跡（ＲＧ）・小ピット（第85～94図）

調査区内で検出された溝跡は大きく３種類に大別できる。①近世の屋敷を囲郭する比較的規模の大きな溝（RG002・101・093），②古代以降の地形に沿った溝，③そのほか，である。

以下，主なものを概観する。

ＲＧ002溝跡・ＲＧ101溝跡（第85・86・87・88図）

両溝跡とも，上端幅約1.2～2.5m，下端幅0.5～1.2m，検出面から底面までの深さ20～80cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。RG002の断面形は一部皿状を呈するが，RG002・101ともにおおむね箱状を呈する。遺跡北部において，一辺約80mを方形に区画しており，東辺ほぼ中央部において幅２～３mにわたって途切れており，囲郭内部への出入口部と考えられる。囲郭内部には，RB015・016・017の近世期と想定される３棟の建物跡が確認されており，これらにともなう溝跡と考えられ，近世村落の一端を示す遺構と考えられる。

ＲＧ093溝跡（第85・87図）

平面形は一部不整形だが，上端幅約0.4～1.5m，下端幅0.5～1.2m，検出面から底面までの深さ30～90cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は一部皿状を呈するが，おおむね箱状を呈する一部RG002南辺と平行に延びるが，東・南は不明瞭となる。北側で幅1.1mほど途切れる。近世村落の一端を示す遺構の一部と考えられる。

ＲＧ041溝跡（第88・89図）

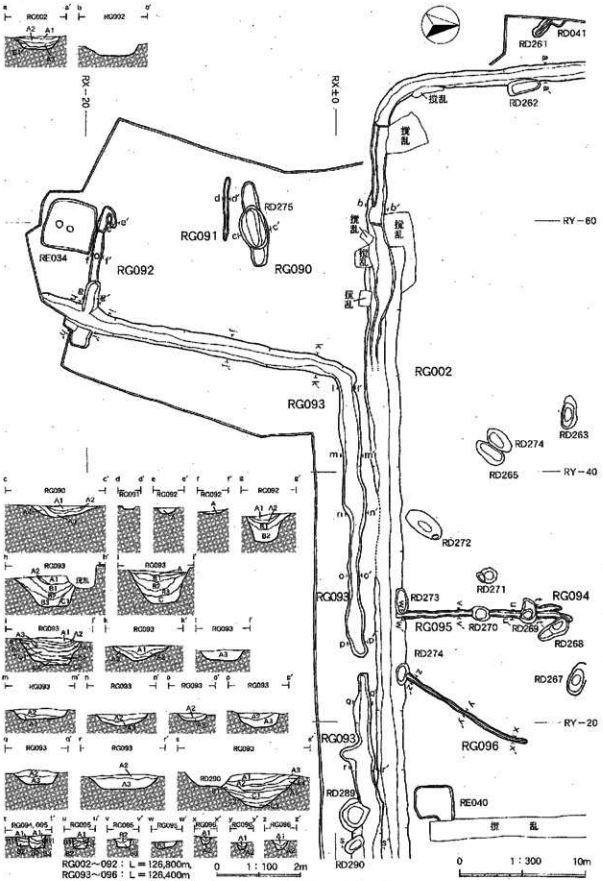
上端幅約50～70cm，下端幅20～40cm，検出面から底面までの深さ20～80cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は一部皿状を呈するが，西方では薬研状を呈する。RG002と重複し，新しい。遺跡北部において，一辺約80mを方形に区画しているが，北半は調査区外であり，調査区内には本溝の区画にともなう遺構は検出されておらず，詳細は不明である。近世以降のものと考えられる。

ＲＧ100溝跡（第88図）

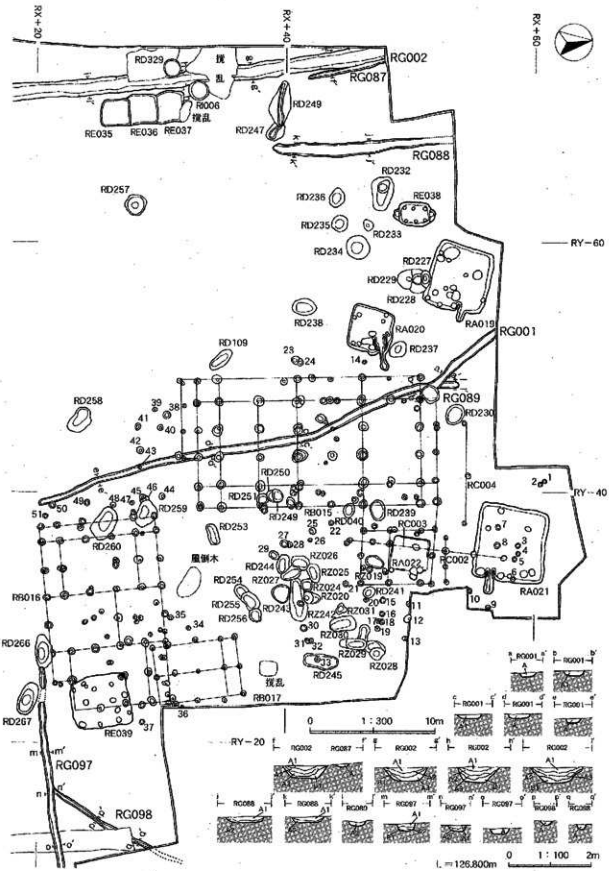
上端幅約80cm，下端幅50～60cm，検出面から底面までの深さ40cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は箱状を呈する。RG099溝跡と重複し，古い。RB022建物跡の南西柱筋と平行に6.6mに渡って延びる。RB022建物跡の雨落溝にしては規模が大きく詳細は不明だが，RB022建物跡にともなう溝跡と推測され，古代の溝跡と考えられる。

ＲＧ009溝跡・ＲＧ098溝跡（第88・90図）

両溝跡とも，上端幅約30～40cm，下端幅10～20cm，検出面から底面までの深さ10～30cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は箱状を呈する。遺跡の北東から南西に，地形に沿って延びる。



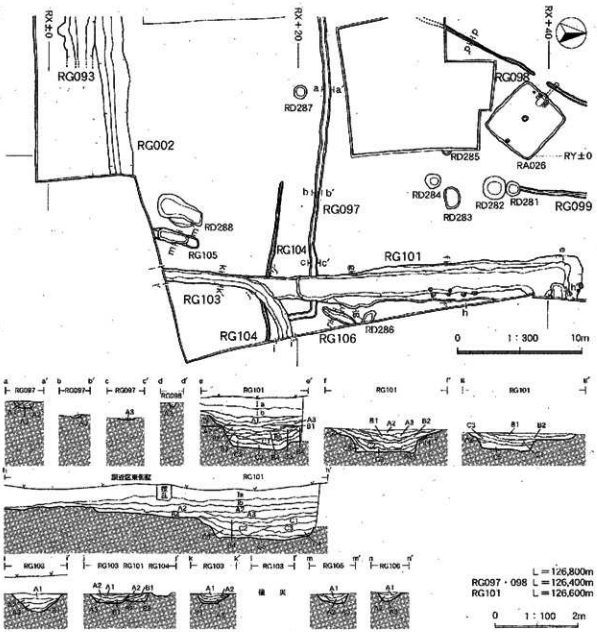
第85図　小幅遺跡A～E区全体図（1），溝跡，小ピット



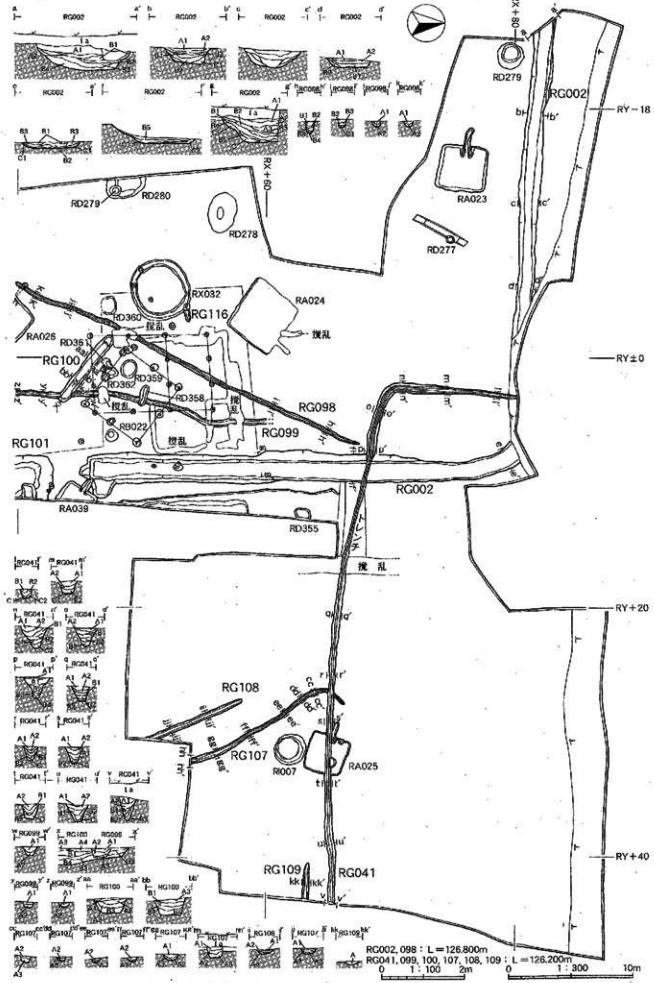
第86図　小幅遺跡Ａ～Ｅ区全体図（２），溝跡，小ピット

小ピット（第85～94図）

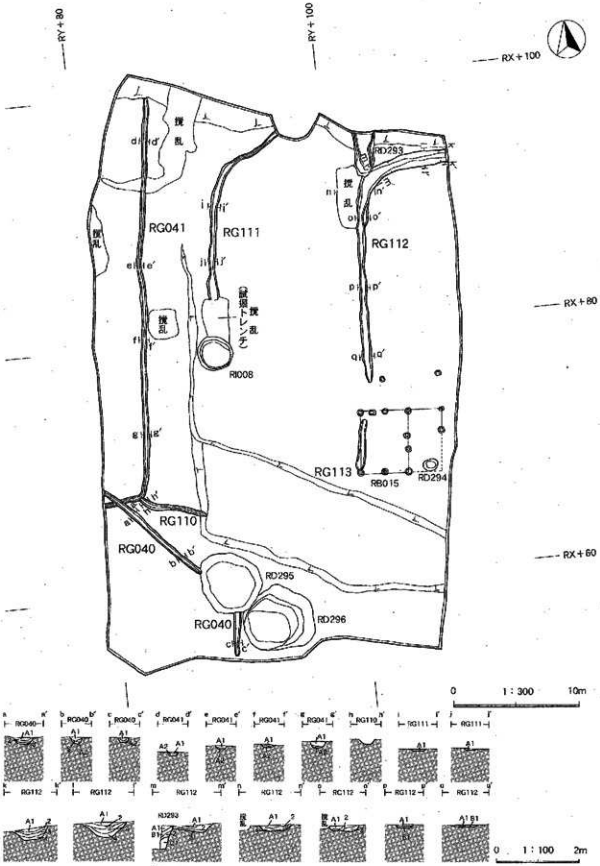
調査区内から，約49ヵ以上検出した。図面等が罹災しており全てを復元できていない。おおむね柱穴となるもの，杭跡，用途不明，に分類できる。



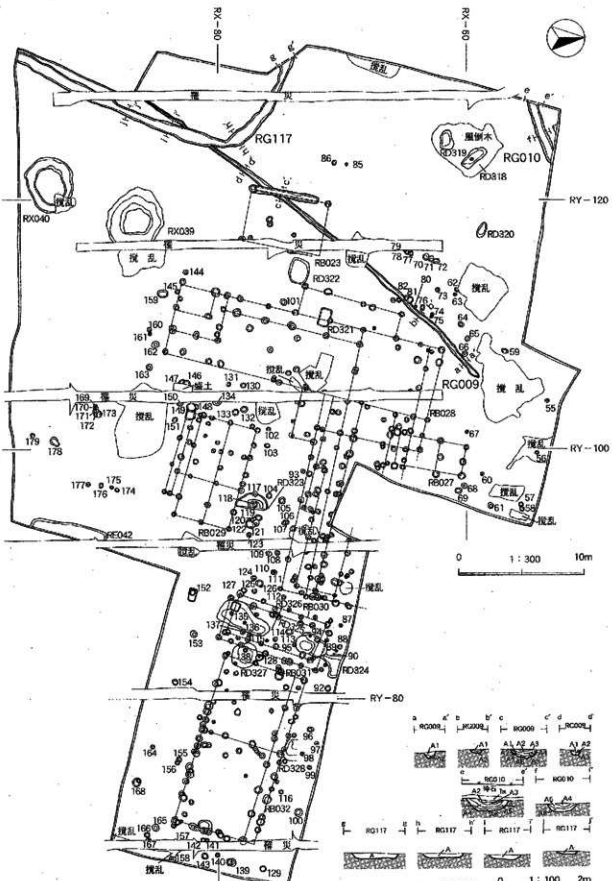
第87図　小幅遺跡Ａ～Ｅ区全体図（３），溝跡，小ピット



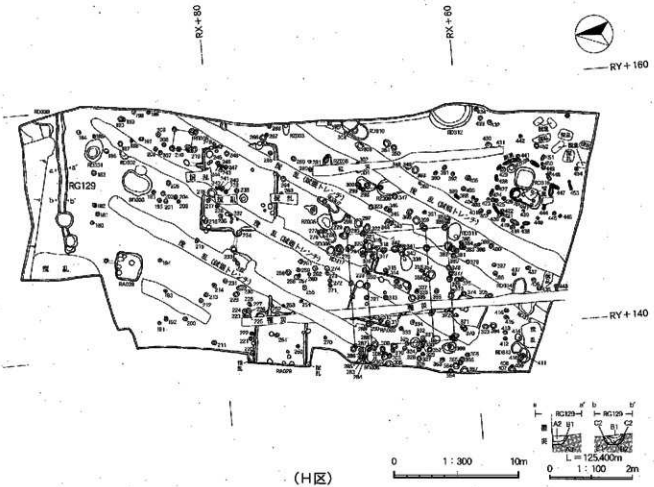
第88図　小幅遺跡Ａ～Ｅ区全体図（４），溝跡，小ピット

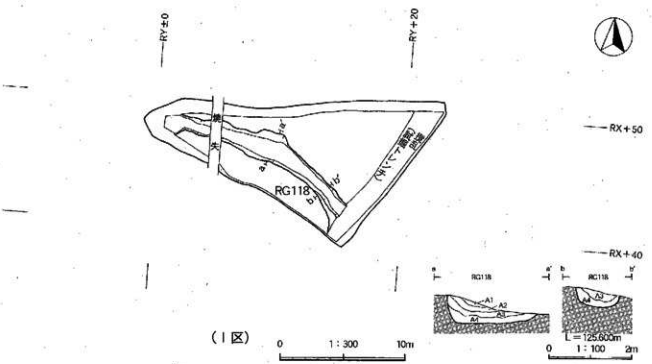


第89図　小幅遺跡F区溝跡，小ピット

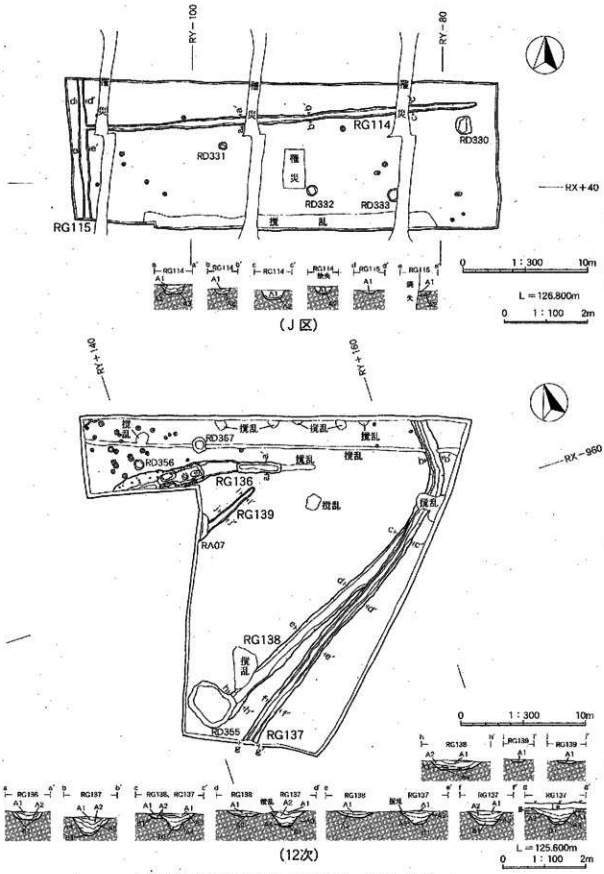


第90図　小幅遺跡G区溝跡，小ピット

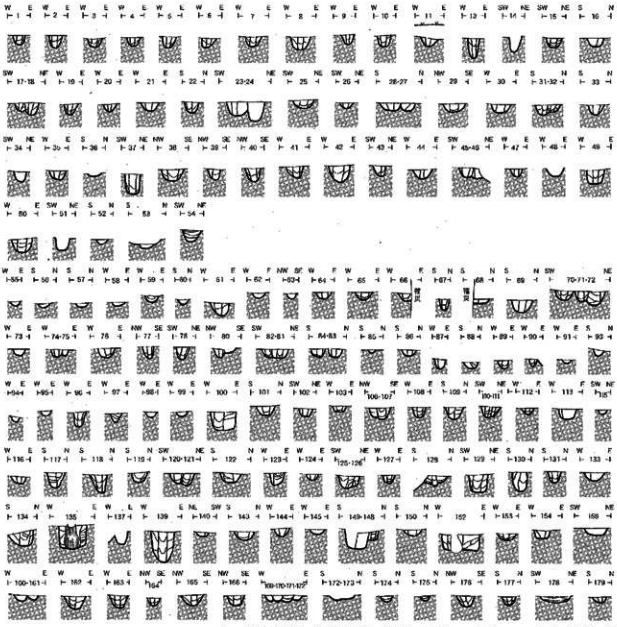




第91図　小幅遺跡H区，Ⅰ区溝跡，小ピット

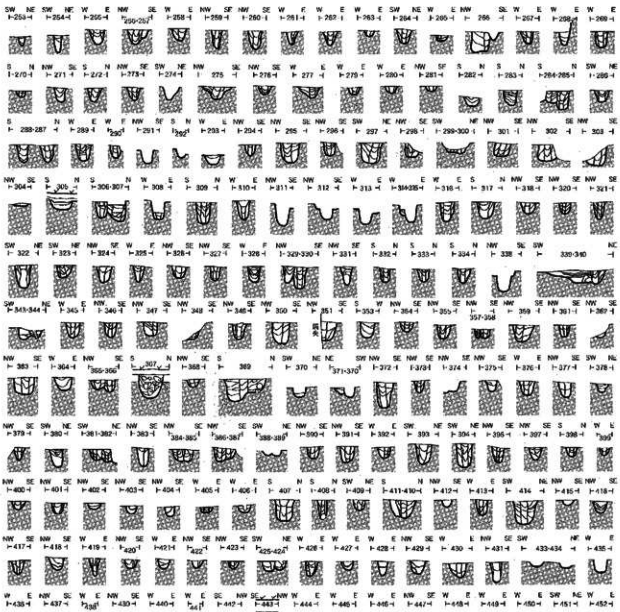


第92図　小幅遺跡J区，12次調査　溝跡，小ピット



No.1～53 L＝127.000m、No.54 L＝126.000m、
No.55～179 L＝126.400m、No.180～252 L＝125.400m

第93図 小幅遺跡 小ピット断面図 (1)



復元した断面図　No.278・319・335・336・337・341・342・352・356・360・395・432・456
No.253～455　L＝125.400m，No.457～468　L＝126.400m，No.469～497　L＝125.800m

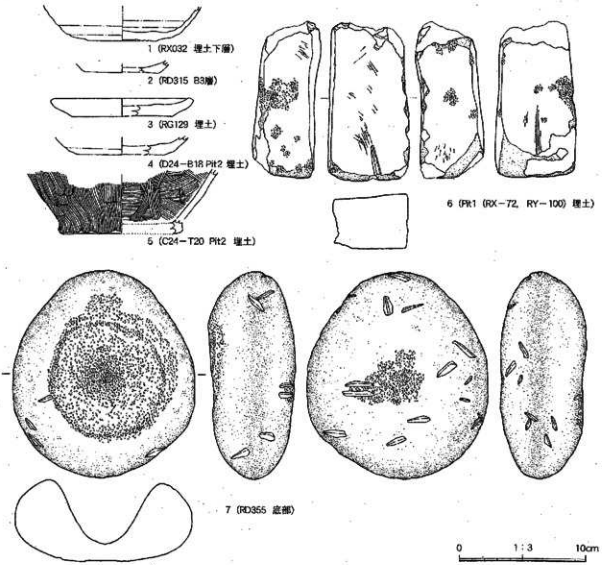
0　1：100　4m

第94図　小幡遺跡　小ピット断面図（2）

（9）出土遺物（第95図）

竪穴住居跡以外から出土した出土遺物の量は多くない。摩滅した古代の土器片が大半を占める。図示できたものを第95図に示した。

1はRX032円形周溝埋土下層出土の，あかやき土器の坏である。底部切り離しは糸切無調整。2はRD315土坑埋土B層出土の，ロクロ成形のかわらけ小皿である。小破片。3はRG129溝跡埋土出土の，ロクロ成形のかわらけである。4は小ピット出土のロクロ成形のかわらけ大皿である。5は小ピット出土の土師器甕である。内外面ともに強いヘラナデ調整が施されている。残存状況は悪いが，底面は砂底と見られる。6は小ピット出土の砥石である。7はRD355土坑底面出土の床東に使われたと考えられるくぼみ石である。



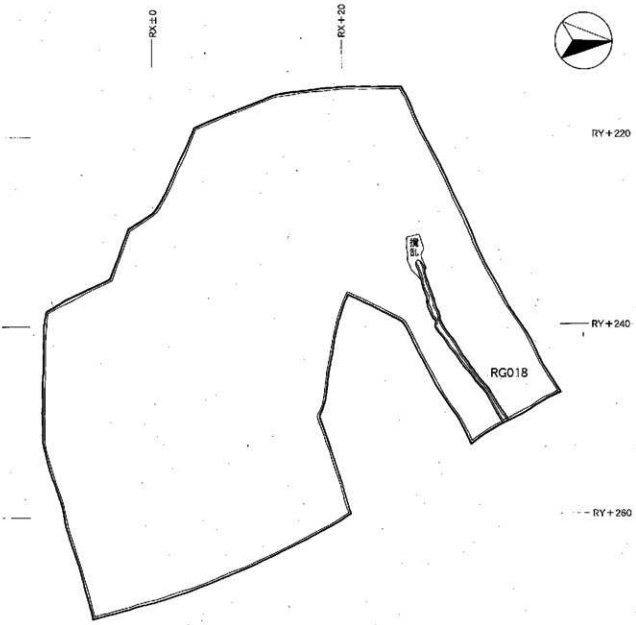
第95図　小幡遺跡ＲＸ032円形周溝，ＲＤ315・355土坑，ＲＧ129溝跡，小ピット　出土遺物

3　宮沢遺跡　（第５次調査）

（１）遺跡の概要

宮沢遺跡は，盛岡駅から南西約２kmの本宮字宮沢地内に位置する。盛南開発地域の北西部に位置する。区画整理事業前は宅地や工場などが立地していた。遺跡の北部は雫石川の旧河道と考えられる２ｍほどの段丘によって画される。遺跡の範囲は南北約230m，東西約200mと推定され，標高は約125～127mであり，ほぼ平坦である。中央部には谷地が入り込む。　**位置**

本遺跡は小幅遺跡の東に隣接する。南には鬼柳Ａ遺跡が，東には本宮熊堂Ｂ遺跡が立地し，それぞれ旧河道によって画されている。これまでの調査で，古代の集落および近世以降の建物跡や溝跡などが検出されている。当市教育委員会では平成５～12年度に，盛南開発にともなう　**周辺の遺跡**



第96図　宮沢遺跡　第５次調査　全体図（1：400）

発掘調査として，第5次調査を実施した（第9図・第1表）。諸記録や各図・出土遺物が罹災した。

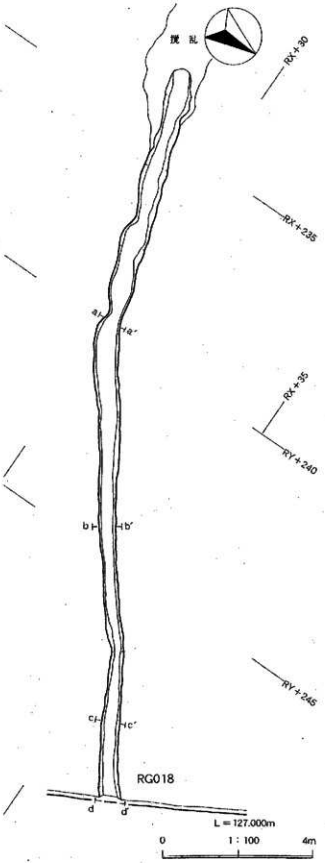
（2）第5次調査

位　　置　　第5次調査は，区画整理事業にともない，平成11年4月21日から同年5月18日に，遺跡の中央北寄りの1,629㎡を対象に調査した（第9図・第1表）。調査前は畑地であり，調査区全面が耕作による削平を受けていた。遺構検出面は，シルト層であった。

検出遺構は溝跡1条（RG018）である（第96図）。

ＲＡ018溝跡（第97図）

上端幅約35～70㎝，下端幅20～40㎝，検出面から底面までの深さ10～20㎝ほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は皿状を呈する。埋土の状況から，中近世以降の溝跡と考えられる。出土遺物は，無い。



第97図　宮沢遺跡ＲＧ018溝跡

4　鬼柳Ａ遺跡　（第５次調査）

（１）遺跡の概要

位置

鬼柳Ａ遺跡は，盛岡駅から南南西約2.3kmの本宮字鬼柳地内に位置する。盛南開発地域の西端に位置する。区画整理事業前は宅地や畑地などが立地していた。遺跡の周囲は雫石川の旧河道と考えられる１ｍ内外の段丘によって画され，その外は水田である。遺跡の範囲は南北約200m，東西約430mと推定され，標高は約126m前後であり，ほぼ平坦である。遺跡の西2/3は，区画整理事業区域外であり，以前の姿をとどめている。

周辺の遺跡

本遺跡の周囲には，北に大宮北遺跡，小幡遺跡，宮沢遺跡，東に本宮熊堂Ｂ遺跡，稲荷遺跡，南に鬼柳Ｂ遺跡，鬼柳Ｃ遺跡が立地し，それぞれ旧河道によって画されている。いずれの遺跡からも，古代や中近世以降の遺構遺物を検出しているが，区画整理事業区域外では調査が進んでおらず，詳細は不明である。

これまでの調査で，古代の集落および近世以降の溝跡などが検出されている。当市教育委員会では，平成５～12年度に盛南開発にともない，第２・３次調査としての試掘調査，第５次調査として本調査を実施した（第98図・第１表）。各遺構の諸記録や各図・出土遺物が罹災した。

（２）第５次調査

位置

第５次調査は，区画整理事業にともない，平成11年７月22日から同年８月10に，遺跡の南西部1,171㎡を対象に実施した（第98図・第１表）。

調査区は畑地であり，全面に渡って，耕作による削平を受けていた。遺構検出面は，シルト層であった。検出遺構は土坑１基（RD002），竪穴建物１棟（RE001），溝跡１条（RG001）である（第99図）。

第98図　鬼柳Ａ遺跡　全体図（1：4000）

ＲＤ002土坑（第99図）

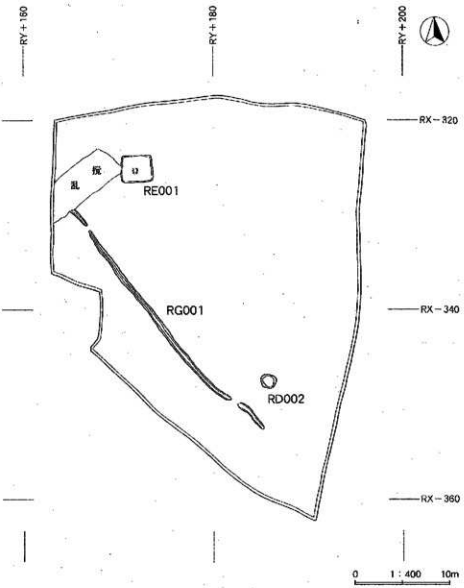
直径1.6ｍほどの円形を呈する。断面形は皿条を呈する。埋土から近世以降の遺構と考えられる。

ＲＥ001竪穴建物跡（第100図）

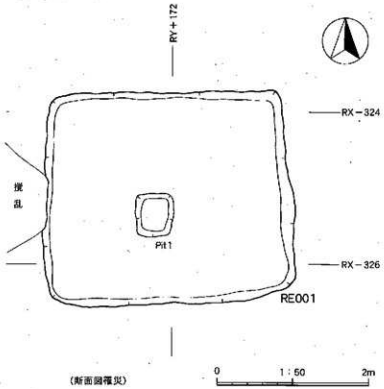
南北2.8m，東西3.3mほどの方形を呈する。床面中央に方形のピットを検出した。柱穴と考えられる。埋土と遺構の状況から近世以降の室と考えられる。

ＲＧ001溝跡（第99図）

上端幅30cmほどをはかる。断面形は皿状を呈する。後世の削平を受け，残存状況は悪い。埋土の状況から，近世以降のものと考えられる。



第99図　鬼柳Ａ遺跡第５次調査全体図



第100図　鬼柳Ａ遺跡ＲＥ001竪穴建物跡

Ⅳ　まとめ

1　各調査成果のまとめ

大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡の平成5～12年度調査成果は，第Ⅲ章にのべたとおりである。平成12年12月の文化財調査室の火災により，大方の資料が罹災したため，不十分な報告となってしまった。以下，特徴的な成果をまとめる。

大宮北遺跡第8次調査では，規模の大きな掘立柱建物跡3棟が重複して検出されたほか，4棟の掘立柱建物跡，土坑などが検出された。RB002とRB004，重複しているRB005・006・007は，南北方向に桁行を揃えている。また，桁方向をそろえる各建物に囲まれた中心付近には，あかやき土器坏および高台付坏を多く出土したRD008土坑が位置する。RD008出土土器には完形品はなく，ことごとく割れており，意図して打ち欠いたと見られる破片も見られることから，土器廃棄の土坑と考えられる。あわせて，出土した土器の大半が坏および高台付坏であることから，一般的な集落ではなく，なんらかの儀式を行っていたことが想定される。　大宮北遺跡 第8次調査

また，RB001とRB003は，RB002とRB004，およびRB005・006・007と時期差があると考えられるが，前後関係は不明である。しかし，RB001・003の間には，やはりRD008土坑ほどではないにしても土器を一定量出土したRD007が位置することから，大きな時間差があるものではなく，かつ同じような使われ方をした建物群と捉えてよいと考えられる。

後述するが，出土した土器群については，おおむね10世紀半ば過ぎのものと考えられる。本遺跡周辺においては，北側に隣接する林崎遺跡において10世紀中葉と考えられる規模の大きな掘立柱建物群やそれを取り囲む板塀跡が検出されている。以上のことから，大宮北遺跡と林崎遺跡は，土器の違いから時期的に近いが同時存在するものではないと考えられること，周囲の集落には見られない規模の大きな掘立柱建物群を有すること，大宮北遺跡の建物群周囲からの出土土器に器種の偏りがあり，儀式的な土器群が出土していることから，地域支配の拠点的な役割を持った集落だったと想定される。大宮北遺跡，林崎遺跡ともに，その建物群の一部が調査されたに過ぎず，今後の調査の進展にともない，全体像が解明されると考えられる。

小幅遺跡は，区画整理にともない，ほぼ全域が調査されてきている。平成5～12年度の調査では，遺跡の中心部付近を調査し，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査区とあわせて，遺跡の全体像が見えてきたものである。　小幅遺跡

古代の遺構は，遺跡の全体に検出されている。おおむね9世紀中葉頃のものが多い。特徴としては，遺跡の北東部に重複して竪穴住居跡が見られること，2×2間の掘立柱建物跡が散見することがあげられる。

近世の遺構は，農家建物と考えられる掘立柱建物跡が，遺跡の北東部，中央北寄り，南部に見られる。

遺跡中央北部には，RG002・101溝跡によって方形に区画された内部にRB015・016・017建物跡を検出した。RB015建物跡は，5×3間の南北棟に東西桁行および北側梁行に1間分の庇か

縁がつき，北東隅から東側に3間分突出する曲り家状の建物である。また，RB015建物跡の南側に位置するRB016・017建物跡は重複し，RB017建物跡が新しい。RB016建物跡は，変形田字形の間仕切りが確認できる農家建物と考えられる。

遺跡南部には，RB023・027・028・029・030・031・032建物跡を検出した。いずれも近世の農家建物と考えられる。RB028建物跡は，比較的規模の大きな曲り家状の建物跡である。建物跡の北側が調査範囲外であり，全体像がつかみきれていない。RB029建物跡は，変形田字形状の間仕切りをもつ建物跡である。

盛南地区遺跡群内においては，近世の農家建物が散見するが，本遺跡中央北側の囲郭された建物群のような様子はほとんど検出されていない。区画整理事業以前のこの地域の光景も，田園地帯に農家住宅が散見する状況であったことから，近世以降の景色と似ていたのではないかと思われる。

宮沢遺跡　宮沢遺跡は，小幅遺跡同様，区画整理にともない，ほぼ全域が調査されている。平成5～12年度の調査では，遺跡の中心部付近を調査し，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査区とあわせて，遺跡の全体像が見えてきたものである。遺跡の北西部からは9世紀頃の竪穴住居跡が検出されているが，西に隣接する小幅遺跡の集落と一体のものと考えられる。また，本遺跡南部からは溝跡を多数検出している。1次調査で検出した溝跡の埋土中には，十和田a火山灰（915年頃降下）と考えられる灰白色粉状パミスがブロック状に多く含まれていたことから，古代の溝跡と考えられる。平成5～12年度調査の第5次調査で検出したRG018溝跡からは，上記灰白色粉状パミスは検出されておらず，詳細な年代は不明だが，埋土の状況から中近世以降のものと考えられる。

鬼柳A遺跡　鬼柳A遺跡は，区画整理事業でその東1/3が調査されている。おおむね北東端に古代の竪穴住居跡や近世の掘立柱建物跡が検出されている。第5次調査区においては竪穴建物跡と溝跡，土坑が検出された。埋土状況から近世以降のものと考えられる。

2　大宮北遺跡　出土土器について

大宮北遺跡第8次調査

大宮北遺跡第8次調査ED008土坑から，あかやき土器坏および高台付坏を多く出土した。その出土土器には完形品はなく，ことごとく割れており，意図して打ち欠いたと見られる破片も見られることから，土器廃棄の土坑と考えられる。あわせて，出土した土器の大半が坏および高台付坏であることから，一般的な集落ではなく，なんらかの儀式を行っていたことが想定される。

この土器群の年代について，若干の検討を加えることとする（第101図）。

林崎遺跡との比較

大宮北遺跡の周辺域の，類似した土器群が出土した近隣の遺跡として林崎遺跡が上げられる。林崎遺跡は，志波城跡の北東に隣接し，旧河道の段丘崖に立地する。これまで，志波城跡の外大溝や，外郭築地線から約1町（109m程）の距離を平行して走る人溝跡などの志波城期の遺構のほか，9世紀後半の集落，10世紀中葉の大形の掘立柱建物跡や木柵，竪穴住居跡などが検出されている。出土土器には，灯明皿に使われたと想定される黒色の炭化物が付着したものや「寺」墨書土器など特徴的な土器が一定量含まれること，周辺の集落にはあまりみられない大形掘立柱建物跡や木柵といった区画施設が見られることから，律令体制崩壊後の宗教的な権威を掌握した地域支配の拠点となる有力者の存在が想定される遺跡である。RA03・09竪穴住居跡出土土器群は，10世紀前葉に位置づけられ，RA02竪穴住居跡出土土器群は10世紀中葉に位置づけられている。

大宮北遺跡においては，林崎遺跡の掘立柱建物跡の規模には及ばないものの周辺集落には見られない規模の建物跡の存在と，極めて器種の限られた土器が出土している。大宮北遺跡出土土器群は，あかやき土器坏と高台付坏が主体を占める。坏の法量の平均は口径12.8cm・底径5.2cm・器高4.0cm，高台付坏の法量の平均は口径14.9cm・底径6.6cm・器高5.9cmをはかる。坏は口径12cm前後のものが大半を占め，口径14cm前後の大形のものがわずかに含まれる。法量にばらつきが見られず，ほぼ一定のものといえる。

胆沢城跡出土遺物との比較

大宮北遺跡一括出土資料と類似するものとして，奥州市の胆沢城跡SE1050井戸跡第1層出土土器，同SK155・152土坑出土土器，SX126焼土遺構出土土器がある。これらは，十和田a火山灰（10世紀前葉降下）との層位関係やその他の出土遺物との共伴関係から，10世紀第3四半期（10世紀中葉新段階）に位置付けられている。これらの土器群は，坏と皿が小型化し，坏の法量が口径10cm前後の小型坏と，口径11～14cmほどの坏の二極分化が進むとされている。一方，胆沢城跡SD3110溝跡の十和田a火山灰上層出土の土器群には，口径9.2cmのいわゆる小皿が含まれている。この土器群とは，猿投窯東山72号窯式期併行相当灰釉陶器輪花椀が共伴しており，10世紀後葉古段階の年代が与えられており，胆沢城終末の土器群と位置づけられている。

胆沢城跡出土土器との比較においては，大宮北遺跡出土土器群は①口径がおよそ12cmと法量の一定化が見られるが，法量の大小二極分化がはっきりとは進んでいないこと，②器種が坏と高台付坏に限定され，小型坏や小型皿が含まれないこと，から胆沢城跡SE1050井戸跡第1層，同SK155・152土坑，SX126焼土遺構出土土器よりもわずかに古い土器群と想定される。

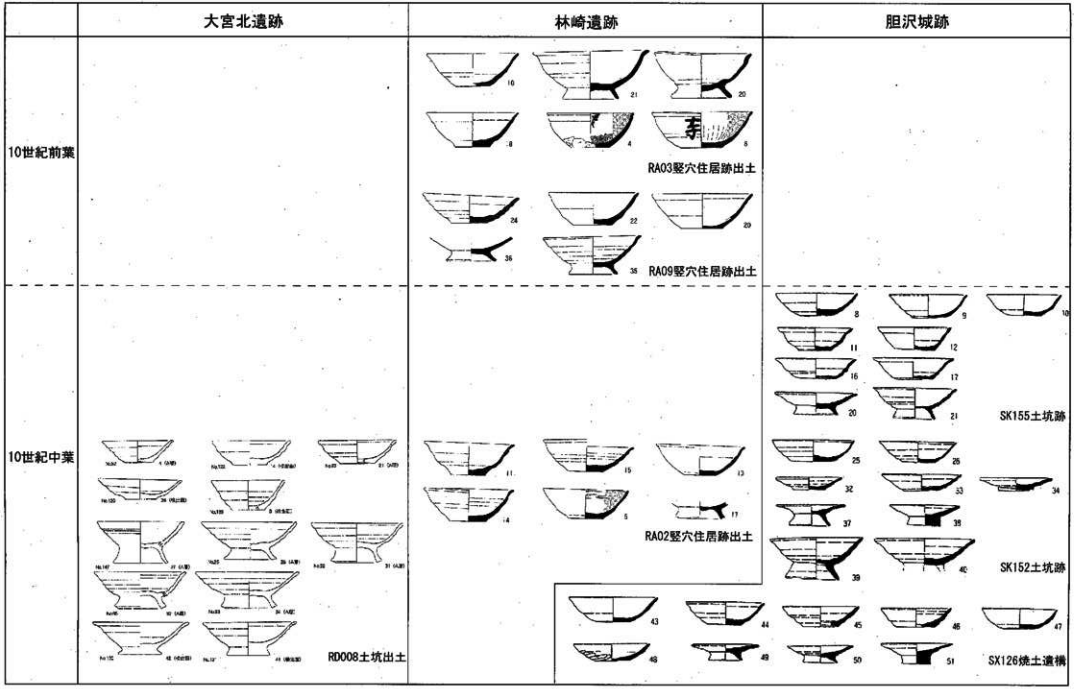
また，林崎遺跡RA02竪穴住居跡出土土器群と比較すると，坏の法量が小型化していること，柱状高台付坏が出土していること，などから一段階新しいものと考えられる。

以上のことから，おおむね10世紀中葉新段階でも古い土器群と想定される。

大宮北遺跡は，林崎遺跡に後続する集落と考えられ，地域の拠点的な集落であった林崎遺跡から何らかの理由で移動して営まれたものではないだろうか。今後，発掘調査の進展に伴い，大宮北遺跡の全体像が明らかになることによって，志波城跡が廃絶しておよそ150年後のこの地域社会の様子が，よりいっそう明らかになると考えられる。

〔参考文献〕

井上雅孝　1997　「陸奥における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究第7号』北陸古代土器研究会
伊藤武士　1997　「出羽における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究第7号』北陸古代土器研究会
盛岡市教育委員会　1979　『太田方八丁遺跡　昭和53年度発掘調査概報』

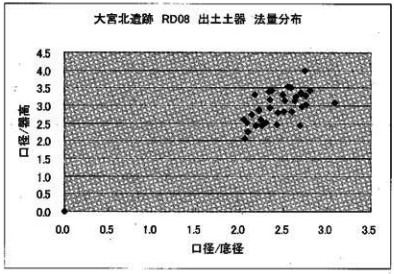


第101図　大宮北遺跡および10世紀代の土器（S＝1：6）

番号 図	番号 図版	遺物番号	出土 遺構 (竪穴番・溝)	地点	層	形態 区分	器種	寸法 (cm)、()は残存部分 器高	口径	体径	底径	脚部高径	口/底	口/高	底部切離	調整 外面	内面	備考・備考
6-1		142	RD008 (RD003)	—	検出面	土師器	坏蓋	—	—		—		—	—				
6-2		1	RD008 (RD002)	Wベルト	C	あかやき	坏	—	—		3.7		—	—				底部穿孔
6-3	2	72	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	3.4	11.9		4.6		2.6	3.5	回転糸切無調整			底面～側面箆痕
6-4		82	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	3.4	11.1		4.2		2.6	3.3	回転糸切無調整			
6-5		74	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	3.9	11.0		4.4		2.5	2.8	回転糸切無調整			墨書「上万」
6-6	2	155	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	3.9	11.3		5.1		2.2	2.9				胎土に金雲母含む 巻面マメツ 底部に穴あり[貫通]
6-7		43	RD008 (RD002)	Eベルト	A1	あかやき	坏	3.4	11.6		4.9		2.4	3.4	回転糸切無調整			巻面マメツ 二次焼成？
6-8	2	135	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.7	11.6		5.1		2.3	2.4	回転糸切無調整			小形坏
6-9		123	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.1	12.4		4.5		2.8	3.0	回転糸切無調整			胎土に金雲母・酸化鉄含む
6-10		119	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.0	12.6		4.8		2.6	3.2	回転糸切無調整			胎土に金雲母・わずかに酸化鉄含む
6-11		121	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	3.8	12.7		4.7		2.7	3.3	回転糸切無調整			口縁にゆがみあり 胎土に金雲母・わずかに酸化鉄含む
6-12		125	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.7	14.6		4.7		3.1	3.1	回転糸切無調整			
6-13		124	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.1	13.5		4.9		2.8	3.3	回転糸切無調整			胎土に金雲母・酸化鉄含む 黒書か
6-14		122	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	3.9	12.4		5.3		2.3	3.2	回転糸切無調整			胎土に金雲母含む
6-15	2	90	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	4.0	12.6		5.0		2.5	3.2	回転糸切無調整			
6-16		127	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.6	13.0		5.0		2.6	2.8	回転糸切無調整			胎土に金雲母含む スス器面に多く見られる
6-17		128	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.0	13.2		5.3		2.5	3.3	回転糸切無調整		ロクロ整形後ヘラナデ→口縁ヨコナデ	胎土に金雲母わずか含む
6-18		116	RD008 (RD003)	—	A2	あかやき	坏	4.0	13.5		5.0		2.7	3.4	回転糸切無調整			内面底部に穴、焼成前刺突～回転
6-19		129	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	4.1	14.0		5.0		2.8	3.4	回転糸切無調整			
6-20		73	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	4.7	12.3		5.5		2.2	2.6	回転糸切無調整			口縁ゆがみ強い
6-21	2	83	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	3.7	12.2		5.6		2.2	3.3	回転糸切無調整			
6-22		151	RD008 (RD003)	—	A	あかやき	坏	4.4	12.9		5.5		2.3	2.9	回転糸切再調整			胎土に金雲母含む
6-23		79	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	3.9	13.8		5.4		2.6	3.5	回転糸切無調整			
6-24		126	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	3.9	13.3		5.7		2.3	3.4	回転糸切無調整			
6-25		85	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	—	—		4.9		—	—	回転糸切無調整			胎土に酸化鉄粒・金雲母含む
6-26		120	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	3.3	13.2		4.8		2.8	4.0	回転糸切無調整			口縁にゆがみあり 胎土に金雲母含む
7-27		147	RD008 (RD008)	Wベルト	A2	あかやき	高台付坏	6.6	13.6		6.6	8.5	2.1	2.1				
7-28		35	RD008 (RD002)	Eベルト	A2	あかやき	高台付坏	6.0	14.8		6.1	8.0	2.4	2.5				
7-29	2	44	RD008 (RD002)	Eベルト	A1	あかやき	高台付坏	5.4	15.5		7.0	8.5	2.2	2.9				墨花文 巻面ややマメツ
7-30		45	RD008 (RD002)	Eベルト	A1	あかやき	高台付坏	6.4	15.6		5.8	7.1	2.7	2.4				胎土に金雲母含む 体部外面墨書「万」
7-31	2	62	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	6.3	14.2		6.8	6.5	2.1	2.3				
7-32	3	65	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	5.9	14.4		6.6	6.9	2.2	2.4				
7-33		66	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	5.9	14.8		7.1	7.8	2.1	2.5				
7-34	3	63	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	5.8	16.0		7.5	7.5	2.1	2.8			ハケ状工具使用か	墨花文くずれ
7-35	3	64	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	6.5	16.3		7.1	7.8	2.3	2.5				2/3 残存
7-36		154	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	高台付坏	5.5	14.3		7.0	7.8	2.0	2.6		体部の高台との接合部に一部ヘラ調整		
7-37		46	RD008 (RD002)	Eベルト	A1	あかやき	高台付坏	—	—		—	8.9	—	—				
7-38		68	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	—	—		6.5	7.9	—	—				脚部内側回転ヘラナデ
7-39		87	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	—	—		6.6	7.4	—	—				
7-40		99	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	高台付坏	—	—		6.4	8.4	—	—				
7-41	3	131	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	高台付坏	5.2	14.0		6.0	6.4	2.4	2.8	回転糸切無調整			柱状高台 墨書「ウ」
7-42	3	130	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	高台付坏	5.1	15.2		5.6	6.6	2.7	3.0	回転糸切無調整			柱状高台 胎土に酸化鉄わずか含む
7-43		75	RD008 (RD002)	—	A	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「ウ」
7-44		132	RD008 (RD003)	—	検出面	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「ウ」
7-45		100	RD008 (RD002)	—	A	土師器	甕	—	22.0		—		—	—		下部ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面口縁部内黒・体部とび黒 底部網代痕
7-46		14	RD007 (RD001)	SWB区	A	あかやき	坏	—	—		5.9		—	—	回転糸切無調整			墨書 体部「万」 底部「上」

8-47		44		M-3	Pit1	あかやき	坏	4.5	12.2		5.4		2.3	2.7	回転糸切無調整			胎土に金雲母・わずかに微化軟含む　口縁部外面に焼成前ヘラ状工具で調整
8-48		88		G-6	Pit1	あかやき	坏	3.7	12.7		5.9		2.2	3.4	回転糸切無調整			焼成良好　内面水引き間かい
8-49		59		M-8	Pit2	あかやき	坏	3.5	11.9		4.7		2.6	3.4	回転糸切再調整			胎土に金雲母・わずかに微化鉄含む
8-50		4		G-5	検出面	あかやき	坏	4.3	11.8		4.2		2.8	2.7	回転糸切無調整			
8-51		28		H-7	検出面	あかやき	坏	3.7	12.2		4.7		2.6	3.3	回転糸切無調整			ヘラ状工具使用か　1/4 残存
8-52	2	181		N-7	検出面	あかやき	坏	3.6	11.8		4.8		2.5	3.3	回転糸切無調整	内底面ヘラ状工具で調整		
8-53		29		H-7	検出面	あかやき	坏	4.4	13.4		5.8		2.3	3.0	回転糸切無調整			胎土に金雲母含む　1/3 残存
8-54		201		N-9	検出面	あかやき	坏	3.5	12.3		5.0		2.5	3.5		内底面ヘラ状工具で調整		胎土に金雲母含む　1/5 残存
8-55		5		G-5	検出面	あかやき	坏	3.3	12.4		5.2		2.4	3.8	回転糸切無調整			
8-56		3		G-5	検出面	あかやき	坏	4.8	12.8		4.8		2.7	2.8	回転糸切無調整			口縁部の一部に炭化物付着　内面底部付近うすくスス付着
8-57		20		G-7	検出面	あかやき	坏	4.4	13.5		6.0		2.3	3.1				表面マメツ（二次焼成？）　胎土砂粒含む，黒
8-58		6		G-5	検出面	あかやき	坏	4.2	13.3		5.8		2.3	3.2	回転糸切無調整			胎土に金雲母含む
8-59		27		H-7	検出面	あかやき	坏	4.0	12.8		6.3		2.0	3.2	回転糸切無調整			
8-60		318		S-9	検出面	あかやき	坏	4.8	14.6		7.8		1.9	3.0	回転糸切無調整			
8-61		97		L-6	検出面	あかやき	坏	4.8	15.3		6.3		2.4	3.2	回転糸切無調整			内面底部焼成後穿孔　2/3 残存
8-62		212		O-3	検出面	あかやき	坏	4.7	15.4		5.4		2.4	3.3	回転糸切無調整			墨書「？」　体下部回転ヘラケズリ再調整
8-63		284		R-6	検出面	あかやき	坏	—	—		5.2		—	—	回転糸切無調整			墨書「？」
8-64		238		O-10	検出面	あかやき	高台付坏	—	—		—	9.8	—	—				高台　胎土に金雲母含む
8-65		104		L-7	検出面	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「？」
8-66		170		N-4	検出面	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「？」
8-67		198		N-9	検出面	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「？」
8-68		199		N-9	検出面	あかやき	坏	—	—		—		—	—	回転糸切無調整			墨書「？」
8-69		77		R-3	Pit2	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「？」
8-70		297		R-10	検出面	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「？」
8-71		344		—	表土	あかやき	坏	—	—		—		—	—				墨書「？」
8-72		273		O-9	検出面	あかやき	耳皿	—	—		—		—	—				

第５表　大宮北遺跡　出土土器一覧



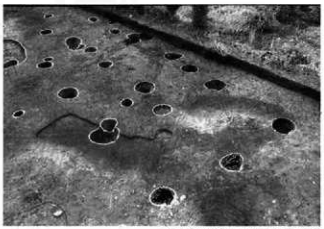
図版番号	写真図版番号	遺物番号	竪穴住居番号	遺構名	出土地点 平面位置	層位	形態 区分	形態 器種	法量 (cm) 部位 高	口径 長	口径 短	体径	底径 長	底径 短	調査 (h：ハード、s：ソフト) 現存部	外面	内面	底部切糸痕か	備考
13-2		9	8	RA019	SW	B2	赤中色	坏	5.1	(14.5)			(6.8)		口～底	体部外面磨雲	内面スス	回転糸切	
13-5		17	8	RA019	—	B1	土師器	皿	—	—		(20.6)	—		体	黒色処理 ヘラミガキ	黒色処理 ヘラミガキ		
13-3		20	8	RA019	NE	A2	土師器	坏	—	—			6.0		体～底	墨書 体下指手持ヘラケズリ	黒色処理 ヘラミガキ	回転糸切	ロクロ
13-4		22	8	RA019	NE	A2	赤中色	坏	—	—			—		口～体	体部外面凹骨か？			小礫片
13-1		27	8	RA019	SE	A2	須恵器	坏	4.3	(15.0)			(5.4)		口～底	体部外面墨書「万」		回転糸切	
15-7		3	8	RA020	SE	K	須恵器	蓋	—	—			—		口				小礫片
15-7		26	8	RA020	左ソデ	J	赤中色	坏	—	—			(6.4)		体～底			回転糸切	
15-6		27	8	RA020	右ソデ	K	赤中色	坏	4.7	(14.0)			(5.0)		口～底			回転糸切	
15-6		31	8	RA020	右ソデ	N4	赤中色	坏	4.7	14.0			6.8		口～底			回転糸切	
15-8		33	8	RA020	カマド⑤－4	H6	赤中色	坏	—	—			(6.8)	(6.6)	体～底			回転糸切	
15-12	3	35	8	RA020	カマド⑤－4	H1	赤中色	甕	—	19.0			—		口～体	体ヘラケズリ	体ヘラナデh		
15-13	3	72	8	RA020	NE	B1	赤中色	甕	—	20.0	18.4		—		口～体				ゆがみ
15-3		100	8	RA020	NE	A1	信恵器	坏	—	15.4			—		口～体				
15-4		108	8	RA020	右ソデ/結節部	埋土	赤中色	坏	5.2	(13.4)			(6.0)		口～底			回転糸切 マメツ	
15-2		112	8	RA020	右ソデ/結節部	埋土下	須恵器	坏	—	—			(6.2)		体～底			回転糸切	
15-10	3	115	8	RA020	土師No.1	H6	土師器	坏	5.2	15.0			6.4		口～底		内黒トビ ヘラミガキ	回転糸切	根荒底あり ロクロ
15-11	3	119	8	RA020	—	崩壊土	土師器	坏	6.7	16.4			6.0		口～底		黒色処理 ヘラミガキ(ヨコーケテ)	回転糸切	ロクロ
15-9		122	8	RA020	SE	A	赤中色	坏	—	—			(6.0)		体～底			回転糸切	
20-2	4	5	8	RA023	NE カマド	—	土師器	甕	—	22.4	20.0	21.1	—		口～体	ロロコナデ→ヘラナデh 体ヘラナデh→ミガキ	ロロコナデ→ヘラナデh 体ヘラナデh		
20-1		16	8	RA023	—	検出面	須恵器	坏	6.1	(16.0)			(6.4)		口～底	火舞痕(十字)	火舞痕(十字)	回転糸切	
22-2	4	1	17	RA024	SW	床面	須恵器	鉢	7.3	16.0			7.0		口～底	マメツ		回転糸切	
22-1		12	17	RA024	SE	A	須恵器	坏	4.0	(13.2)			(6.8)		口～底	マメツ	ハクリ	回転糸切	
22-3	4	17	17	RA024	—	検出面	土師器	甕	—	19.0			—		口～頸	口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデh	ヘラナデh		
24-1	4	13	8	RA026	SW	表土上層	須恵器	坏	6.6	(14.6)			(6.2)		口～底			ヘラ切	
24-2		20	8	RA026	NW	A	赤中色	坏	6.8	(18.0)			(8.0)		口～底			回転糸切	
28-1	4	2	8	RA027	—	J	赤中色	坏	—	14.0			—		口～体				
28-7		2	8	RA027	NW	A	砥石												砥石
28-4	4	25	8	RA027	SW	底面	土師器	坏	5.1	15.0			5.8		口～底	口一部ヘラミガキ	黒色処理 ヘラミガキ	糸切再→手持ヘラケズリ	
28-2		27	8	RA027	西カマド	底面	赤中色	坏	6.0	13.7			5.0		口～底			静止糸切	ロクロ
28-5	4	39	8	RA027	—	床面	土師器	坏	6.3	15.0			6.8		口～底		黒色処理 ヘラミガキ	回転→ヘラナデh→手持ヘラケズリ	ロクロ
28-3		72	8	RA027	NE	A	赤中色	坏	—	(14.8)			—		口～底				
28-6	4	80	8	RA027	NE 区 Pit①	N	赤中色	鉢	—	—			10.0	9.2	口～底	ヘラナデh→ヘラケズリ	ヘラナデh(タテ→ヨコ)	回転糸切	外面下一底部二次焼成により赤変
30-2		36	8	RA028	NW	貯蔵穴	土師器	坏	—	15.2	13.8		—		口～体		黒色処理トビ		内外マメツ
30-3		41	8	RA028	Pit②	—	赤中色	甕	—	—			(8.0)		体～底	ロクロ→ヘラケズリ	ハケメ マメツ	底外面砂痕	
30-1		42	8	RA028	NW	貯蔵穴	赤中色	坏	4.8	(14.4)			(7.4)		口～底			静止糸切	
34-3	4	1	8	RA029	カマド	K	赤中色	坏	5.3	5.0	14.4	14.0	6.0	6.6	口～底			回転糸切	
34-4	4	8	8	RA029	カマド周辺焼土上	—	土師器	甕	—	20.4			—		口～体	ハケメ→ヘラナデs マメツ	ハケメ マメツ	口縁部ヨコナデ	
34-1		15	8	RA029	NE	H	須恵器	坏	3.9	13.5			8.4		口～底			回転糸切 マメツ	
34-5		17	8	RA029	貯蔵穴①	—	土師器	甕	—	(22.8)			—		口～体	頸部ヨコナデ ヘラケズリ	ヘラナデh		胎土砂粒含ほか
34-2		31	8	RA029	H区	床面	赤中色	坏	4.8	14.6			6.2		口～底	マメツ		糸切再 電気資料	
35-1	5	24	8	RA030	SE	A	土師器	坏	6.9	17.4			7.7		口～底		内黒トビ ヘラミガキ 一部ハケナデ	回転糸切	マメツ
35-2	5	30	8	RA030	NW	A	土師器	坏	—	—			6.6		体～底	マメツ	黒色処理 ヘラミガキ	粗雑ヌキ	
35-4	5	31	8	RA030	NW	A	土師器	甕	—	(20.0)			—		口～体	頸部ヨコナデ ヘラケズリ	ヘラナデh		
35-5		46	8	RA030	NE カマド	検出面	土師器	甕	—	—			(10.4)		体～底	ヘラナデh	ヘラナデh	砂痕(中央部多)	
35-2		1	8	RA031	カマド①	B	赤中色	甕	—	—		21.0			口～体	タタキ→ヘラケズリ	ヘラナデh	雑磨	マメツ
36-1	5	11	8	RA031	ベット②'	A4	赤中色	坏	5.5	4.3	14.7	14.2	6.0	5.5	口～底			回転糸切 マメツ	
36-3	5	14	8	RA031	NE	A	土師器	甕	—	(16.2)			—		口～底	ヘラケズリ 頸部ヨコナデ		マメツ	
36-1	5	1	17	RA039	No.2	床	須恵器	坏	4.5	14.3			7.0		口～底			回転ヘラ切	
36-2	5	2	17	RA039	No.1	床	赤中色	甕	19.7	19.1	18.7	17.2	17.3		口～底	体部ヘラケズリ	カキメ		
95-1		7	17	RA032	SE	埋土下層	須恵器	坏	—	—			5.4		体～底			回転ヘラ切	
95-2		46	8	RB015	—	B3	かわらけ	小皿	—	—			(8.0)		体～底			ロクロ使用	小礫片
95-3		22	8	RG129	—	埋土	かわらけ	大皿?	1.5	(11.5)			(8.0)		体～底			ロクロ使用	マメツ
95-4		36	8	Pit② D24-B18		埋土	かわらけ	大皿	—	—			(6.8)		体～底	マメツ		回転糸切	ロクロ
95-5	5	31	8	Pit② C24-T20		埋土	土師器	甕	—	—			(9.8)		体～底	ヘラナデh	ヘラナデh	木炭痕→砂痕 D類	
95-6		2	8	Pit① RY-100 RX-72		A	砥石												

第6表 小幅遺跡 出土土器一覧

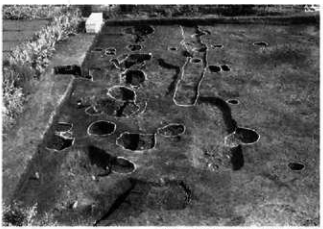
V　写真図版

大宮北遺跡　第８次調査区（西から）

大宮北遺跡　第８次調査区（東から）



大宮北遺跡　第８次調査区
（RB002・003　東から）



大宮北遺跡　第８次調査区
（RB005・006・007　北から）

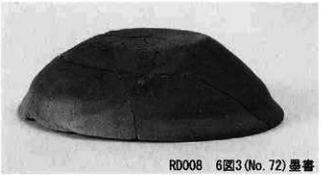
小幅遺跡　第17次調査区（北東から）

小幅遺跡　第17次調査区（南から）

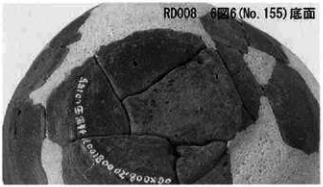
小幅遺跡　第17次調査区
（RA039竪穴住居跡　東から）

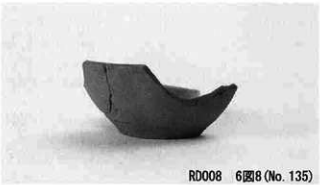
小幅遺跡　第17次調査区
（RX032円形周溝　北から）

RD008　6図3(No. 72)

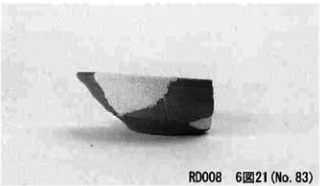

RD008　6図3(No. 72)墨書

RD008　6図6(No. 155)


RD008　6図6(No. 155)底面


RD008　6図8(No. 135)

RD008　6図15(No. 80)


RD008　6図21(No. 83)

検出面　8図52(No. 181)

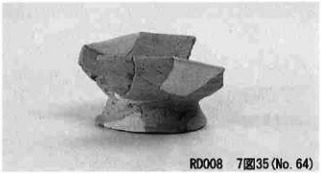
RD008　7図29(No. 44)

RD008　7図31(No. 62)

大宮北遺跡　第８次調査出土土器(1)

RD008　7図32(No. 65)

RD008　7図34(No. 63)


RD008　7図35(No. 64)

RD008　7図41(No. 131)

RD008　7図42(No. 130)

RD008　7図42(No. 130)底面

大宮北遺跡　第８次調査出土土器（２）

RA020 第15図10

RA020 第15図11

RA020 第15図12

RA020 第15図13

小幅遺跡　出土土器（１）

RA023　第20図2

RA024　第22図2

RA024　第22図3

RA026　第24図1

RA027　第28図1

RA027　第28図4

RA027　第28図5

RA027　第28図6

RA029　第34図3

RA029　第34図4

小幅遺跡　出土土器（２）

RA030　35図1

RA030　35図2

RA030　35図4

RA031　36図1

RA031　36図3

RA039　38図1

RA039　38図2

C24-T20　Pit2　95図5

小幅遺跡　出土土器（3）

報告書抄録

ふりがな	もりおかちくいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ　I
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書 I
副書名	盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡　平成5～12年度調査報告① 大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡
編著者名	今野公顕
編集機関	盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館
所在地	〒020 0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1　TEL 019-635-6600
発行年月日	2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
おおみやきたいせき 大宮北遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もりおかかみのまち 本宮字大宮	03201		39度42分26秒	141度7分10秒	8次：2000.06.02－07.10 9次：2000.05.23－06.01	500 792	土地区画整理事業 (盛岡南新都市開発整備事業)
こばはいせき 小幅遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もりおかかみのまち 本宮字小幅			39度41分46秒	141度7分31秒	8次：1998.04.06－11.06 1998.11.01－11.30 12次：1999.09.06－09.30 17次：2000.05.09－05.29	11,655 500 460 365	
みやざわいせき 宮沢遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もりおかかみのまち 本宮字宮沢			39度41分38秒	141度7分40秒	5次：1999.04.21－05.18	1,639	
おにやなぎエーいせき 鬼柳A遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もりおかかみのまち 本宮字鬼柳			39度40分49秒	141度7分25秒	5次：1999.07.22　08.10	1,171	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大宮北遺跡	集落	平安時代 古代	掘立柱建物跡・土坑・小柱穴 溝跡	須恵器・ あかやき土器・ 土師器	10世紀半ばの土器一括廃棄土坑と掘立柱建物跡
小幅遺跡		平安時代 中世 近世以降	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・ 土坑・円形周溝　ほか	須恵器・ あかやき土器・ 土師器	平安時代の集落と，近世の村落
宮沢遺跡		古代以降	溝跡　ほか		
鬼柳A遺跡		古代以降	竪穴状遺構 溝跡・土坑　ほか		

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ
盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡　平成５～12年度調査報告①
大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡

2007年３月30日　発行

発行　盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1
電話 019 635-6600　FAX019-635-6605

印刷　株式会社熊谷印刷
〒020-0066　岩手県盛岡市上田一丁目 6-49
電話 019-653-4151